

# 目根荘 物語

ひねのしら  
ものがたり

いし  
う  
もの  
たち  
意思を継ぐ者達



# 泉佐野市歴史ファンタジーシリーズ①

## 「日根荘物語～意思を継ぐ者達～」

### 目次

・「泉佐野市の歴史をマンガで楽しんでください」	5
・登場人物紹介	6
・この頃、日本は……………鎌倉時代末期	8
・第1部「荘園開発争奪バトル」	10
物語がもっとおもしろくなる歴史ポイント【中世の日根荘】	22
物語がもっとおもしろくなる歴史ポイント【七宝瀧寺と犬鳴伝説】	23
物語がもっとおもしろくなる歴史ポイント【荘園って何だろう？】	38
物語がもっとおもしろくなる歴史ポイント【二枚の荘園絵図】	52
・この頃、日本は……………鎌倉幕府の滅亡	88
・この頃、日本は……………南北朝動乱へ突入	90
・第2部「南北朝大動乱参戦！」	92
物語がもっとおもしろくなる歴史ポイント【南北朝動乱期の日根野道悟の活躍】	124
・その後の日根荘	188
・年表	189
・おまけ4コマ	190
・主な参考図書・資料	193

マンガ作画：松野義巳    監修：井田寿郎 廣田浩治

いづみさのし れきし  
泉佐野市の歴史を  
たの  
マンガで楽しんでください

いづみさのし にほんいざん ひめねのし  
泉佐野市の日本遺産「日根荘」のストーリーを  
いづみさのし しょうがくねん しょう わ やす しゅうかい  
小学校中高学年の児童にも分かり易く紹介する  
まんがどくほん かんせい  
漫画読本が完成いたしました。

ひめねのし  
「日根荘」は、「ひねのしょう」と呼ばれ、  
きょうと じょうきゅうしゆき ぐさか じゅう じょう じょう  
京都の上級貴族九条家が鎌倉時代につくった荘園です。

しゅうらん  
荘園は、住民の共同体であり、  
ちゅうせい  
中世に生きた先祖の地域社会そのもののことを言います。

このシリーズでは、いま ちゅうせい から かわらぬ ふうけい を みる ことが できる  
泉佐野の荘園が、どうのように成立し、受け継がれてきたのか、

いづみさのし れきし わらわし  
泉佐野市の歴史に、マンガらしい面白さで  
アレンジを加えたファンタジー作品に仕上げました。

日本遺産日根荘推進協議会 会長 八島 弘之

発行者

日本遺産日根荘推進協議会（泉佐野市教育委員会 文化財保護課内）  
〒598-8550 大阪府泉佐野市市場東1丁目295-3  
TEL.072-147-6766

事業名

令和2年度「観光拠点整備事業」



第1部  
「荘園開発競争バトル」

登場人物

ワタル (小学生)

主人公。令和の小学生。中世の白根荘へタイムスリップしてヘビの魔物と戦う。ヘビを退治して現代に戻るが、高校生の時に再び過去へ行き、復活したヘビとバトルを繰り返す。

ワタルを過去へ誘い、共にヘビと戦う。七宝瀧寺の不動明王に仕える犬鳴山義犬伝説の化身。

イヌナキ

実専

九条家から荘園開発を任せられた西大寺の僧。中原一族と対立する。

源兼定

白根荘の支配を任せられた京都の貴族。幼い頃から盛治を可愛がっている。

中原盛治

白根荘の荘官を務める中原一族の嫡男。冷酷で支配的な父とは違い、荘園に暮らす人々と白根荘を愛している。南北朝動乱期には白根野道悟と名乗る。

中原盛経

盛治の父。一族繁栄のため電神から力を得るのだが…。

第2部  
「南北朝大動乱参戦！」

物紹介

ワタル (高校生)

時盛の家臣

日根野の武士達。  
頼れる仲間でもある。

中原時盛

盛治の息子。  
南北朝動乱期に北朝  
側について戦う。ワタル  
と最初に会った時は元服  
したてだったが、立派  
な武士へ成長。

日根野道悟

ヘビ

恨みや妬みなど  
醜い感情が好物。  
人間を操って乱世を  
生み出そうとする。

# この頃、日本は……

## 鎌倉時代末期

物語の主人公がタイムスリップした14世紀の初め頃(1315年)は、まさに鎌倉幕府が終わりを迎えようとしていた時期でした。思わぬ外敵の襲来、武士たちの不満、新興勢力の台頭など、幕府滅亡の要因となったのは、どんなものだったのでしょうか？

幕府への  
武士(御家人)の  
不満が爆発  
で訴に!?



1185年、平氏が壇ノ浦で源氏に滅ぼされました。その後、源氏の源頼朝は後白河法皇から国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置する権利を手に入れ、1192年には征夷大将軍に任命されて鎌倉に幕府を開きます。将軍は御家人を各荘園の地頭に任命して土地の権利を保障し(本領安堵)、新たに所領を与え(新恩給与)、一方、そのような「御恩」に対して御家人は、有事の際には将軍のために戦闘に参加し、平時は治安維持に務める「奉公」をしました。そのような将軍と御家人との主従関係が「封建制」で、鎌倉幕府の根幹となりました。1221年にはまだ力を持っていた朝廷と幕府との間に争いが起こり(承久の乱)朝廷が敗北します。その後、東国出身の地頭が畿内・西国に新たな所領を持つようになると、地頭の「荘園侵略」が進み、荘園領主たちはこれに対抗します。しかし鎌倉時代後半には、荘園領主が地頭に年貢納入を約束させ、かわりに荘園の支配権を譲る「地頭請」の契約を結ぶ、荘園の半分を地頭に分け与えてお互いの支配権を認め合う「下地中分」などの取り決めをするようになりました。1274年と1281年の2回に渡りモンゴル民族の大帝国・元による攻撃を受け(元寇)、なんとか元軍を退けることができましたが、元寇で戦った武士は幕府から御恩を与えられなかったことに不満をため込みました。

幕府を支える  
武士達だよ



### 御家人

将軍と主従関係を結んだ武士のことを御家人といいます。御家人は鎌倉幕府から本領安堵や新恩給与などの保護を受け、地頭や守護に任命されました。守護は各国内に一人ずつ配置され警備を担当し、地頭は荘園や公領など土地の管理や年貢の徴収をしました。

# 第1部「荘園開発競争奪バトル」編

## 元寇

元のフビライ=ハンが日本に服属を要求しましたが、8代執権・北条時宗が拒否したため、元から2回の襲撃にあいました。1274年の最初の襲撃を「文永の役」と呼びます。元軍は博多から上陸し日本軍は苦戦しますが、暴風雨で船に損害を受けた元軍は撤退していきます。1281年の2回目の襲撃は「弘安の役」と呼びます。またも暴風雨で損害を受けた元軍は壊滅し撤退します。

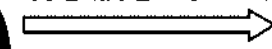
武士の  
幕府に対する  
不満が高まる

2回の元寇による幕府、3回目の元寇に備え、御家人の負担が重たかったが、幕府は元の侵攻を防いだけれど新たに土地を得られず、御家人へ恩賞を与えることができませんでした。「御恩」と「奉公」で成り立っていた封建制が崩壊し、御家人達は不満をため込んでいきます。



将軍

御恩(領地を与える)



御家人



奉公(将軍のために戦う)

このシステムが  
機能しなかったんだよ

幕府は約束を  
守れなかったんだね...  
それはガッカリだね



## 悪党(非御家人)の台頭

元寇の頃から、畿内や京都周辺では地頭や御家人ではない新しい武士たちが台頭してきます。これらの武士は「悪党」と呼ばれました。悪党は武力を行使して集団で物資を略奪するなど、荘園領主や幕府に対する反抗を繰り返していました。悪党という新しい武士の勢力の台頭は鎌倉時代後期の大きな変化のひとつです。

しょうえんかいほつそうだつ  
第1部「荘園開発争奪バトル」



りゅうじんさま  
龍神様

りゅうじんさま  
龍神様

ゴッゴッゴッ  
われらちゅうげん  
はんさくを  
おとづねください



.....

よかろう

あなたたちちゅうげん  
ちからをあたえる



大阪府泉佐野市  
日根荘遺跡



見ろ ワタル!

あれが  
日根荘だ!

ここには約800年前の  
中世の景色が  
広がってるんだぞ

ワタル

家からちょっと  
来ただけで

スゴイ  
だろー?

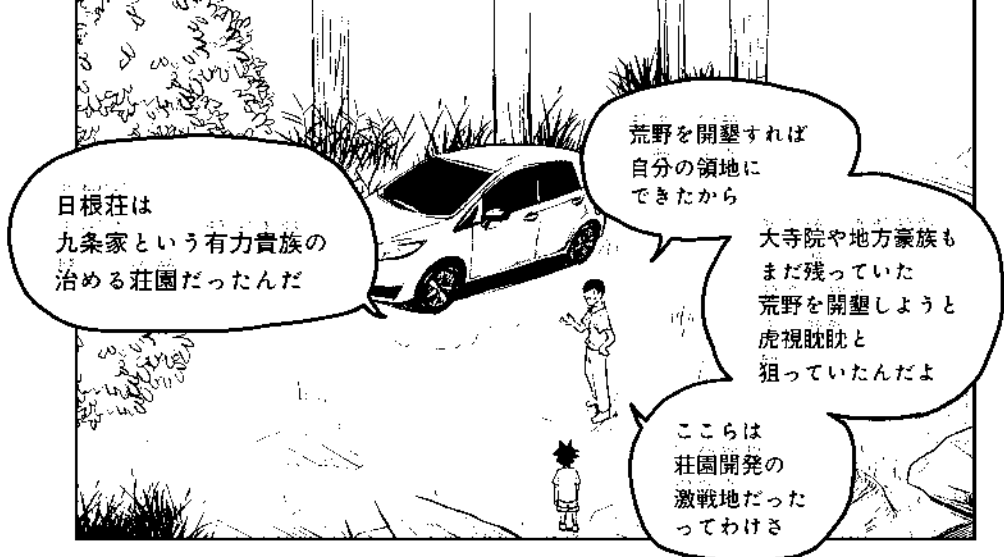
こんなド田舎に  
なるってことしか  
わからねえよ

ド田舎とは  
見る目が  
ないなあ

ワタルは  
もっと地元の歴史を  
知らんといかんぞ

日根荘は  
日本遺産に  
認定されてる

世界にも誇れる  
歴史的価値があるんだぞ



日根荘は  
九条家という有力貴族の  
治める荘園だったんだ

荒野を開墾すれば  
自分の領地に  
できたから

大寺院や地方豪族も  
まだ残っていた  
荒野を開墾しようと  
虎視眈眈と  
狙っていたんだよ

ここらは  
荘園開発の  
激戦地だった  
ってわけさ



荘園!?

荒野?

激戦地?



そうだなあ

ワタルが  
聴いても  
面白い話...



あっあれが  
いいかも

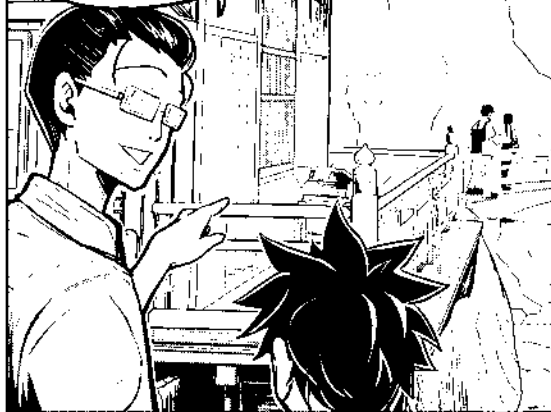
忠義の犬

義犬伝説

いぬなきやま  
犬鳴山  
しちほうろうじ  
七宝瀧寺

ここ七宝瀧寺に  
伝わっている  
伝説で

犬鳴山という  
名前の由来にも  
なってる



昔ある獵師が  
犬を連れてこの山で  
狩りをしていた

獵師が獲物を  
狙っていると

連れてきた愛犬が  
鳴き出し獲物は  
逃げてしまった



義犬ってより  
バカ犬じゃん

まあ聴けって



その犬は主人である  
獵師を狙う蛇に気づき

それを知らせるため  
鳴いていたんだ

しかし  
そんなことは  
知らず

怒った獵師は  
その犬の首を  
斬ってしまった

え!?

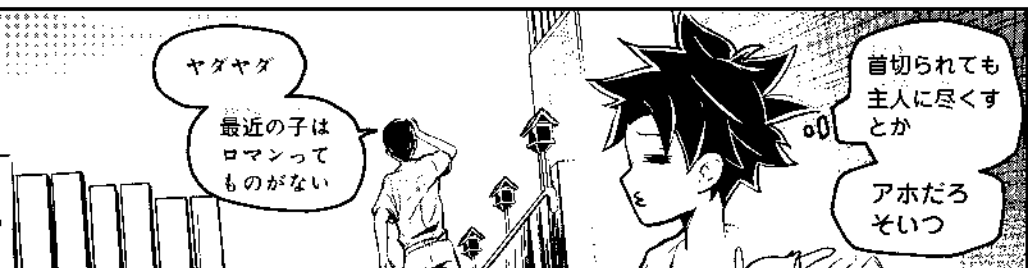
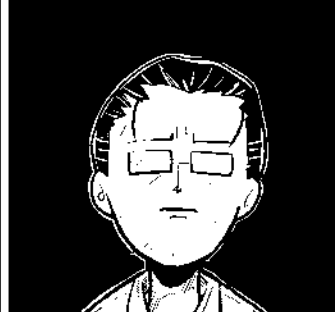
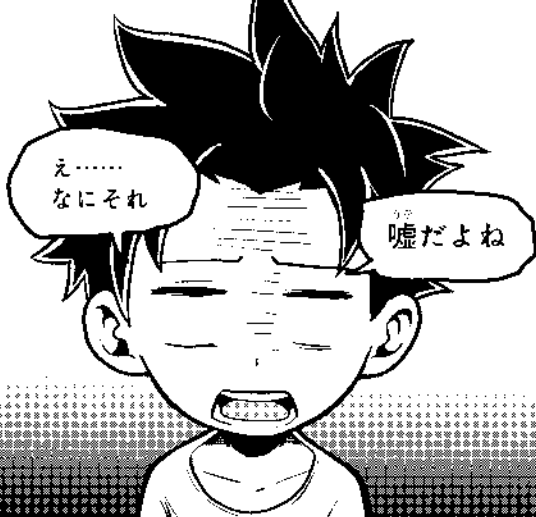


だが……

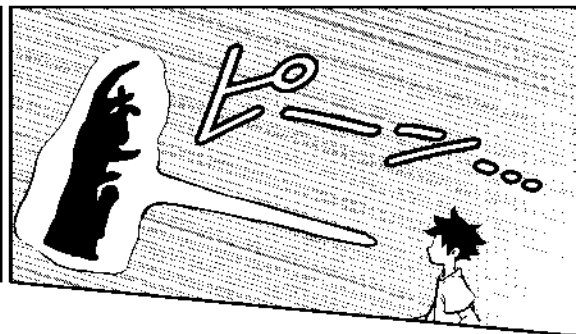
犬は首だけに  
なってもなお

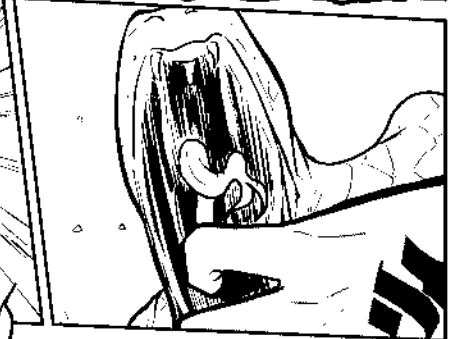
主人を守るため  
へびに噛みついた





※大鳴山は温泉郷としても人気のある観光地です。







選べワタル



…犬?

簡単な  
二択だ



俺の名前を  
知ってる?

なんだ  
こいつ?

それとも

私の助けを借りず  
この毒蛇に  
噛まれて死ぬか

…てか  
助けねえ

私と共に  
過去へ行き

へびと戦って

せかい  
すく  
世界を救うか



世界を救う?

え

俺ここで死ぬの?

死ぬ?

過去に行く?

死にたくねえ…

なんだよあの犬…

死にたく



わかった…  
なんでもする

だから  
助けてくれ…!



交渉成立だ  
ワタル



あれ?

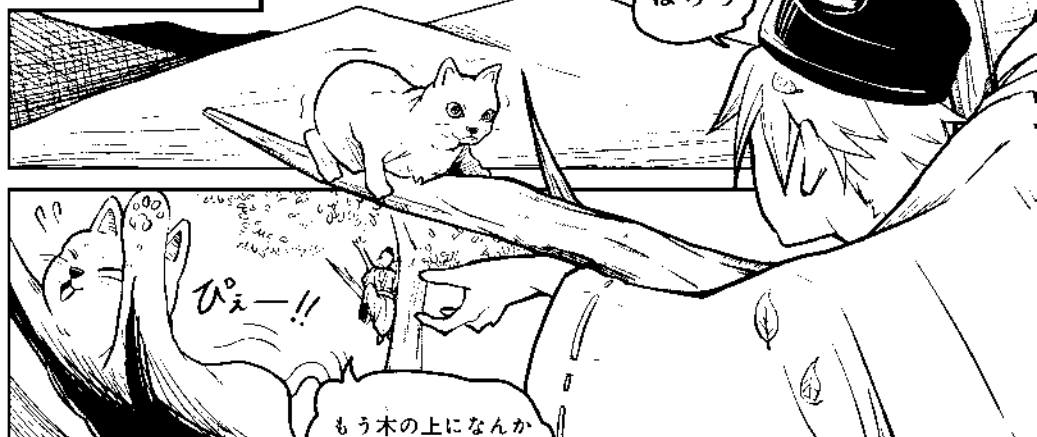
へビは……!?

ワタル  
キミは今から  
私と共に

過去へ行く



14世紀前半



かねさださま  
兼定様…!

よっ

かねさだ  
源兼定

お久しゅう  
ございます!

いつ京から  
戻られたのですか?

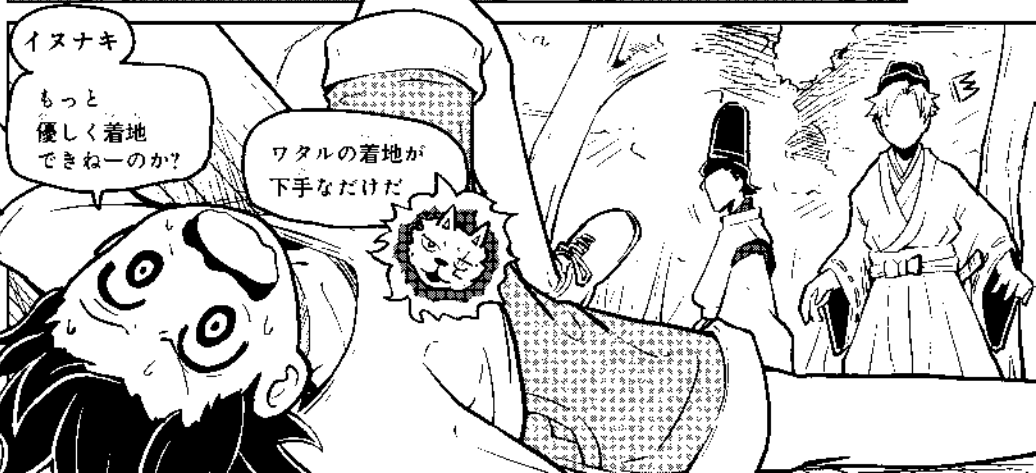
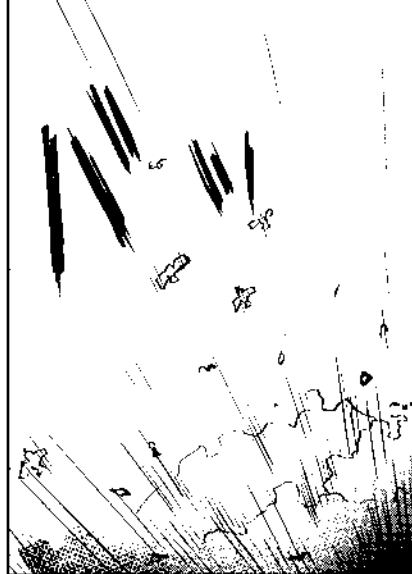
つい先日だ

京の生活は  
息苦しくてな

逃げて来たっ

ハハハ

兼定様も  
おかわりない  
ようで



ものかたり  
物語がもっと  
おもしろくなる  
れきし  
歴史ポイント



## 中世の日根荘

奈良時代から戦国時代にかけて、貴族や寺社が領主となって田畑を開拓した「荘園」と呼ばれる土地がありました。公家の中でも超エリートといえる名家・九条家の荘園として成立した日根荘の移り変わりを追ってみましょう！

### 日根荘の成立

1234年に九条家の荘園として成立。九条家は代々摂政や関白を出しているもっとも有力な貴族のひとつでした。日根荘の範囲は現在の京佐野市のほぼ全域が含まれていました。

マンガ第1巻は、このあたり！



### 日根荘の開発

日根荘が成立した頃は、まだ開発されていない荒野が広がっていました。九条家は何度も開発計画を立て、西大寺の僧・実尊や久米田寺などを使って開発を進めようとした。現地の有力武士の中原一族はそれらと対立し、開発の妨害をしています。

日根荘をめぐって  
いろんな勢力争いが  
あったんだなあ…

### 武士の進出

南北朝時代になると、守護の家来となった地元の武士の勢力が強くなって、さらに戦国時代になると紀州の根来寺も勢力をのばしてきます。九条家は、日根荘に関するいろいろな権利が奪われてしまいました。

### その後は……

戦国時代の初期1501年、一時は日根荘を失っていた九条家ですが、わずかながら日根荘での権利を回復し、かつて関白を努めた九条政基が京都からやってきて直接支配を始めます。しかし、わずか3年の滞在で京都へ帰ります。

それから30年後の1533年までは日根荘に関する最後の史料が残っています。この頃には根来衆の支配下に入っていたと思われます。そして、織田信長、豊臣秀吉によって根来衆の勢力も一掃され、天下統一へ向かうと、荘園もなくなっていきます。

マンガ第2巻は  
あんな騒動が  
舞臺だぞ



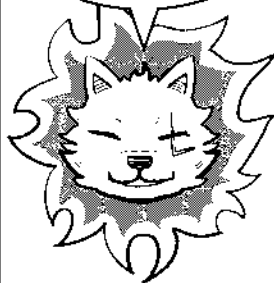
## 七宝瀧寺と犬鳴伝説

物語では、ワタルがタイムスリップする過去への入り口となった七宝瀧寺。温泉、瀧修行、そして義犬伝説でも有名で、泉佐野の観光名所です。



七宝瀧寺は、犬鳴山の山中にある真言宗犬鳴派の大本山です。日本古来の樹木が茂る犬鳴山は「原始の森」とも謳われ、山中を流れる犬鳴川に7つの滝と行場を持つ修験道の霊山でもあります。本尊の俱利伽羅不動明王像は秘仏で一般公開はされていませんが、辰年辰の月（現在の4月）、酉年酉の月（現在の9月）に開帳法要が営まれます。12月～2月を除く毎月第3日曜日は1日修験道体験が行われ、犬鳴山修験大先達の指導のもと境内にある「行者の瀧」での瀧修行などが体験できます。霊験あらたかで、神秘的な犬鳴山ですが、その名前の由来となった義犬伝説でも有名です。そして、犬鳴山温泉は大阪府唯一の温泉郷。美肌作用、神経痛に効果があるそうです。

犬鳴山には  
義犬の墓もあるぞ



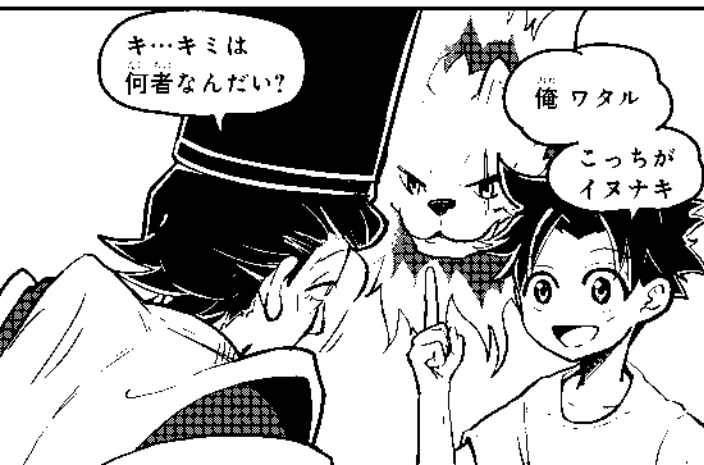
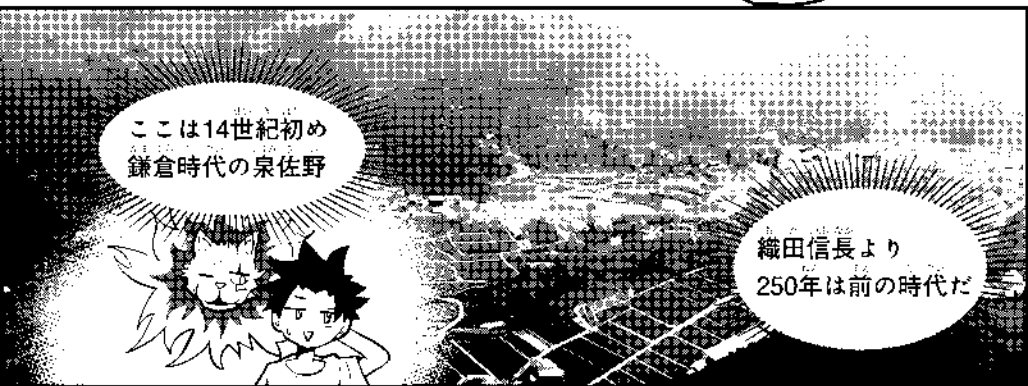
## 犬鳴山義犬伝説

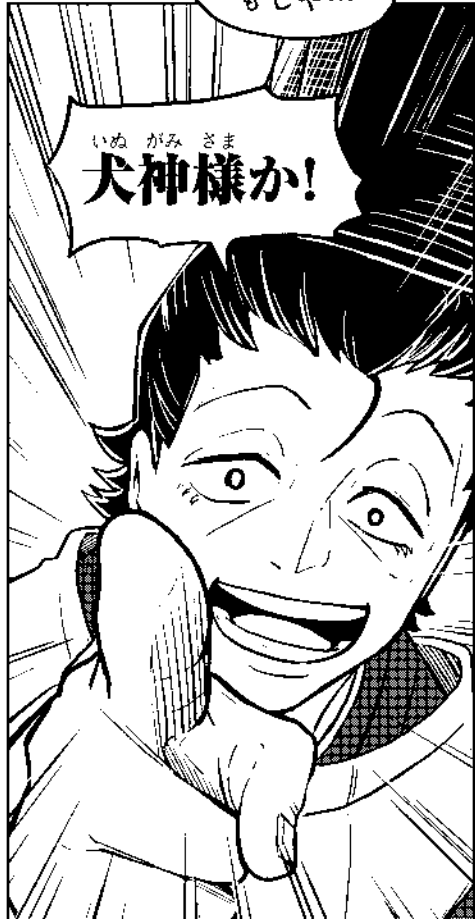
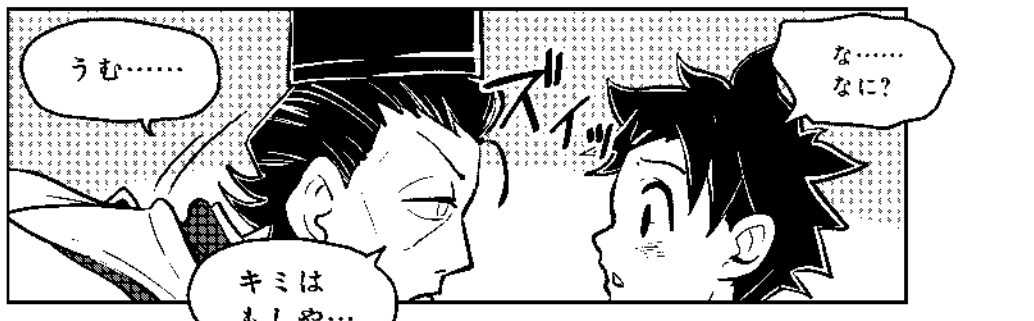


むかしむかし、猟師が愛犬を連れて山へ出かけたときのこと。一頭の大鹿に猟師が狙いを定めたとき、愛犬が突然吠えだして鹿が逃げ出していました。せっかくの獲物を取り逃した猟師は、怒って愛犬の首をはねてしまいます。すると愛犬の首は空中に跳ね上がり、猟師の頭上の木にいた大蛇を噛み殺して息絶えました。愛犬が吠えたのは猟師を飲み込もうと狙っていた大蛇の存在を知らせるためだったのです。これを知った猟師は愛犬を手厚く葬り、自分の行いを悔いて七宝瀧寺で僧となり、後に不動堂を寄進しました。この話は都の帝にまで伝わり、「犬鳴山」の称号が与えられたと言われています。



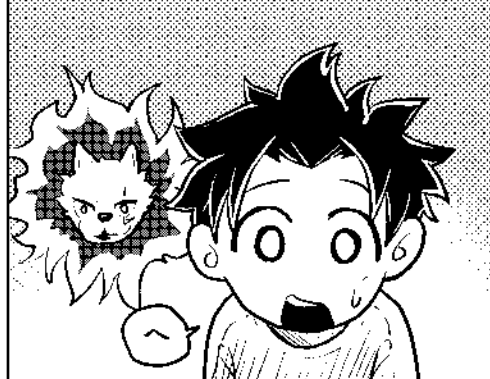
首だけになっても主人を守った!













日根荘は  
九条家という  
貴族がつくったんだ

あ…それ  
父ちゃんが  
言った

でもなんで  
九条じゃ  
なくて

えっと…  
ダイ…ゴ?



領主である九条家は  
京都の有力貴族で

主に政に  
あたっていたため

日根荘の  
支配は  
任せる

任され  
ました

地方の荘園の支配は  
配下の一族に任せた

その一族こそ  
醍醐源氏…  
兼定の一族だ



ほんけ  
本家



りんけ  
領家



小僧  
二度と無礼は  
許さんぞ!

じゃあ  
こいつ  
何なの!?

聞いているのか

兼定の子分  
ってこと?



こ……

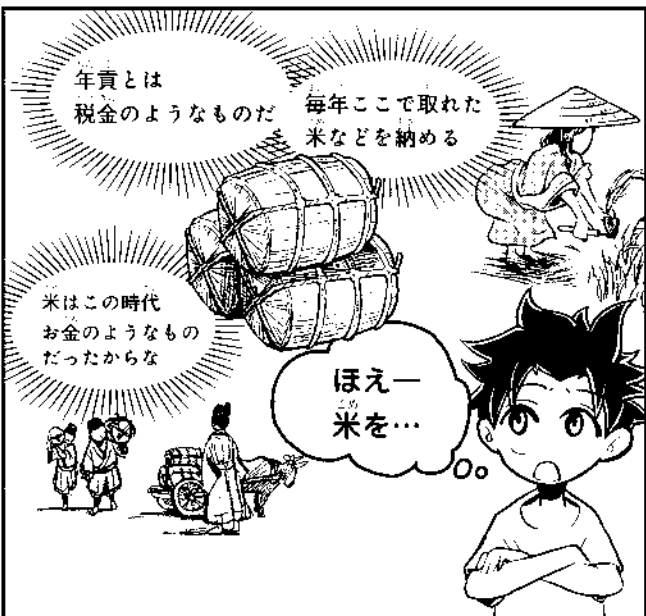
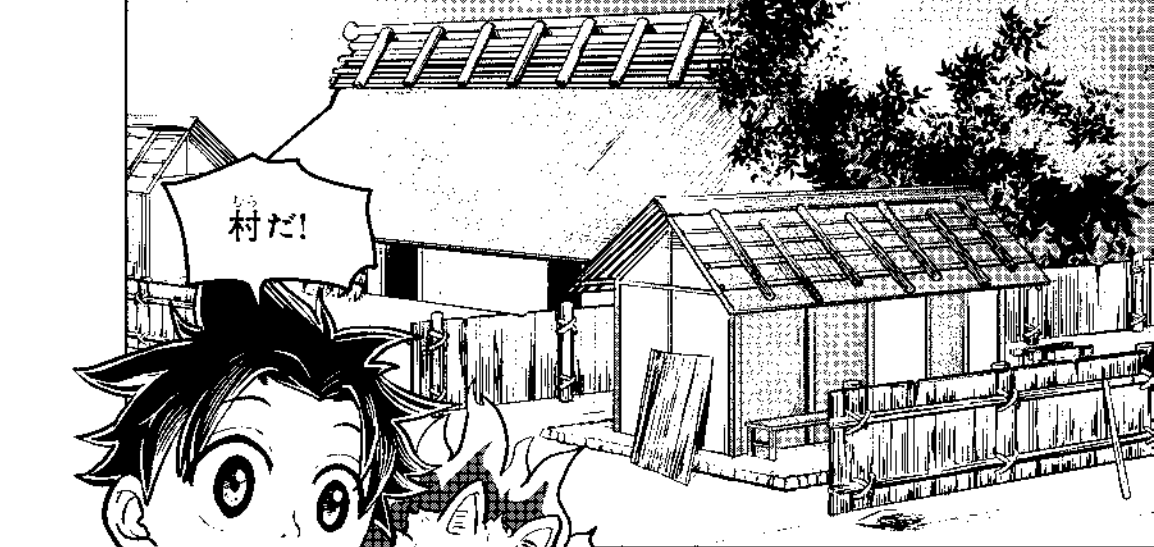
子分とは  
……!!

ハハハ  
やはり  
ワタルは面白い

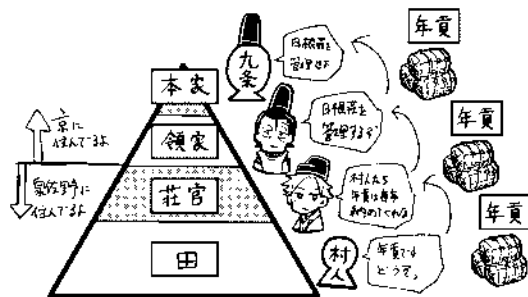


盛治は  
この荘園を  
管理している  
中原家の者だ

そしてこれからの  
日根荘を背負っていく  
男でもある



# 【日根荘の成り立ちとしくみ】



日根荘は、摂政や関白を出している有力な貴族である九条家の荘園として1234年に成立しました。九条家は荘園の開発や運営を、家に仕える醍醐源氏（兼定の一族）に任せ、荘園を現地で管理する荘官には中原氏（盛治の一族）を任命しました。「本家」である九条家と「領家」である醍醐源氏は京都の貴族です。「荘官」である中原氏は現地の有力豪族で、農民（村人）からの年貢の取り立てをするなど、日根荘に暮らす村人と直接的に関わっていました。







盛治の父・祖父  
盛経・盛氏は龍神に  
力を与えられ

中原の領地を  
拡大した

しかしそれは  
土地の略奪に  
等しかった



1277年  
大和の春日社の  
末社神殿を破壊

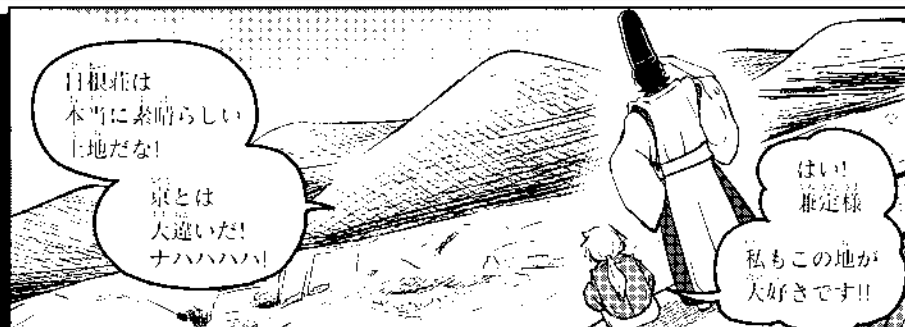
さらには

神人3人を  
殺害するなど

盛氏・盛経父子は、1270年ころに入山田の百姓  
からも訴えられ、1277年には大和の春日神社から  
神人3人を殺害し、28人に刀傷をおわせたど  
遺及されるなどの記録が残っています。

利権争いの  
ライバル達を  
力でねじ伏せるための  
横暴な振る舞いが  
目立ち始めていた

※神人＝神社に奉仕していた人のこと。



白根荘は  
本当に素晴らしい  
土地だな!

京とは  
大違いだ!  
ナハハハハ!

はい!  
兼定様

私もこの地が  
大好きです!!



兼定様…!

この莊園を  
いい土地に…

その手伝いを  
させてください!

中原氏の館

父上…

兼定様からの  
指示もないまま  
勝手に

入山田村の  
年貢量を増やすよう  
要求したそうですね

だから  
どうした

盛治の父  
中原盛経

入山田村の莊官は  
私です!

父上ではない

村人を  
苦しめることは  
しないで  
ください!

盛治よ……

ニヤ-?

お前は



あま  
甘い

!?

父上!

なんてことを…!

この小さな  
生き物にも  
痛みと苦しみが  
ありますぞ!

ニヤ

日根荘の惣検注にも  
応じたそうだな

なぜ  
断わらな  
かったのだ!

**【日根荘惣検注】**

検注は土地の調査のこと。日根荘惣検注とは、日根荘全体の土地がどのような状況なのかを調査するもので、九条家には内緒で開発を進め、そこから得る年貢を自分達一族だけのものとしようと企んでいた中原氏にとっては、検注されるのは不都合なことでした。

私の土地  
どうなってるか  
調べよ

九条



ヤバイ!

荒野の開発の  
ためです!!

開発が進めば  
この地は  
豊かになります

このバカ者  
が…!!



我が九条家の領地で勝手に荒野を開発したのが筒抜けになったわ!

必ずや九条は手を打ってくるぞ

どうするつもりだ!



しかし父上…!

そもそも荒野開発の権利は我々にはないのですから!

領地を任されているのは兼定様です

荘官として兼定様の荒野開発を支えるのが私の務め…



兼定のような下級貴族に毒されおって!



中原は龍神様に選ばれし一族

いずれ兼定の醍醐源氏も追い出し

九条家からこの日根荘を奪い取る!!



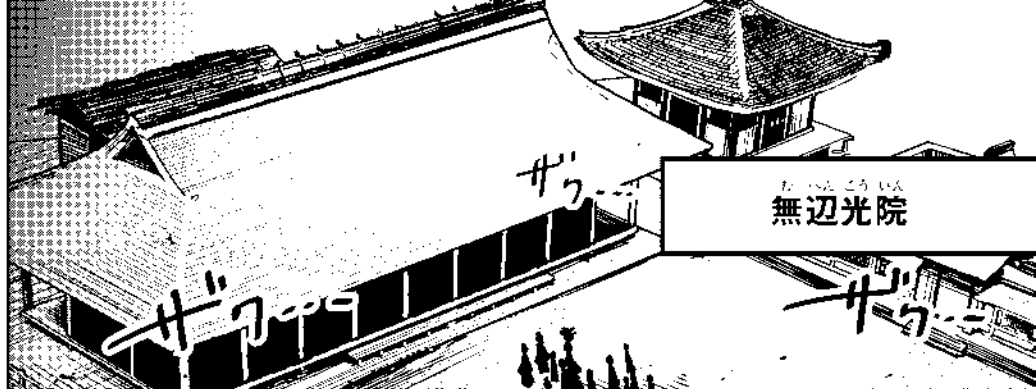
中原は天下の器

もっと気を強く持ちなされ



父上……

そのとおりです若様



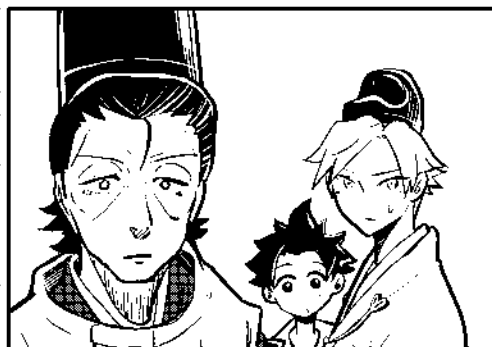
むへんこういん  
無辺光院



集まってく  
うから  
来てみたが

何が  
始まるんだ?

兼定様も  
盛治様も  
いらっしゃるぞ



私は  
西大寺の僧

実専である

じっせん  
実専



九条様から  
日根野荒野の  
開発をするよう  
命を受けた

!!

ものかたり  
物語がもっと  
おもしろくなる  
れきし  
歴史ポイント



## 荘園って何だろう？

物語の舞台となっている中世の荘園。そもそも「荘園」ってなんだろう？ どのようにして始まったのかな？ 納税（年貢を納めること）と深く関わっていた荘園の成り立ちについて、ちょっと勉強してみよう。

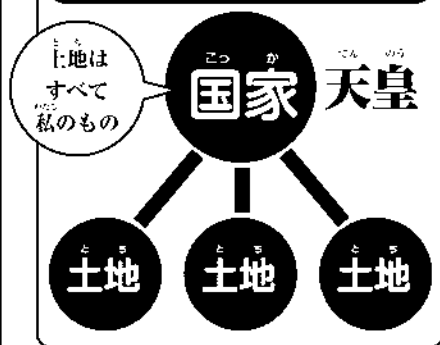
### 初期荘園 奈良時代（8世紀～9世紀）

律令制で治められていた奈良時代の日本は、土地はすべて国家（天皇）のもので【公地公民制】、人民は年貢や労役で税を納めていました。国家は収入源を拡大するために耕作地を増やす計画を立てます。土地のレンタル、3世代限定で開墾地所有の許可などの政策をしましたが、743年に墾田永年私財法を発令して、開墾した土地の永年所有を認めました。これを受け、貴族や大寺院、地方豪族達は、農民や浮浪人などを雇って大規模な開墾を実施し、土地の囲い込みをしました。このような大土地所有を「初期荘園」とよびます。

私有地は  
荘園から  
始まったんだ

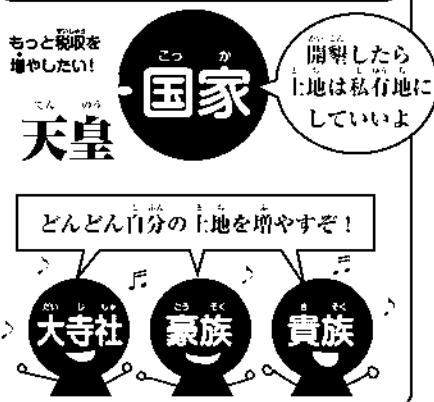


### 公地公民制(646年以降)



全国の人民を戸籍や計帳に登録し、6歳以上のすべての民衆に土地を貸し与えて徴税するシステム【班田収受法(701年)】を作りましたが、民が逃亡するなどして失敗。

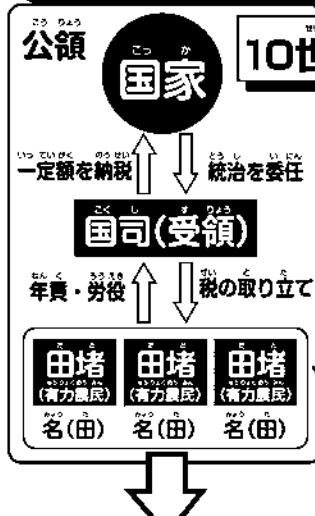
### 墾田永年私財法(743年)



国内に初めて私有地が出現。身分によって所有できる墾田の面積が異なっていました。

## 寄進地系荘園の成立

## 平安時代中期 (11世紀)



税をめぐって受領と田堵が対立!!  
田堵は税を逃げるために  
中央(朝廷のある京都)の権力者に  
自分の領地を寄進する

貴族などの権力者にお礼として年貢を納める方が、国家に納める租税よりも安く、受領の横暴から守ってもらえるので、田堵など有力農民の多くが次々と土地を寄進していきました。

11世紀に入ると、中央の権力者に土地を寄進して権力者の荘園とする有力者(開発領主)が続出しました。寄進を受けて領主になった権力者は領家と呼ばれ、領主が、その荘園をさらに上級の貴族や有力な皇族に寄進すると、上級の領主は本家と呼ばれました。開発領主は、荘官や荘司などの荘園を管理する地位を得て利権を確保し、美質的には寄進した所領を支配していました。そして、開発領主は本家の権威を盾に、受領からの税の免除(「不輸」)や、受領などの立ち入りを認めない特権(「不入」)を政府から承認してもらいます。こうして成立した「寄進地系荘園」は、11世紀半ばには各地へと拡大していきました。



10世紀に課税対象が「人民」から「土地」へと変更しました。公領(国の所有する土地)では、税の徴収を請け負う国司(受領)が一国(国=地域の単位)を支配。受領は田地を「名」という単位に分けて、名での耕作を有力農民(田堵)に請け負わせました。しかし、重税を課して莫大な利益を得ようとする受領も現れます。受領の暴政から土地や我が身を守るため農民が武装をしたのが、武士の始まりだと言われています。

受領は一定額の租税を納める義務だけがあり、結果的に多くの利益を手にすることができました。公領であっても美質は私有地の荘園と変わりませんでした。

## 寄進地系荘園

## 11世紀



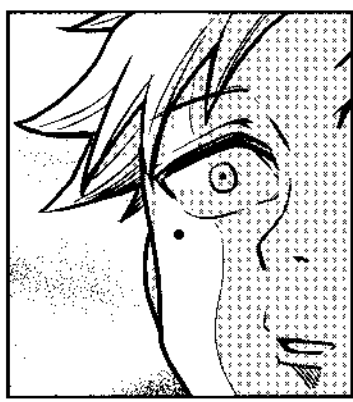
大規模な土地経営に成功した田堵など有力者は、11世紀になると「開発領主」と呼ばれるようになります。





九条様は醍醐源氏と中原に

荒野開発は任せられないと思われたのでしような



イヌナキ

どういうこと?

日根野荒野という大きな荒れ地があって

そこをめぐる開発競争が繰り広げられている



開発って?

簡単に言えば水を運す工事だな

水...?

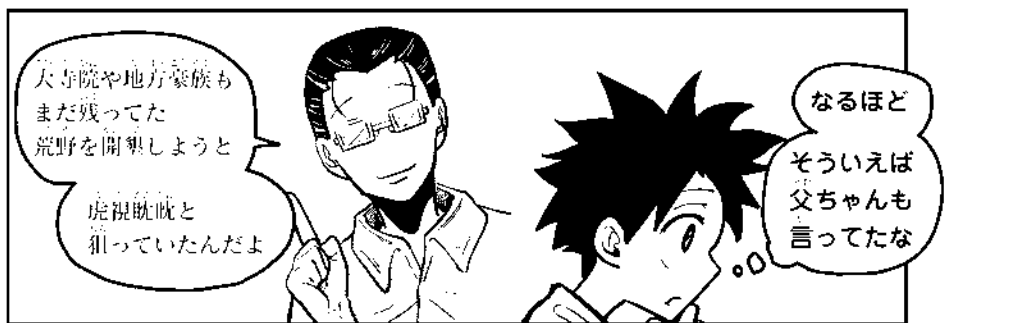
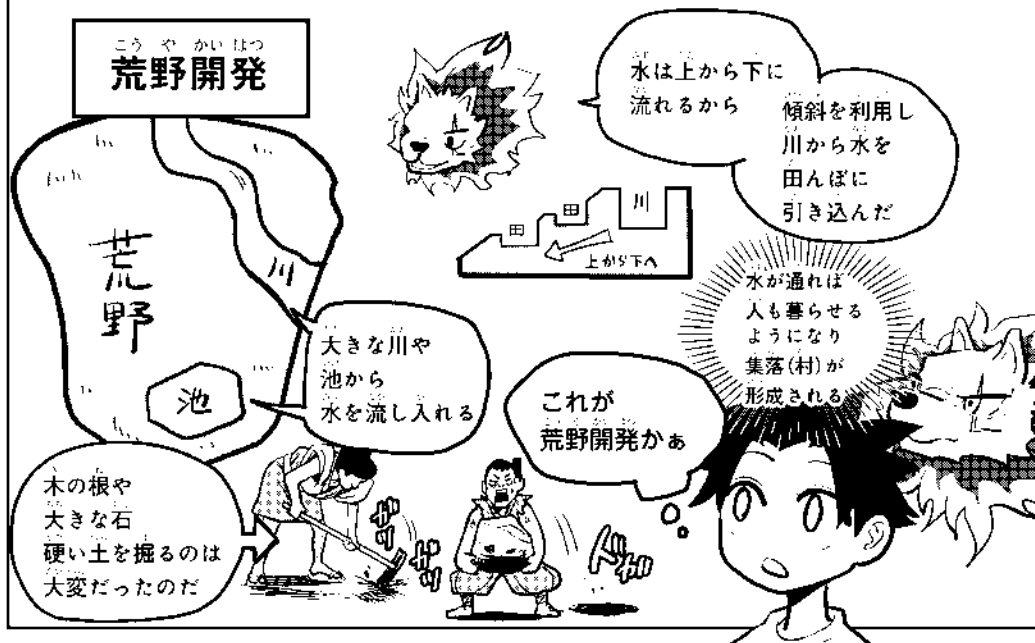


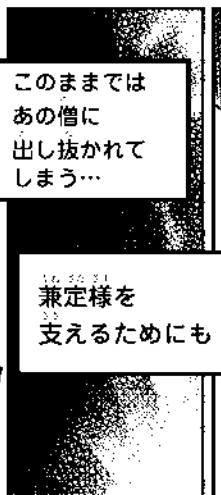
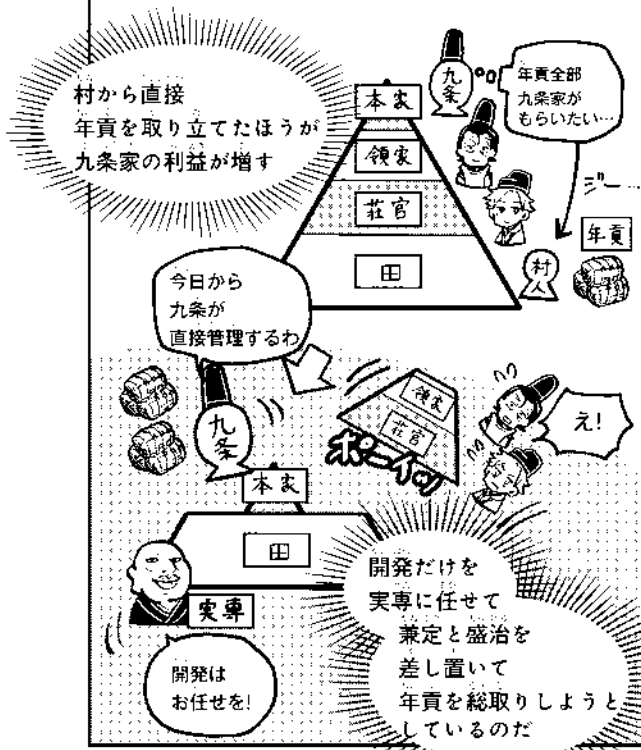
荒野を開発した者がその地を支配できるからな



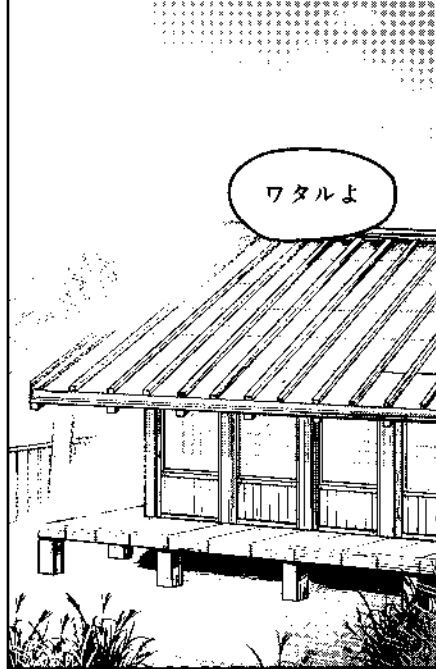
荒野開発とは田を作ることなんだ

米を作るには多くの水が必要だ











新百姓をつれてきて  
ここら一帯の開発に  
着手をさせています

この開発には  
くれぐれも  
口を出されぬよう  
お願いしたい

それを言い  
こうして参った  
次第です

いや  
それは

むり  
無理ですな

西大寺の  
開発技術も

この絵図も  
とても興味深い

が

この地を  
開発すべきは  
あなたではない

この地のこと  
そこに生きる者

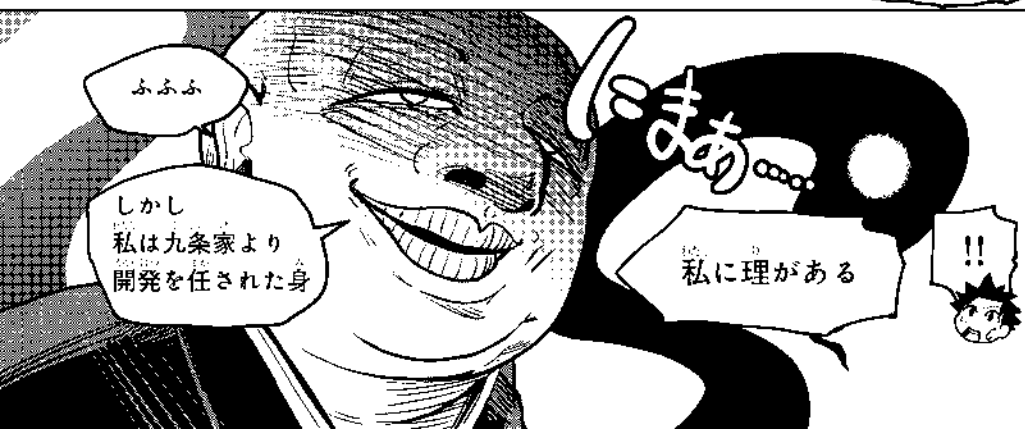
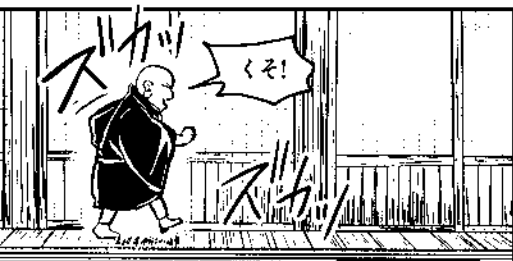
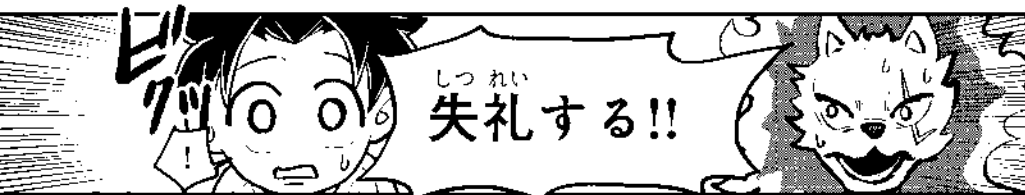
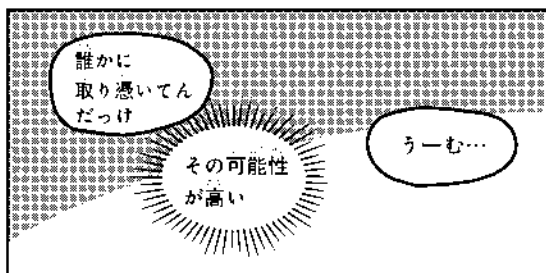
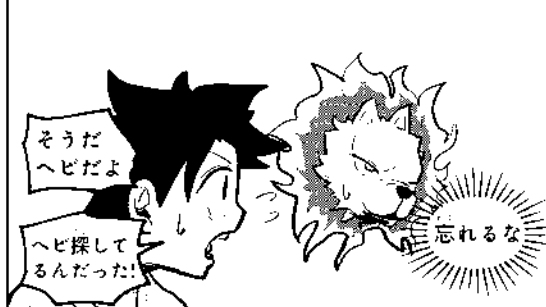
よく知りもしない  
あなたに  
その権利はない

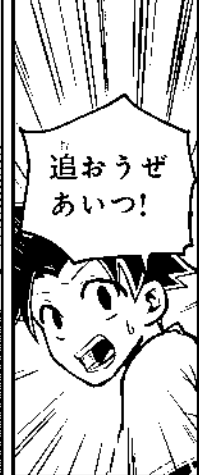
九条様の意向を  
無視すると…?

俺…

トイレ…

ゴザッゴザッ





なぜです…

中原は腐っているも

盛治様だけは違うと思っていた

すまぬ  
皆 すまぬ

だが…

実専よりも早く  
荒野を開発し尽くす

これは覆らぬ  
決定なのだ

イヌナキ

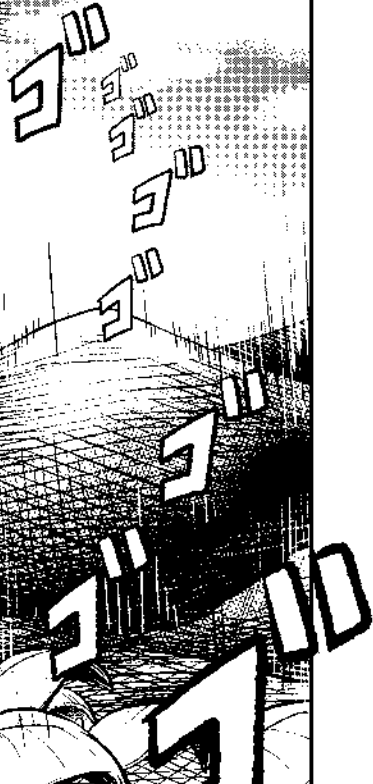
ここって俺達が初めて出会った……

七宝蔵寺だ

ワタル少し下がってろ

वशःशिव  
वशःशिव

वशःशिव  
वशःशिव  
वशः





少年よ  
よく来た

我が名は  
不動明王

!?  
耳の奥で  
声がする…!!



我が剣は  
お主を選んだ

手が!

我が剣  
俱利伽羅龍王剣  
の所有権を  
一時的に  
ワタルへ  
譲渡する



俱利伽羅龍王剣

なんか…  
すげー力を  
感じる

我が主  
不動明王の剣だ

その剣は  
人の欲を断ち切る

それらを糧とする  
へびを倒すことができる



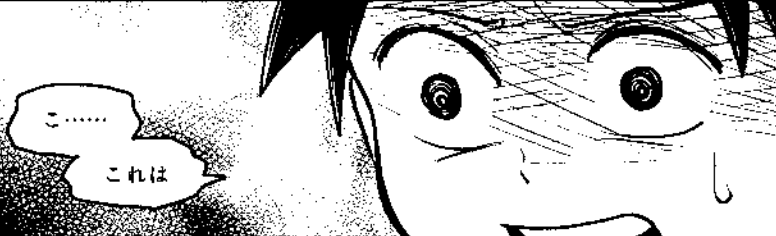
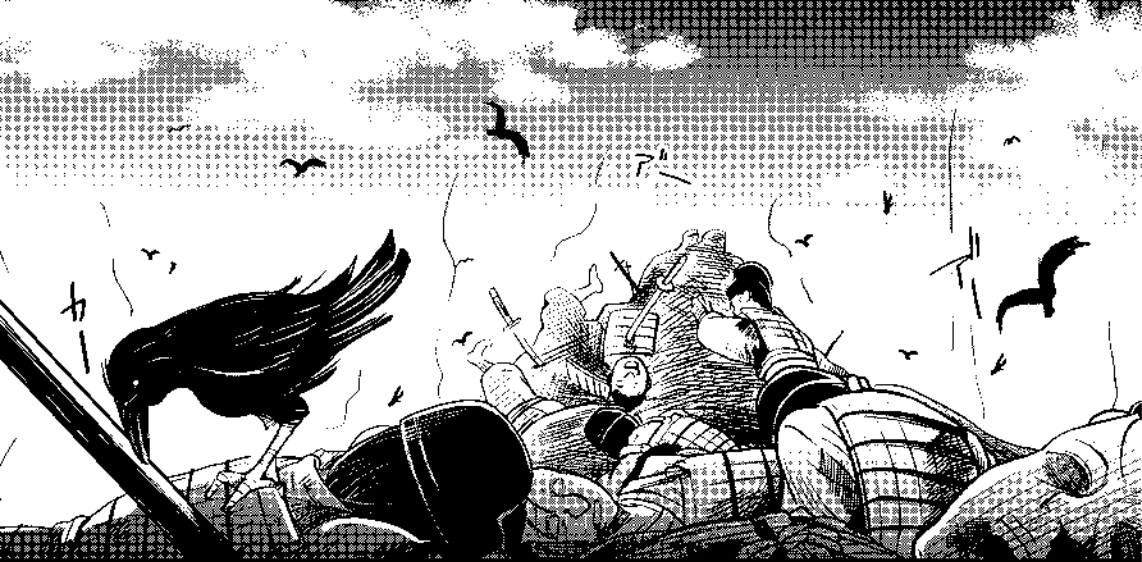
これでへびを  
……俺が?



それってさ  
やっぱ納得できな  
いっていうか



なんで俺が  
コソコソ隠れてる  
へびなんかをさ!



へびを止めなければ 争いは大きくなる		へびは この日根荘を 足がかりに	
この時代だけでは 終わらず	ワタルの時代も こうになってしまう だろう	日本中へ	そして世界を 乗っ取るつもりだ



この世界を  
救えるのは  
ワタル…  
キミだけだ!







どうされましたか?



いや…  
なんでもない

そうだ  
盛治様は

兼定様が実専に  
会われたことは  
ご存じで?



兼定様は  
中原を捨てて  
実専と開発を進める  
つもりなのでは?

ものかたり  
物語がもっと  
おもしろくなる  
れきし  
歴史ポイント



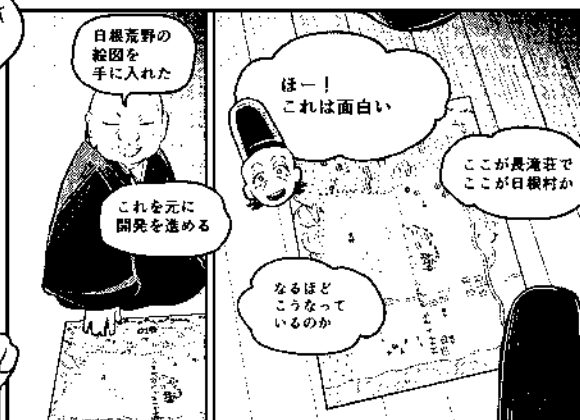
## 二枚の荘園絵図

1234年に日根荘が成立した時には、たくさんの未開の荒野が残されていました。開発を進めるために、領主の九条家は1309年に日根荘の土地の調査に着手し、村の水路やため池、寺社などが克明に描かれた二枚の絵図を作成しました。

開発で最も重要だったのは、井川水路の整備でした。井川は日根神社と慈眼院の間を通り、段丘面に広がる農地を抜けながら十二谷池まで続く全長約2.75kmを高度差わずか3mで流れるように作られました。その緻密で大掛かりな土木工事からは、村人達の血のにじむような努力が伝わってきます。大開発によって発展を遂げた日根荘は、九条家の所有する全国30ヵ所の荘園の中でも、自らが開発した重要な荘園へと成長します。

この絵図と現代の写真や地図とくらべてみると、主要な道や境内地、ため池などが当時とほぼ変わらず、驚くほど一致することがわかります。泉佐野に残る日根荘遺跡は、現代の景観に中世の世界を感じられる、とても貴重な場所になっています。

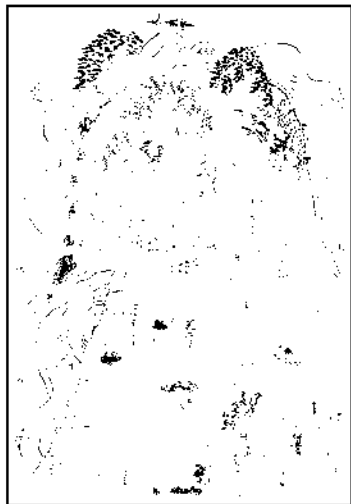
マンガの中にも絵図が  
登場しているよ！



九条家から荒野開発を任じられた実専が、兼定に絵図を見せているシーン。マンガでは、実践が「日根野村・井原村荒野開発絵図」を持っている設定になっています。

# 日根野村 荒野開発絵図

(宮内庁書陵部所蔵)



この地？  
観光地巡りが  
できるかも？

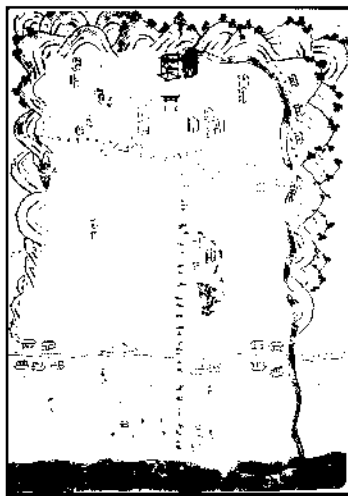


この絵図は日根荘内の村のひとつである日根野村を描いたもので、1316年に作成されました。同じ年に日根野村の荒野開発を久米田寺が請け負っていますが、その時に描かれたものです。この絵図からは、当時の景観や開発に関わるいろいろなことが読み取れます。大井関大明神(現在の日根神社)や穴通(蟻通神社)、丹生大明神(野々宮)などの神社や、上郷や長滝、熊取といった地名が書かれています。丘陵部に並ぶため池のうち甘漬池(尼津池)、八重池(八重治池)、住持谷池(十二谷池)は現存しています。これらのいけによって丘陵部の近辺の開発が進められたと思われます。

# 日根野村・井原村 荒野開発絵図

(宮内庁書陵部所蔵)

上にある日根野村荒野開発絵図よりの少し前の1310年に、西大寺の僧である実尊(実行上人)が日根荘内の日根野村と井原村の開発を請け負った時に描かれたであろうと思われます。日根野村荒野開発絵図よりも広い範囲を描いており、熊野街道の海側も描き、井原や岡本、安松といった地名も見えます。





イヌナキ  
あれなに  
やってんの？

開発の  
一部だな

荒野の一部を  
掘り起こし



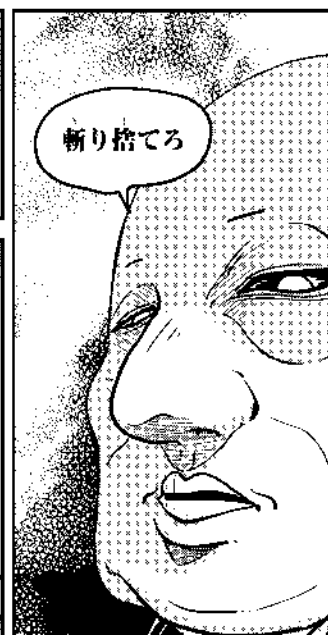
そこに水を通して  
田を作る

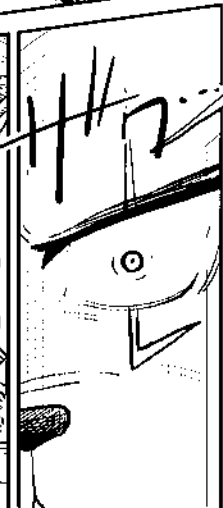
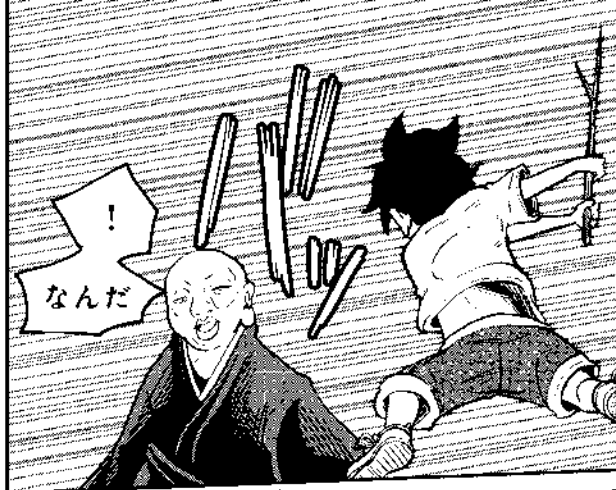
開発は  
何年もかかる  
大仕事なのだ

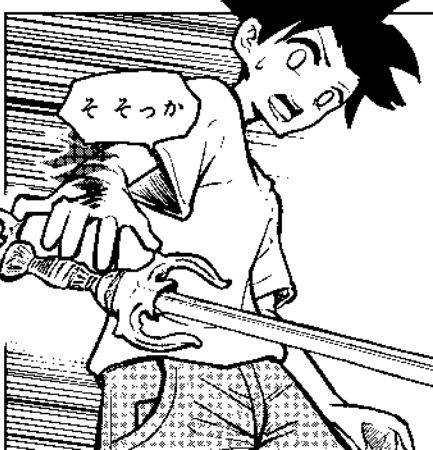
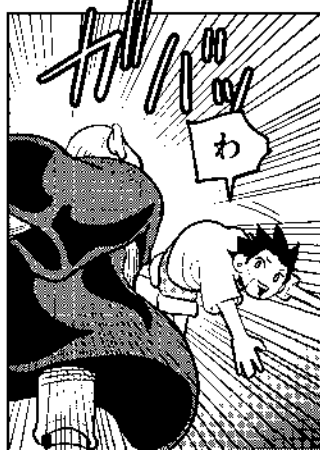
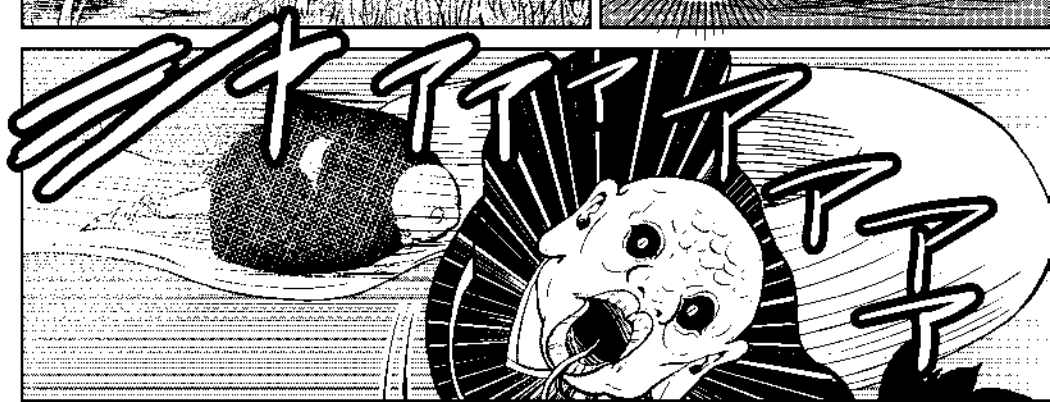
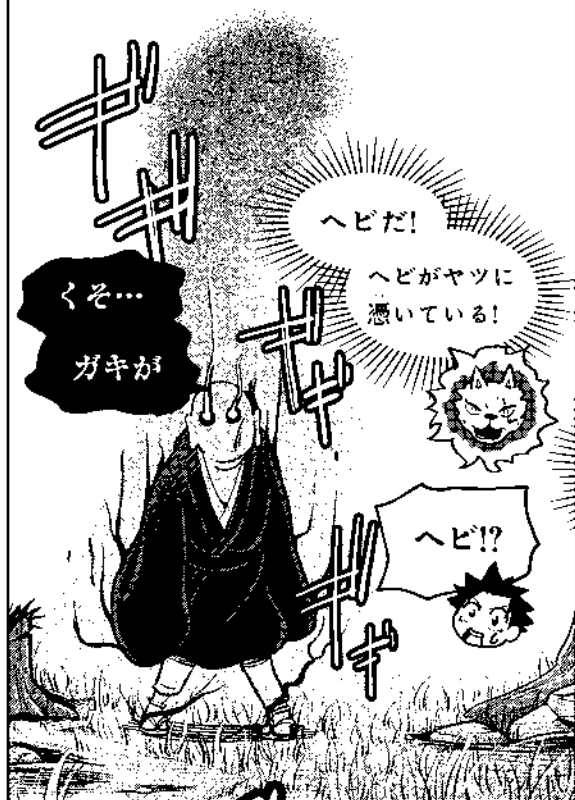
すげー……  
全部手作業

手を止めるな





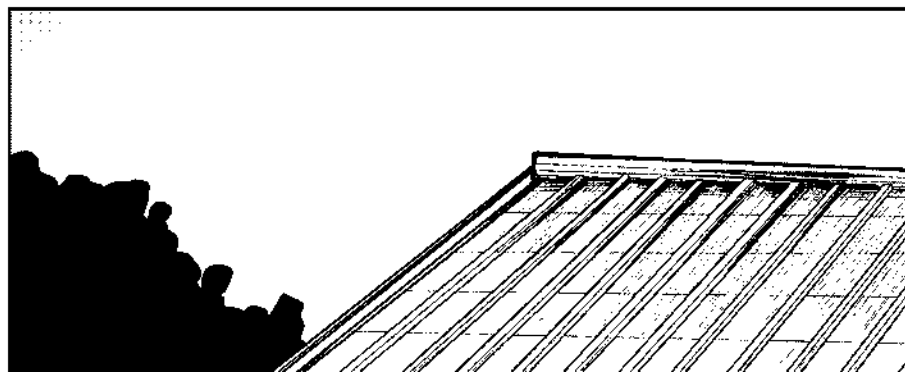




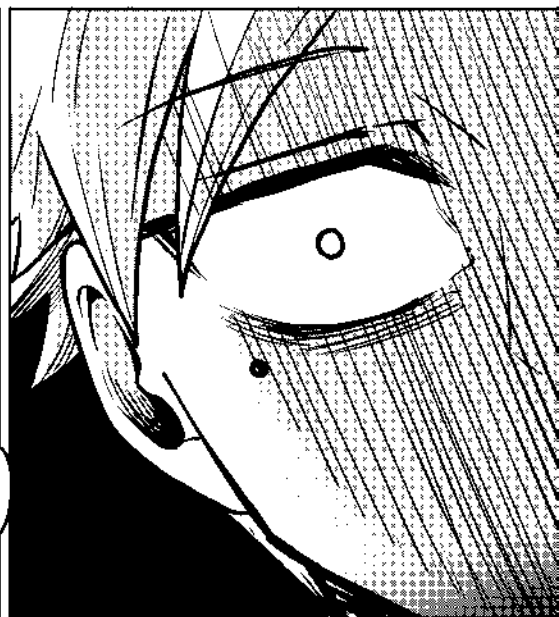
やれ  
ワタル!

ハアアア!

じゅじゅつ  
呪術







まっ 開発は  
我々がすると…

盛治?

父上は  
正しかった

盛治 誰も信じるな

私は信じていた…  
信じていたのに

お前は全てを間違えた

私を信じてくれて  
いると!

誰の言葉も聞き入れるな

私は もう…誰も信じない

私がお前を  
守ってやる!

日根荘を開発するのは…

わたし  
私だ……!



やったぜ かねさだ 兼定  
へびを倒したぜー!



それは  
めでたい

さあ  
イヌナキ

俺はいつでも  
準備はOK!

未来へ  
戻るぜ!

ニラッ……

行こうぜ!



いや待て  
ワタル

何かが  
おかしい

は?



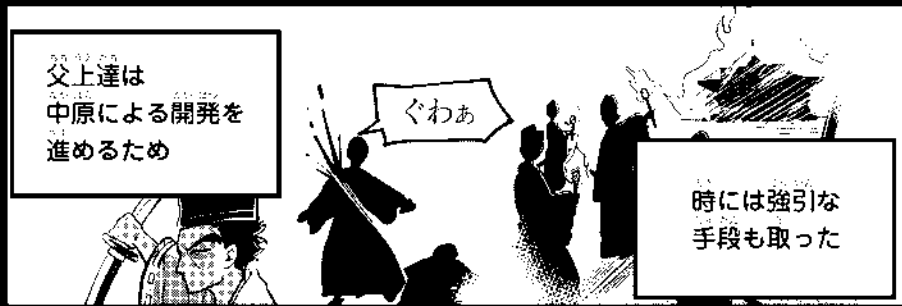
実専様が  
連れてきた  
新百姓の住居に……

盛治様が  
火をかけて  
おります!



かねさだ 兼定様  
大変です!

※中原氏は長滝荘の荘官職を継承した系統と、日根荘を基盤とした  
《盛氏-盛終-盛治》との2つの系統があった。



私の世界は



“闇”そのもの  
だった

そんな時

いい天気だな  
盛治

手を差し伸べて  
くれたのが  
兼定様だった



！  
おじさん…  
僕を知ってるの？

おじさんは  
やめて……



知ってるとも  
キミは中原一族の  
坊ちゃんだ

中原は  
嫌われてる

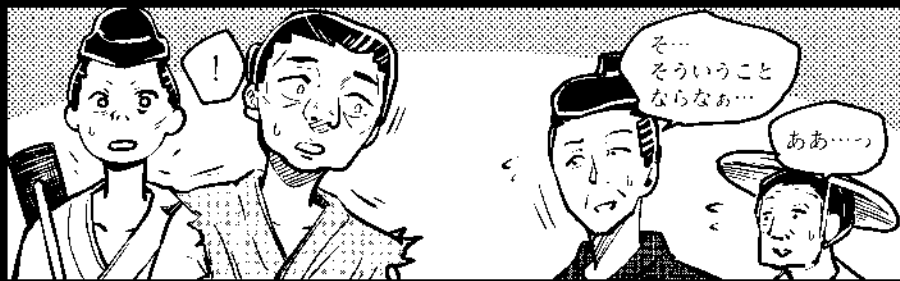
声をかけない  
ほうがいいよ



何を言ってる

私は“盛治”  
キミに声をかけた

中原ではない







私はもう

誰も信じない

二度と……!



実専…九条の  
開発を妨害し

この地を  
私が支配する



ス







なぜだ盛治!?

お前は  
支配者にな  
りたかった  
のか!?



まどわされるな  
兼定はお前を  
裏切った

誰も信じるな  
誰も信じるな



し死にたくない  
お助け…を…



ヤレ!

うう…

ヤレ!



やめろ  
盛治!



1315年  
中原盛治は

実専が開発のため  
招き入れた新百姓の  
住居を焼き払い



殺害した



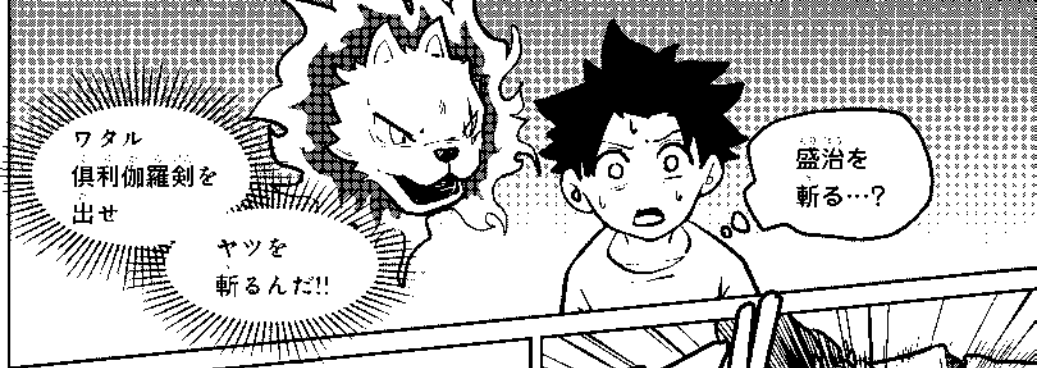
力が…  
湧き上がるようだ

盛治…!

盛治は完全に  
へびに  
乗っ取られて  
しまった

え!?

もう手遅れだ



ワタル  
俱利伽羅剣を  
出せ

ヤツを  
斬るんだ!!

盛治を  
斬る...?



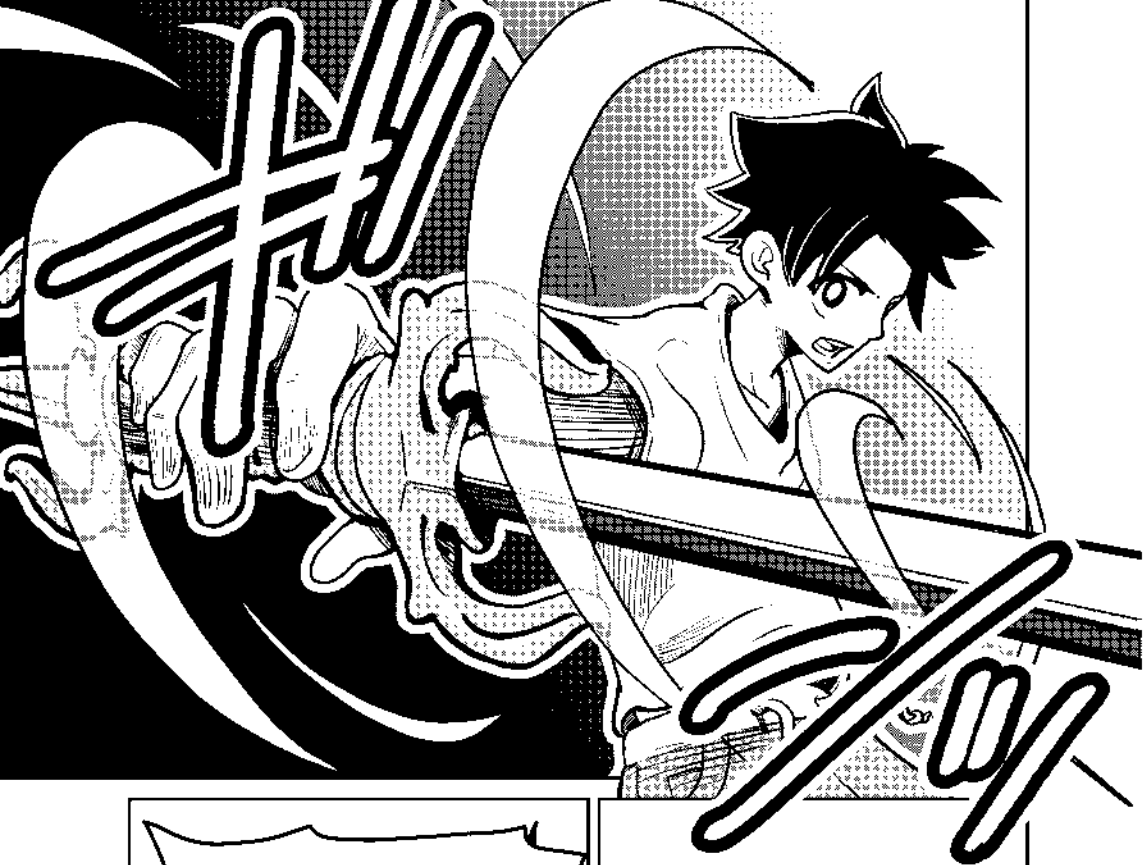
かねさだ  
兼定!

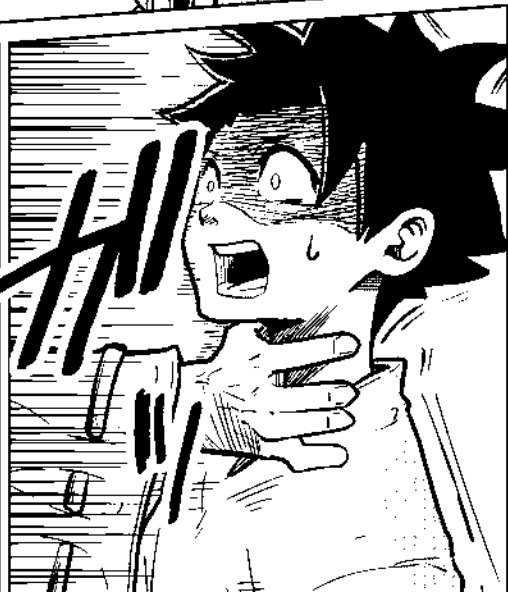
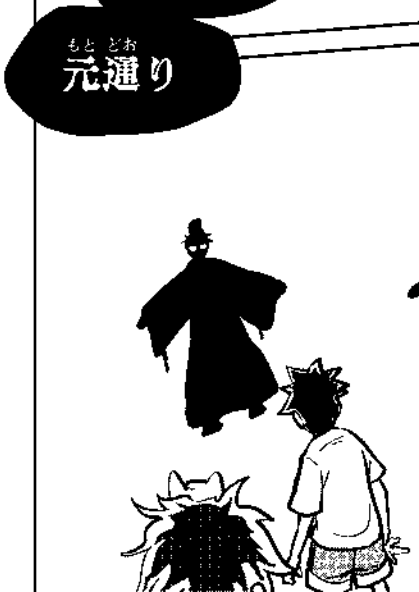
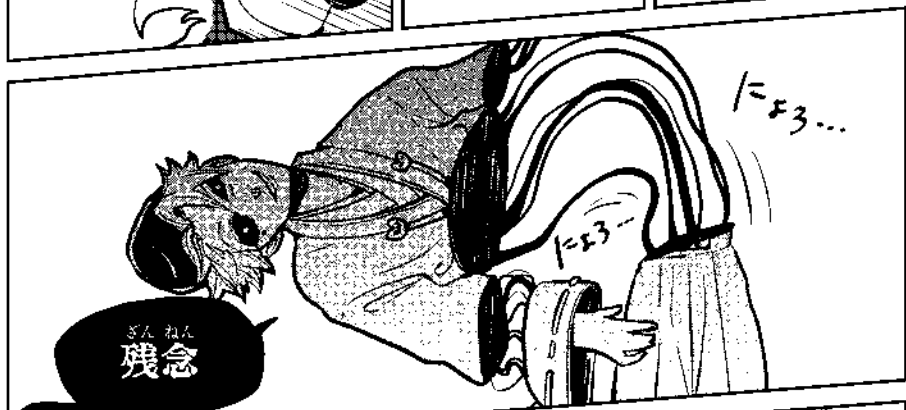
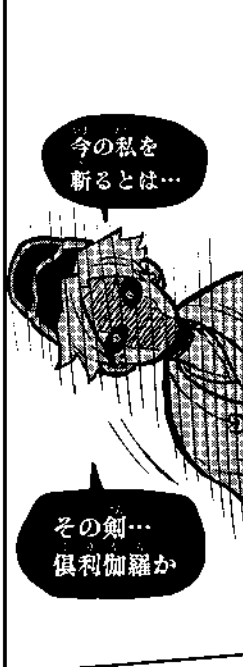


ワタル!  
剣を...!

俺が  
やらなきゃ

ダメなんだ





人は誰もが  
善と悪——  
両極の心を持つ

開発を自らの  
手で行いたい

誰かを蹴落とし  
一族を繁栄させたい

私が一言  
囁けば

ワタル  
……!!



皆たちまち  
闇に落ちる



うう...



このままでは  
ワタルが...

一度現代に  
戻るしか...



犬よ...  
お前もひどい  
ものだな

このような  
幼き少年を

戦いに  
誘うとは

!!



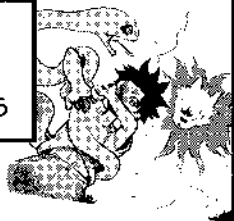
.....  
そのとおりだ



イヌナキ...

下がってる  
.....

ワタルが  
倶利伽羅剣に  
選ばれた時から



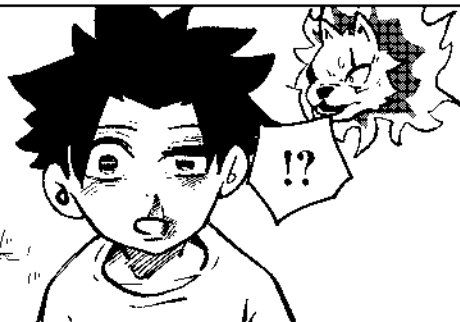
こうなる未来が  
私には見えていた  
はずだ



ワタル!  
もう立つな!



私も おかしく  
なったやもしれん







ワタル  
キミの横に  
犬神様が見える



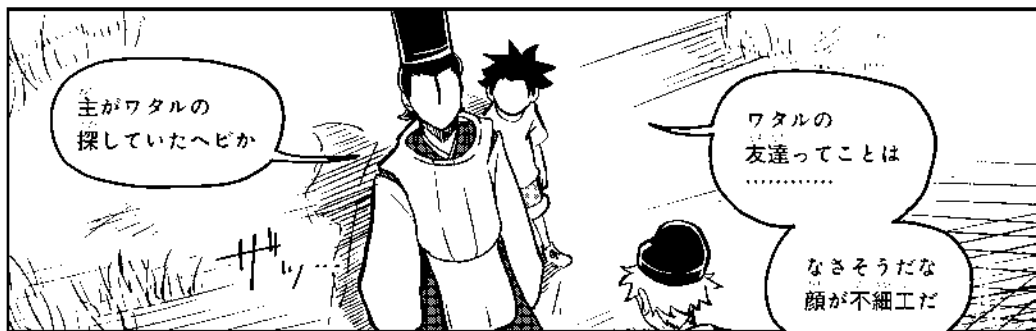
かね…さだ…



ほう

犬の加蔵を  
受けたワタルは  
ともかくとして

生身のお前が  
無事とはな



主がワタルの  
探していたへびか

ワタルの  
友達ってことは  
……………

なさそうだな  
顔が不細工だ



源 兼定…



お前を生かして  
おくのは  
どうもよくない



死ぬ………!

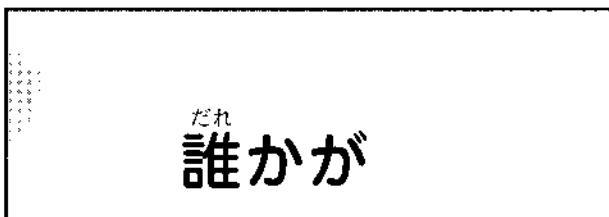
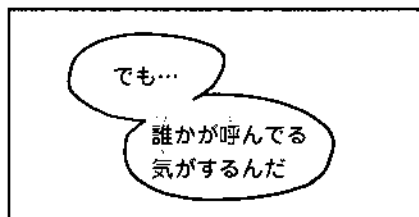




もり はる  
**盛治よ** ————— …



もり はる  
**盛治よ** ————— …





かねさだ  
兼定……

動…かぬ!?

…さま



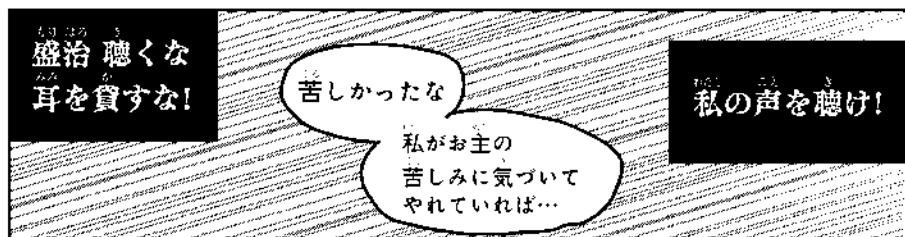
イヌナキ!

ああ…  
盛治が  
抗っている



盛治

お主の夢は  
私の夢だ



盛治 聴くな  
耳を貸すな!

苦しかったな  
私がお主の  
苦しみに気づいて  
やれていれば…

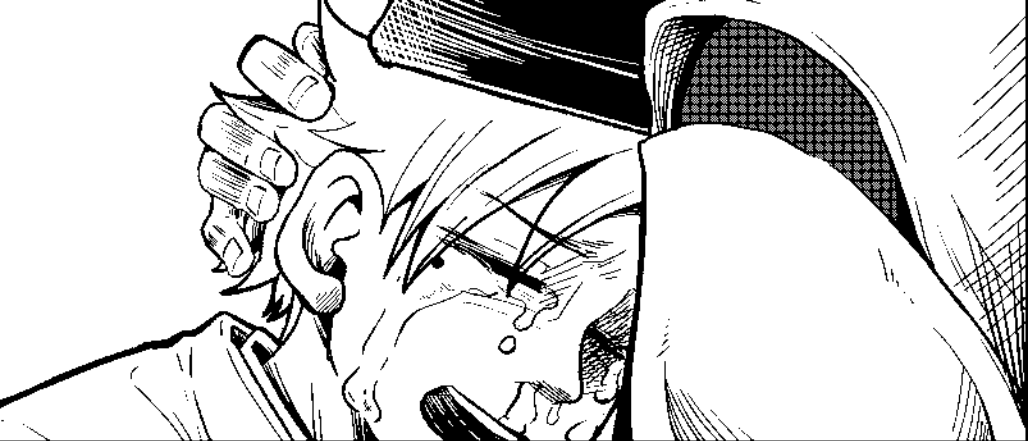
私の声を聴け!



その苦しみ



全部共に  
背負ってやる



くそおおおお  
おおおおお おおおお

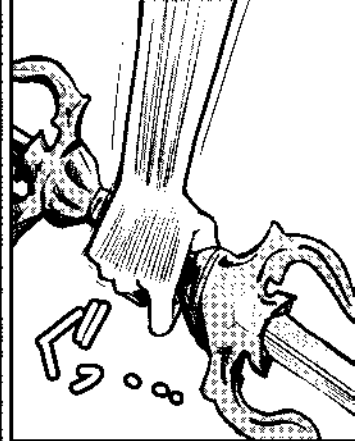
へびが...  
飛び出し...た

盛治から  
得ていた  
エネルギーを

失ったようだ



ワタル  
いけるか?



いけるか  
いけないか  
じゃない

やるんだ!



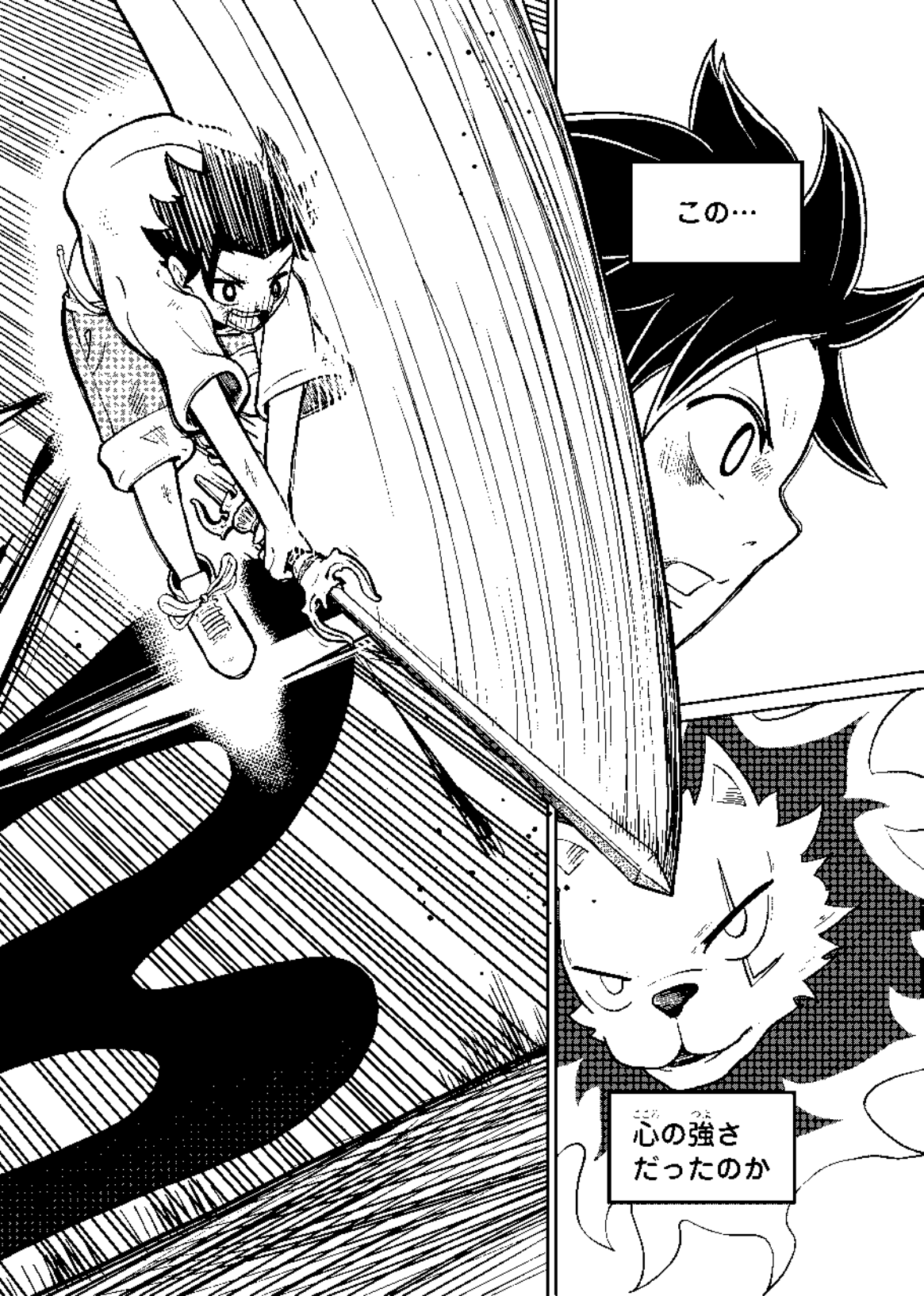
そうか...

俱利伽羅劍が  
ワタルを選んだ  
理由がわかった

たい ま りゅう けん  
**退魔龍劍**

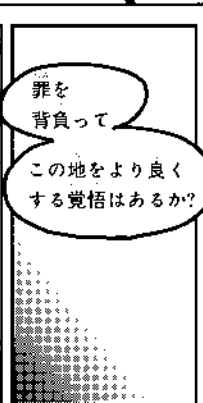
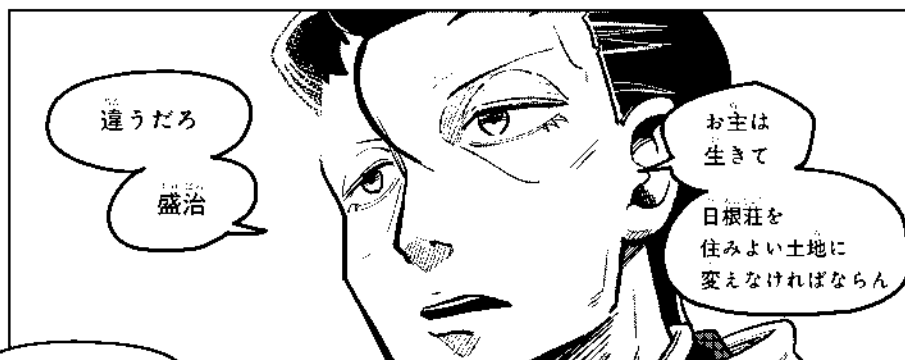
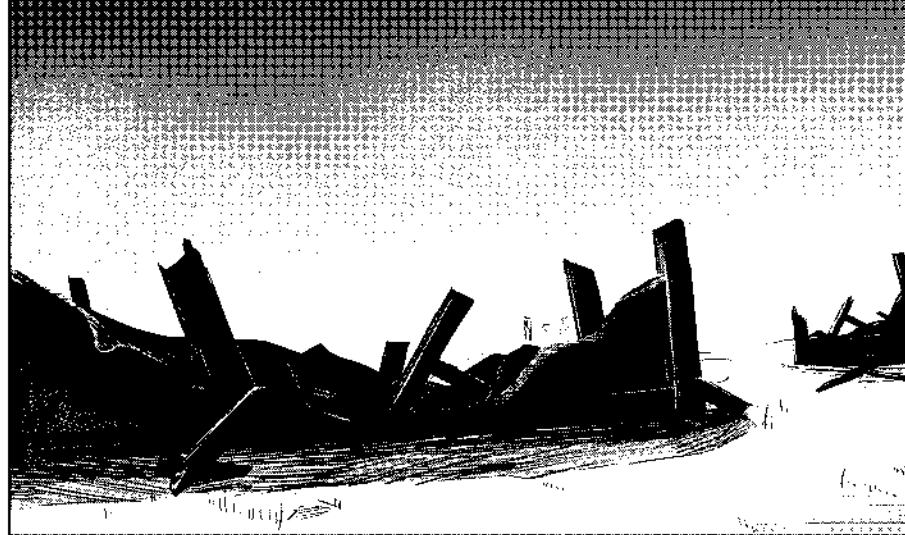
しつ ほう  
**七宝**・  
いずみ の ぎり  
**泉ノ斬**

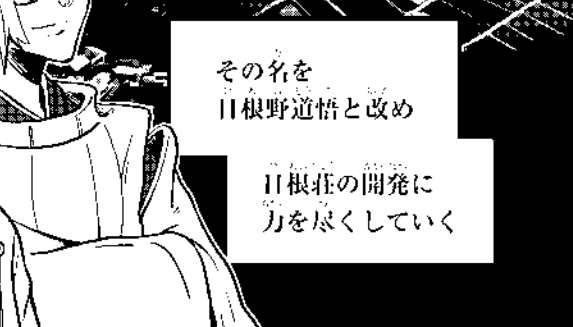
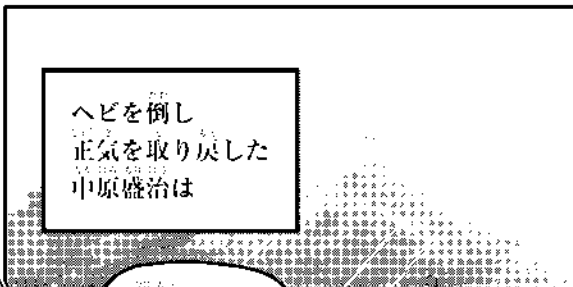


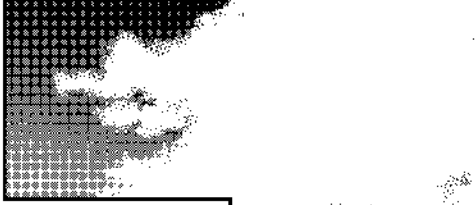


この…

こころの強さ  
だったのか







げん だい  
現代



いてっ  
ドーンッ



この着地  
どうにか  
ならない?

ワタルが  
上手くなるしか  
ないな

どしーん...



あ いたくない!  
ケガ 治ってる



ちゃんと  
治しておいた

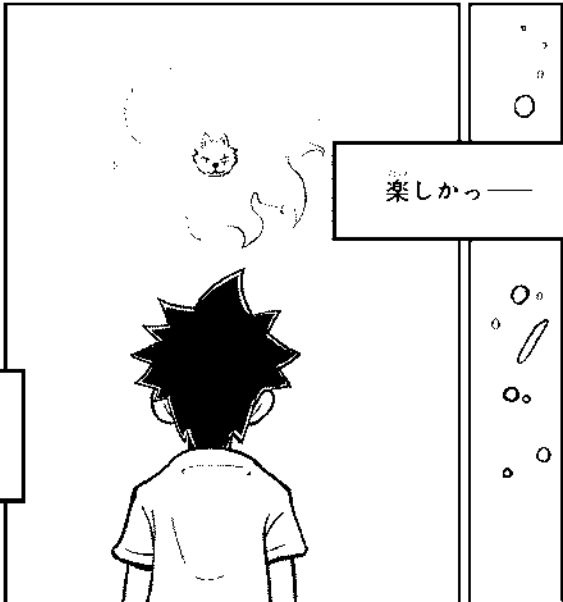


ワタル  
お別れた

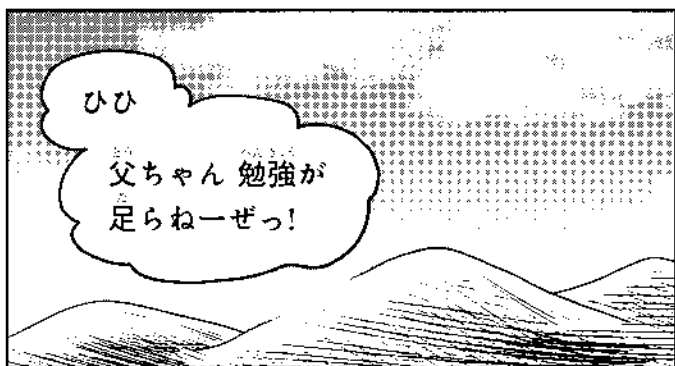
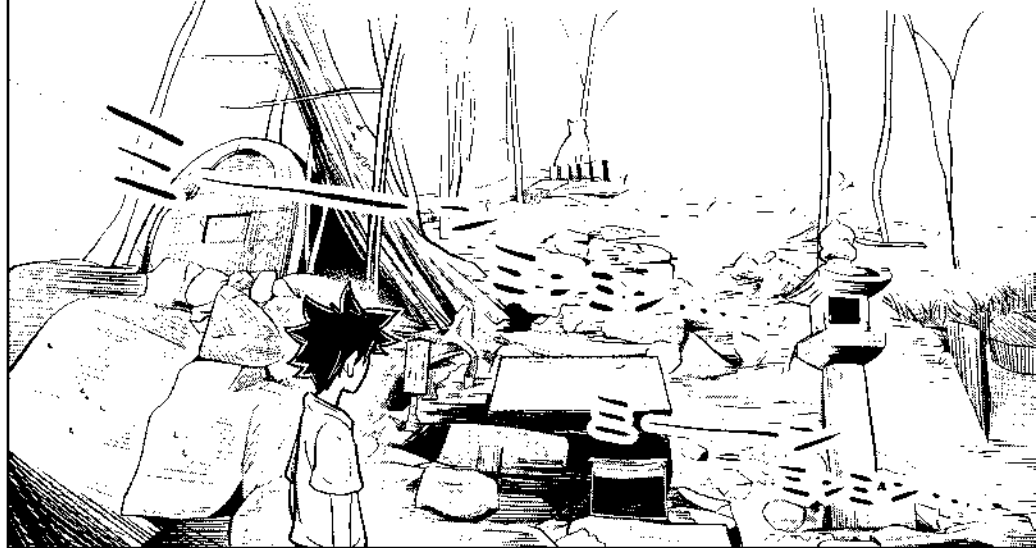


...  
そっか

さらばだ  
ワタル



楽しかった——



# この頃、日本は……

## 鎌倉幕府の滅亡

物語の第2部は、南朝方と北朝方に分かれて日本中で内乱が繰り返されています。南北朝動乱の前には、そこへと繋がっていく鎌倉幕府の滅亡がありました。どのようにして幕府は滅亡したのでしょうか。

後醍醐天皇が討幕を呼びかけ  
たんだね



元寇の侵攻を防いだものの恩賞がなく困窮していた御家人、そして新興勢力である悪党など、武士が鎌倉幕府に対して不満や反抗が高まっていた頃、朝廷のある京都でも後醍醐天皇が皇位継承に干渉してきた幕府に対して不満を爆発させていました。幕府を倒そうと目論んだ後醍醐天皇は、御家人や悪党ら武士達へ討幕を呼びかけます。悪党の楠木正成や、御家人の足利尊氏、新田義貞らがこれに応じて蜂起。鎌倉幕府は御家人によって滅ぼされます。

戦に勝ったのに恩賞はなしですか!?

### 皇位継承をめぐる「持明院統」と「大覚寺統」が対立

天皇家では後醍醐天皇の死後、後深草上皇の「持明院統」と龜山天皇の「大覚寺統」との皇位継承争いが勃発しました。幕府が調停に入り両統が交代で皇位につくことが定められましたが(両統迭立)、自分の系統を続けたい大覚寺統の後醍醐天皇はこれに反発し、二度に渡って討幕を企てますが、失敗に終わります。

元寇での恩賞が与えられなかった御家人が経済的に困窮する

御家人(武士)

一方で、北条氏の本家を継いだものを指す得宗の権力が強大化し、御家人の幕府への不満がますます高まりました。

幕府への不満がいっぱいの人達が手を組む!!

幕府の言いなりにはならないぜ

天皇は両統が交代でやることにしましょう

幕府

そもそもなんで天皇は幕府のいうことをきかないといけないの!?

交代制とか気に入らん

大覚寺統

鎌倉幕府とは主従関係のない悪党と呼ばれる新興

悪党(武士)

の武士達が台頭し、北園領主への反抗を繰り返しますが幕府はこれを抑えられず治安が悪化。幕府への信頼が失われていきました。

後醍醐天皇

# 第2部「南北朝大動乱参戦！」編①

## 討幕計画 2回の失敗

北条氏一門が権力を握る得宗専制政治に対する御家人の不満が渦巻いているのを、チャンスと見た後醍醐天皇は1324年に討幕計画を立てますが、幕府側は情報が漏れて失敗(正中の変)。さらに1331年に挙兵を企てますが、またもや失敗(元弘の変)。捕らえられた後醍醐天皇は隠岐(現在の島根県隠岐諸島)へ流されます。

## 討幕運動おさまらず

後醍醐天皇が流されている間、後醍醐天皇の皇子・護良親王や、河内の悪党・楠木正成らが悪党などの勢力を結集して挙兵し、幕府軍に立ち向かっていました。後醍醐天皇も隠岐から脱出。後醍醐天皇が討幕を呼びかけると、それに応じるものも増えていきました。

後醍醐天皇  
隠岐から  
脱出

## 後醍醐天皇の征討を命じられるが 天皇側へ寝返る!

源氏の名門一族である足利尊氏は、幕府軍の指揮官として京都へ向かいますが、かねてから北条氏一門が実権を握る幕府へ不満があったため天皇側へ寝返り、六波羅探題(幕府の京都の拠点)を攻め落とします。

幕府には  
未来はない  
天皇側につくぞ!!



足利尊氏

1333年  
5月7日  
六波羅探題を  
攻め落とす



幕府側にいた人達が  
幕府を滅ぼしたんだね...

## 関東で挙兵 新田義貞

新田家は、足利家と同じく源氏の名門一族でしたが、北条氏に冷遇され続けていました。足利尊氏が六波羅探題を攻落したのを知った新田義貞は、5月8日に挙兵、鎌倉へ進軍し、22日に鎌倉幕府を攻め滅ぼしました。

進軍

1333年  
5月22日  
鎌倉幕府  
滅亡

# この頃、日本は.....

## 南北朝動乱へ突入

鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇による親政が始まりました。後醍醐天皇は、それまでの武家政権の慣習を無視し、武士の地位を下げるような政策を行ったために武士の不満が高まりました。そんな武士たちを束ねて反旗を翻したのが足利尊氏だったのです。



## 建武の新政

1333年、鎌倉幕府が滅亡した後に、京都に戻った後醍醐天皇は親政を始めます。摂政や関白、将軍もおかず、天皇みずからが政治を行う、この新しい政治体制を建武の新政といいます。倒幕で活躍した武士には働きに見合った恩賞を与えず公家を優遇する不公平な姿勢や、それまでの武家政権の慣習を無視して武士の地位を低め、力を弱めようとする政策に、武士たちは不満を持ち失望します。

**中先代の乱 (1335年)**

鎌倉幕府滅亡とともに自害した14代執権北条高時の子・北条時行が1335年に反乱を起こして鎌倉を占領します。足利尊氏は、後醍醐天皇の勅許を得ずに、無断で京都から鎌倉へ向かい中先代の乱を鎮圧し、鎌倉を奪還します。

**足利尊氏**

武士たちへ恩賞を与える

**北条時行を討伐  
鎌倉を奪還**

なに勝手なことしてるの!!

**激怒**

天皇を無視するとか有り得ないでしょ!!

**後醍醐天皇**

はい!!

**新田義貞**

尊氏は、時行討伐で武功のあった者へ、自らの采配で恩賞を与えました。無断で鎌倉へ進軍したことも含めて、天皇をないがしろにする行為であると後醍醐天皇は激怒し、新田義貞に尊氏の征討を命じます。尊氏は不満を抱えた武士たちを束ねて反旗を翻し、天皇に取り入っているとして、新田義貞を討伐するため挙兵します。

義貞!  
尊氏を討て!



## 第2部「南北朝大動乱参戦！」編②

箱根竹ノ下（現在の静岡県）で新田義貞と合戦して勝利した足利尊氏は、京都へ引き上げる義貞を追って京都へ入りますが、新田義貞、楠木正成、北畠顕家らとの戦いの末に敗北し、京都を脱出し、九州へ逃れました。1336年、体勢を整えて再び京都を自指します。後醍醐天皇の朝廷軍は湊川（現在の兵庫県神戸市）で尊氏を迎え討ちますが（湊川の戦い）、楠木正成は敗北し自害。京都を制圧した足利尊氏は、後醍醐天皇の大覚寺統と対立する持明院統の光明天皇を擁立し、建武式目（幕府開設の基本方針を示したもの）を制定します。しかし、京都から奈良の吉野へ逃走した後醍醐天皇は、まだ自分に帝位があると主張し、吉野の南朝と京都の北朝との二つの朝廷の間で争いが起こります。

### 南朝と北朝との対立



なん ちよう  
**南朝**

ご だい ご てん のう  
**後醍醐天皇**  
(大覚寺統)

しん だ い ぎ せい  
くす ぎ せい ちか  
きた はた けん け  
**新田義貞**  
**楠木正行** (正成の子)  
**北畠顕家**

VS

ほく ちよう  
**北朝**

あし かが たか うち  
**足利尊氏**

あし だ い ぎ せい  
たか うち ちか せい  
たか うち ちか せい  
**足利直義** (尊氏の弟)  
**高師直** (尊氏の執事)



くわ め い てん ぐ  
**光明天皇**  
(持明院統)

### 室町幕府

1336年の建武式目（幕府の基本方針を示したもの）の制定を室町幕府の始まりとする考え方が今では一般的になっています。

京都を尊皇したい後醍醐天皇は、新田義貞、北畠顕家らに尊氏討伐を命じます。1337年8月、北畠顕家は奥州（現在の東北）から進軍し鎌倉を制圧し、1338年1月に美濃国青野原（現在の岐阜県）で尊氏の主力軍を打ち破りますが、1338年6月、何度かの合戦を経て和泉国石津（現在の大阪府）で高師直に敗れ戦死。新田義貞は越前（現在の福井県）で戦っていましたが、1338年7月、藤島城へ支援に向かっている最中に襲われ命を落とします。南朝方の主力の二人が戦死して、とりあえず戦局が落ち着いた1338年8月、足利尊氏は光明天皇から征夷大将軍を任命されました。しかし、その後、尊氏の弟の足利直義と高師直が対立し、1350年に武力衝突します（観応の擾乱）。動乱は直義が敗死した後も続き尊氏派（幕府派）、旧直義派、南朝派の三者の争いになっていきます。こうして、南北朝動乱は長期化していくのでした。

第2部の舞台は  
南北朝動乱の初編を  
動乱は、まだまだ  
続くんだよ。



ワタルが剣を  
忘れたようですね

なんぼくちがだいどうらんさんせん  
第2部「南北朝大動乱参戦!」

……!

盛治  
触れるなよ

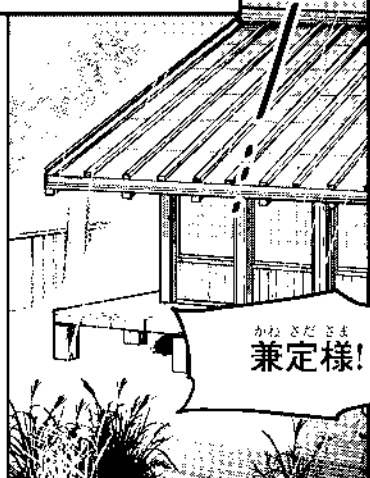
この剣を覆う  
黒いモヤ…

へびが封印されている  
ようだぞ……

この剣は  
私が預かる

私は生涯をかけて  
この剣を守って  
行くぞ 盛治

数年後



かみさださま  
兼定様!

盛治よ  
.....

私が死に  
へびが復活  
しようとも

絶対へびに  
負けるでないぞ...

...はい!

俱利伽羅剣の  
へびの封印を守り  
続けていた兼定は



徐々にへびの呪いに  
侵されていた

盛治...お前には  
期待して...い.....



その兼定が  
亡くなった

げん だい  
現代

え——…  
南北朝時代は

後醍醐天皇側の南朝と  
足利尊氏側の  
北朝の戦いの時代だった

せんせい！  
なんで南と北  
なんですか！

北朝は京都  
南朝はそれより南の  
吉野ってとこに  
拠点を置いたからだ

高校生になった  
ワタル

## なん ぼく ちよう じ だい 【南北朝時代】

鎌倉幕府が滅亡したのちに、実権を握った後醍醐天皇が「建武の新政」を開始しましたが、それまでの武士の政権の慣習を無視した政策は武士の地位を下げるものでした。そのため足利尊氏をはじめ、倒幕で活躍した武士達の不満が高まりました。尊氏は京都を制圧し後醍醐天皇から天皇の位を奪って、大覚寺統の後醍醐天皇と対立していた持明院統の光明天皇を即位させましたが、後醍醐天皇は奈良の吉野へ逃れ、自分こそが正統の天皇であると主張したため二人の天皇が並び立ち、日本中を巻き込んだので大動乱となったのでした。尊氏が室町幕府を開いた後も、吉野の南朝と京都の北朝、それぞれに味方する勢力が各地でぶつかり合い、この内乱は三代将軍足利義満が南北朝を統一するまで60年近く続きました。



南北朝時代ねえ

そいや兼定達って  
いつの時代だった  
んだろう……

確かイヌナキが  
信長とは250年は  
違う時代って言ってたな

どっちにしろ  
よくわからんけど

おい  
ワタル

まじめに  
授業聴かないと  
ダメだろう

…!  
イヌナキ

どひゃ  
ああああ

久しぶりだ  
ワタル



おい  
大丈夫か!?



あははは  
大丈夫で一す



久しぶり  
じゃんか  
元気だったのか!?

ああ



ワタルも大きく  
なったな

あたりまえさ  
もう高校生だぜ

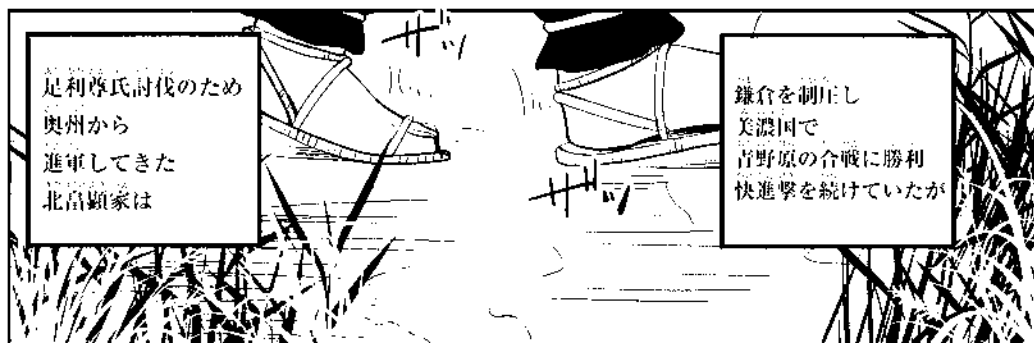
そのわりに  
勉強に成長は  
なさそうだがなっ

…ヘビが  
復活して  
しまった

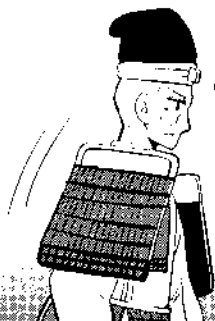
!!

また共に戦ってくれ  
…ワタル!

ねん かつ  
1338年3月



奈良の般若坂で  
足利軍の主力軍に負け  
河内に敗走  
和泉国も南北両方が  
入り乱れての激戦地となる



隣村の上ノ郷の武士  
上郷殿は  
南朝方についた…

こんなに近い者が  
争うことに意味は  
あるのか…

このままでは  
お互いの荘園が  
戦場となり  
村の者達に  
被害が出てしまう



いちち

久しぶりだな  
この感じ……





なにやっ  
何奴!



!

ひ

待った待った  
タイム!!

やめよ!



道悟様

危のう  
ございます!

道悟様!

ドウゴ  
...?

お前は  
.....!



イヌナキ

このおっさん  
知ってる?

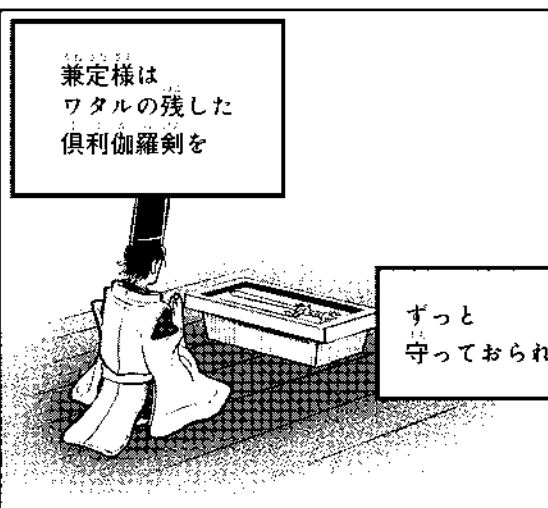
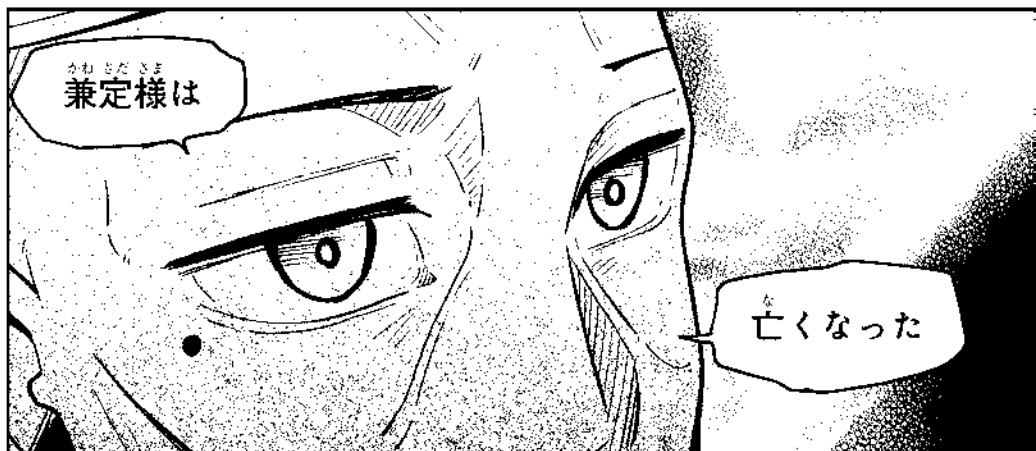
...ふっ  
ああ

私も  
ワタルもよく  
知っている



ワタルか  
.....!





へびが封じられた  
俱利伽羅剣は

正の気の強い  
兼定様にしか  
扱えなかった

私は一度 直接  
俱利伽羅剣に  
触れた際

我を失いかけた

そんな兼定様も  
へびの負の気に  
ずっと触れていた  
ためか

数年前に  
亡くなられた

そんな折だ…  
私は目にしたのだ

剣から大量に  
溢れだすへびを…!!

!!

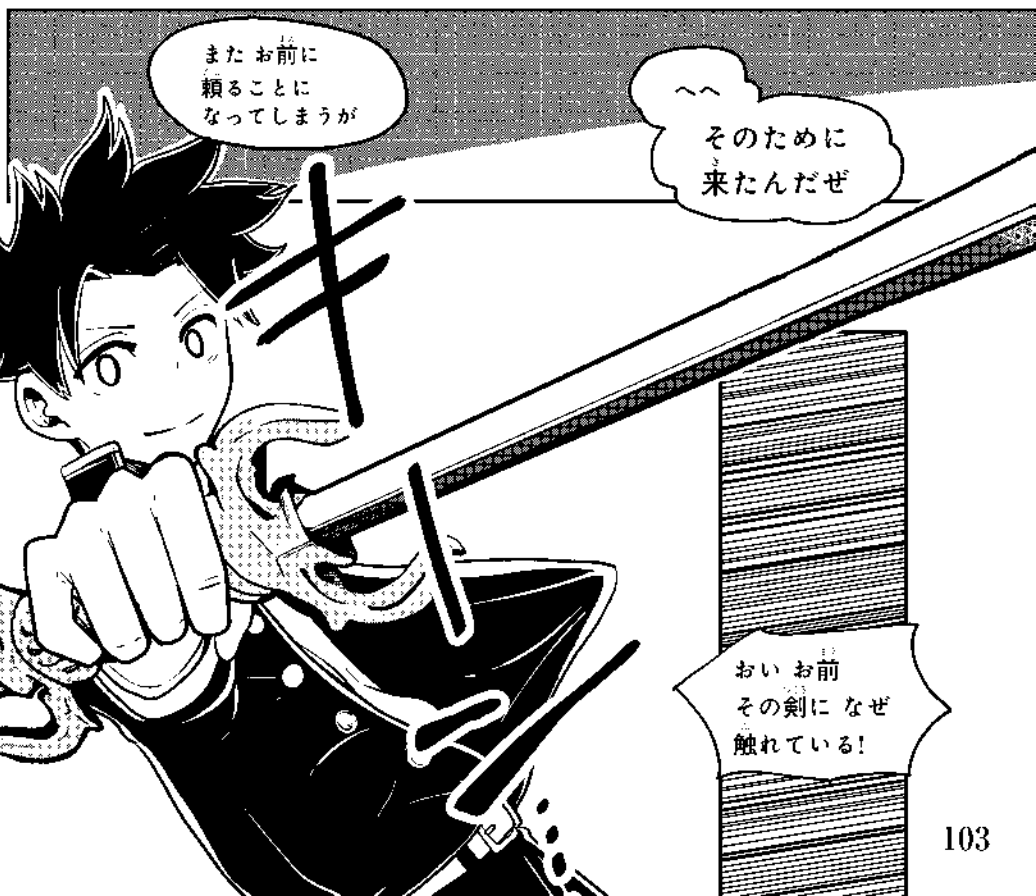


俱利伽羅劍…

そっか…  
兼定がずっと守ってて  
くれたんだな



ああ  
兼定様だから  
できたことだ

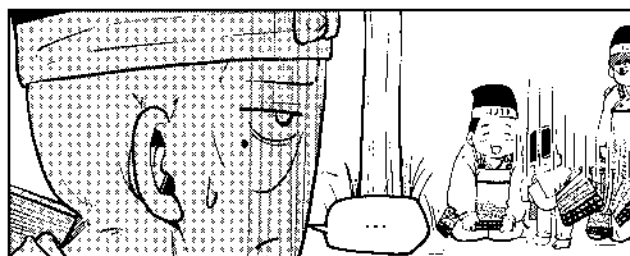


またお前に  
頼ることに  
なってしまうが

^^  
そのため  
来たんだぜ

おい お前  
その劍に なぜ  
触れている!





いしかわかわら  
石川川原



皆戦え…!

今日の勝利は  
後に日根野を  
守ることとなる!

すげー!

盛治は  
日根野の者たちを  
まとめ上げた  
ようだな

ああ…!

そうだ  
イヌナキ  
へビは?

へビの気配は  
感じる

着替えた  
↓



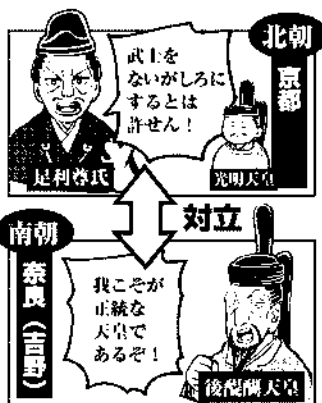
今は南北朝時代  
のようだな

そこかしこで  
争いが起きている

へびには  
好都合だろう



南北朝時代は、光明天皇を擁立した足利尊氏の北朝と、吉野に逃げた後醍醐天皇の南朝と、二つの政権の争いに日本全国が巻き込まれ、内乱が続いた時代のことです。



盛治の  
日根野氏は  
北朝についてようだな

?なんで  
わかるんだ?

あの旗印は  
足利軍のもの  
だからな





おいワタル  
何をボケっ  
としておる



おまえ  
怖いのだろう

まだ戦場は  
早いんじゃないか?



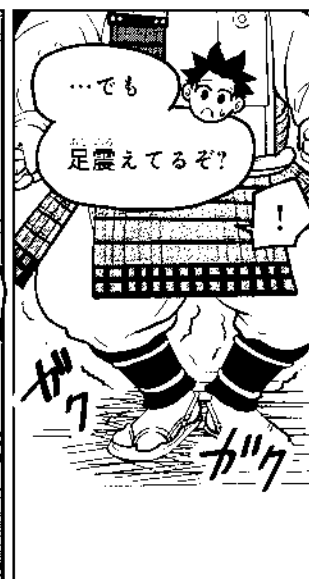
時盛だけ  
お前たちも  
戦うのか?

！  
あたりまえた



私は  
日根野道悟の子

日根野時盛  
だぞ…!



…でも  
足震えてるぞ?

ガク  
ガク



震えておらぬ!

震えて  
ましたよ



ワタル!

父上から信頼を  
得てしようと  
私は認めんぞ!



勝負だ!

どちらがより  
武功を立てれるかっ



うおおおあ...!!

待ってください  
時盛様一っ



時盛に  
懐かれた  
ようだな

ハアハア

うげえ  
めんどくせえ  
.....

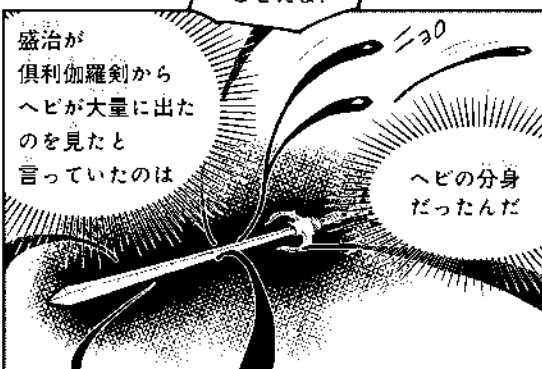


ハア  
俺たちも  
戦場へ  
行くか...

ああ  
行こう



オオオオ





へビは争いを好む

なんだコイツら強い…!

各地に分身を送って争いを大きくしているようだ



みんなやられちまった!

へビ憑きは普通の人間の手に負えない



へビの本体はどこにいるかわからないが

まずは分身を叩かなければ

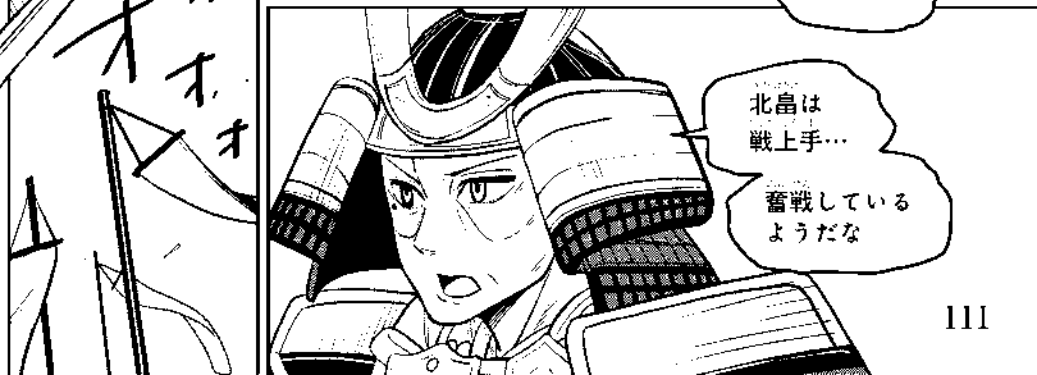
だな!



大丈夫か!  
ワタル

盛治!

戦局は!?



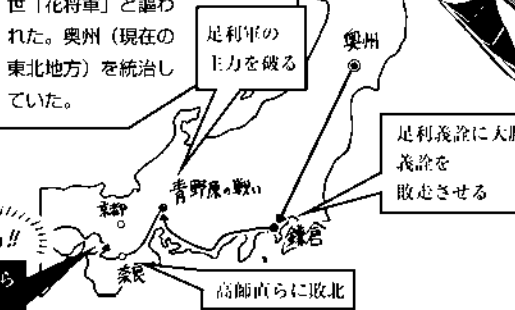
北島は戦上手…

奮戦しているようだな

1337年8月11日、吉野の後醍醐天皇から尊氏討伐の命を受けて、北畠顕家は奥州から京都を目指して進軍を始めます。年末には、尊氏の息子・足利義詮のいる鎌倉を攻めて大勝。義詮は敗退します。北畠顕家の快進撃を知った南朝側の武士達が加わり顕家の軍は、どんどん大きくなっていきました。京都の足利尊氏は兵を出し、1338年1月、美濃国（現在の岐阜県）の青野原で顕家軍との激戦を繰り広げます。顕家軍が勝利しますが多くの兵を失います。2月、奈良で高師直が北畠顕家を迎え討ち、この戦いで顕家は敗北します。その後、軍の一部（顕家の弟・顕信軍）は京都をにらむ八幡山（男山・石清水八幡宮）へ陣を置き、顕家が率いる主力は河内へ移動し、和泉へと転戦。体勢を整えて京都へ北上しようとしてますが…。

## 【弱冠20歳の花将軍 北畠顕家】

後醍醐天皇の側近である北畠親房の長男。公家で、弱冠20歳のエリート武将。その若さと才覚から後世「花将軍」と謳われた。奥州（現在の東北地方）を統治していた。



## 【東北から近畿へ足利尊氏討伐への強行軍】

河内・和泉から京都を目指す。

今ココ!!

高師直らに敗北

足利義詮に大勝 義詮を敗走させる

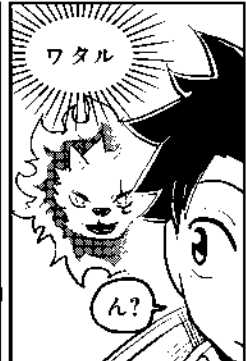


北畠顕家は天王寺へ向かって進軍している

京を取るためにも天王寺を押さえないのだから

ここでの足止めこそ我らの務め  
ワタルも気を付けろ!

うん 盛治もな



ワタル

ん?



わっ!? イヌナギが分身した!?

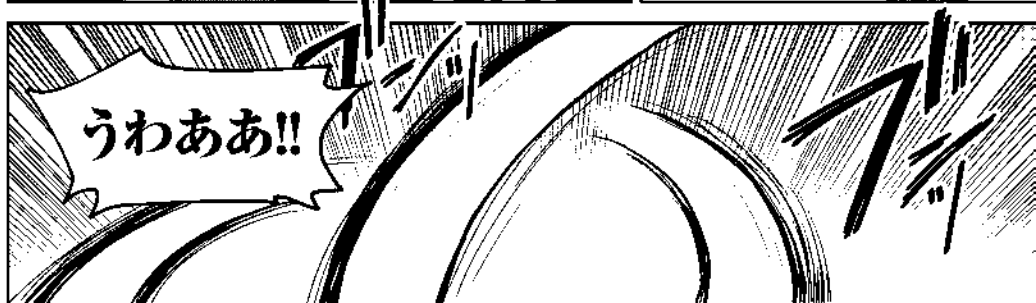
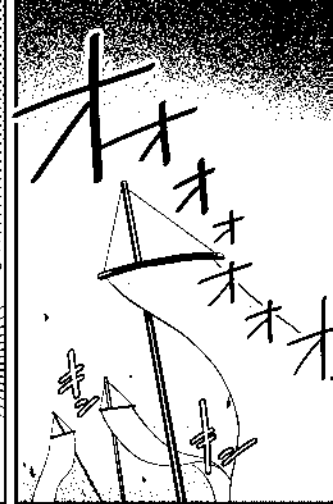
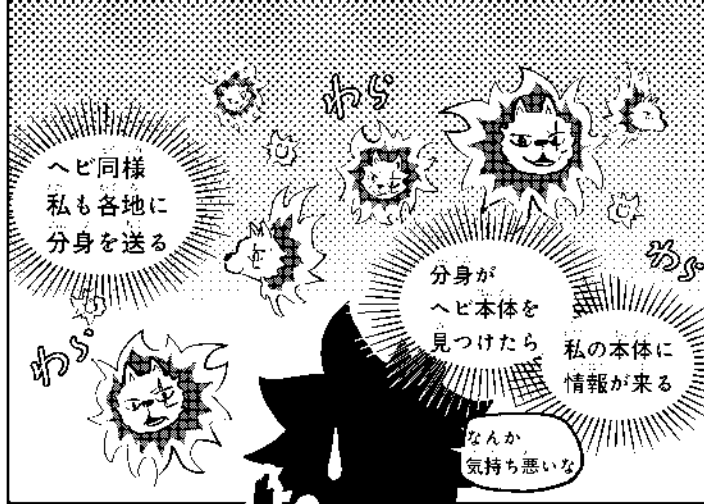


おまえ分身とかができたのかよ!?

てか小っちゃくなってね?

分身は自分のエネルギーを分けるということだからな

これがなかなか疲れる





ふんっ

く…来るな  
来るなあ!!



衰れなり  
若いとはいえ  
元服を迎えた  
男だ

斬らせて  
もらう



！  
ときもりさま  
時盛様



死ね





新手か!

いったん引くぞ



時盛様あ  
よかったよう!

ゆあぁぁぁ!



時盛はやはり  
盛治の息子の  
ようだ

だなぁ

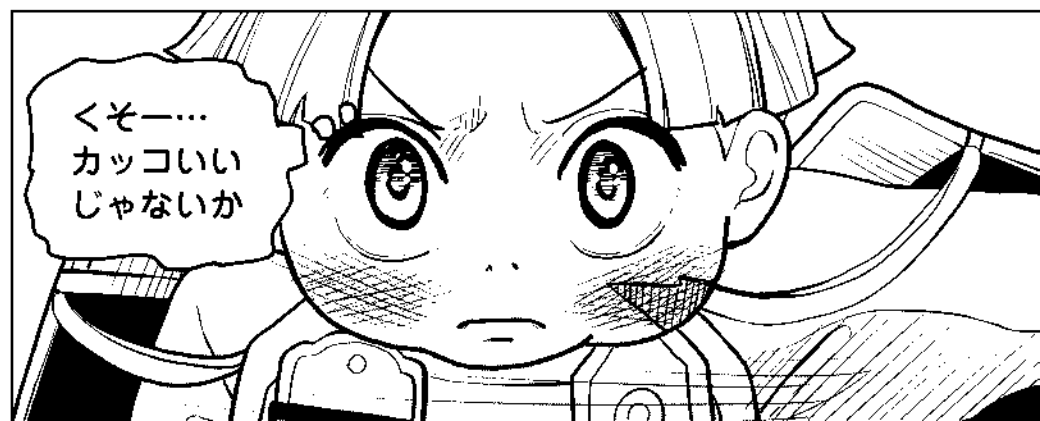


…ワタル

おまえの  
助けなんて  
いらなかった



なんだよー  
助けて  
やったのに



くそー…  
カッコいい  
じゃないか

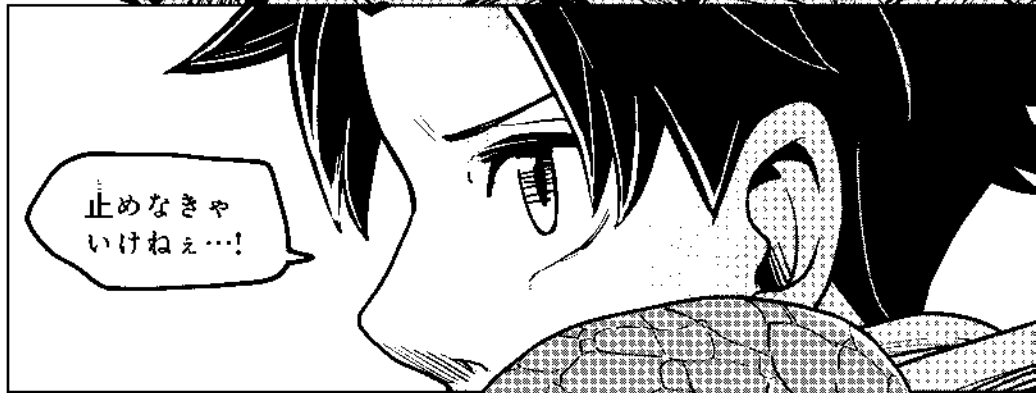
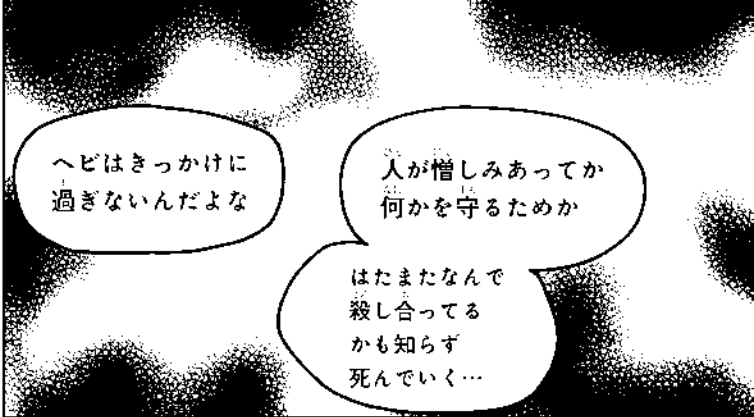


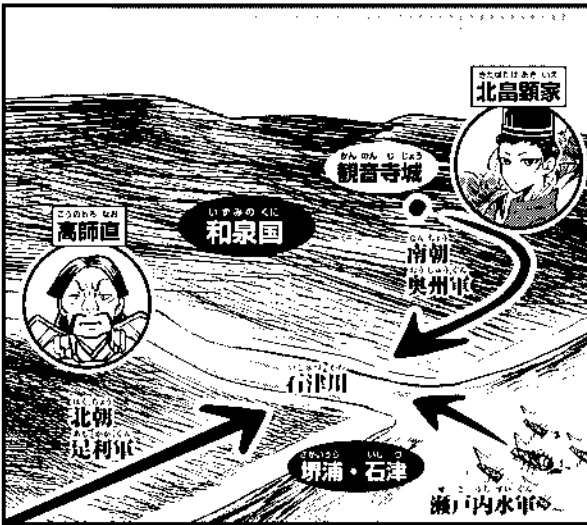
天王寺を目指し  
3月、阿倍野で合戦した  
北畠顕家だったか

北畠軍が  
退却していくぞ

失敗に  
終わった

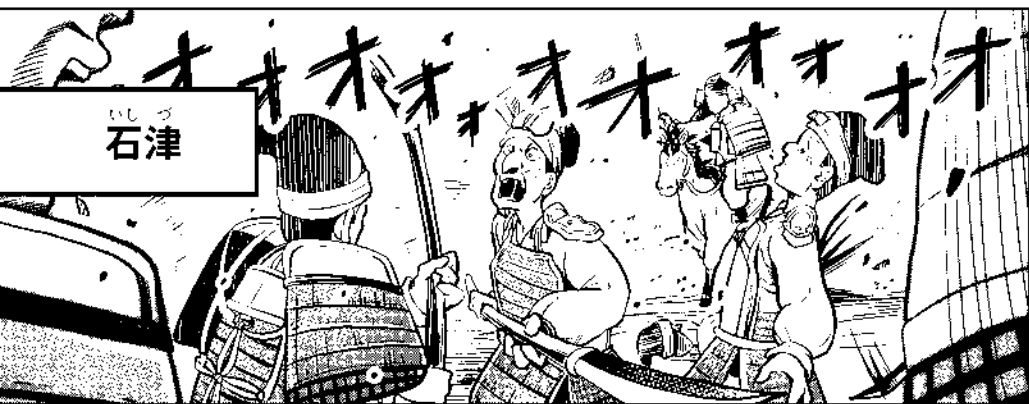






## 【石津の戦い】(1338年5月22日)

北畠顕家は、京都奪還のため、京都をにらむ八幡山にいる弟・顕信軍へ兵を送りながらも、河内から和泉へと転戦して戦力を立て直し、5月6日から14日にかけて、石津・堺浦を攻撃します。日根野道信は5月9日に熊取・佐野・長滝を転戦し、それに対して細川顕氏・高師直軍が天王寺から堺浦へ出動し、5月16日に、田代了賢らが石津に陣取りました。そして、5月22日、高師直の足利軍と、北畠顕家の奥州軍が堺浦で激突します。顕家は少ない兵で善戦したものの、強行軍による疲弊と北朝側についた瀬戸内水軍からの支援攻撃で窮地に立たされ、大敗します。



足利尊氏の右腕

【高師直】



足利尊氏に従い、数々の武功を上げた武将。尊氏が京都に開いた室町幕府の初代執事も務めています。石津の戦いでは北畠顕家を討ち取り、南朝に壊滅的な打撃を与えています。しかし後に、尊氏の実弟・足利直義と対立するようになり、ついに武力衝突に発展します（観応の擾乱（かんのうのじょうらん））。師直と直義との争いは、尊氏と直義との対立を招き、南北朝動乱の長期化の一因ともなりました。

河内国・和泉国の守護

【細川顕氏】



元弘の乱頃から尊氏に支えた武将。讃岐国、河内、和泉の守護を務めていました。畿内での南朝勢力との戦いで多くの武功をあげ、石津の戦いでは総司令官の高師直と並ぶほどの活躍をしたと言われています。

守護とは

鎌倉時代に、各国に一人ずつ派遣された幕府の役職。室町時代にも引き継がれ、各国の警備、治安維持に当たっていました。戦いが起こると国内の御家人（現地の武士たち）を統率して参戦しました。





じゅじゅつ  
呪術

しちりゅうけん  
七龍剣

このクソガキ

!

しまっ...

ガア...



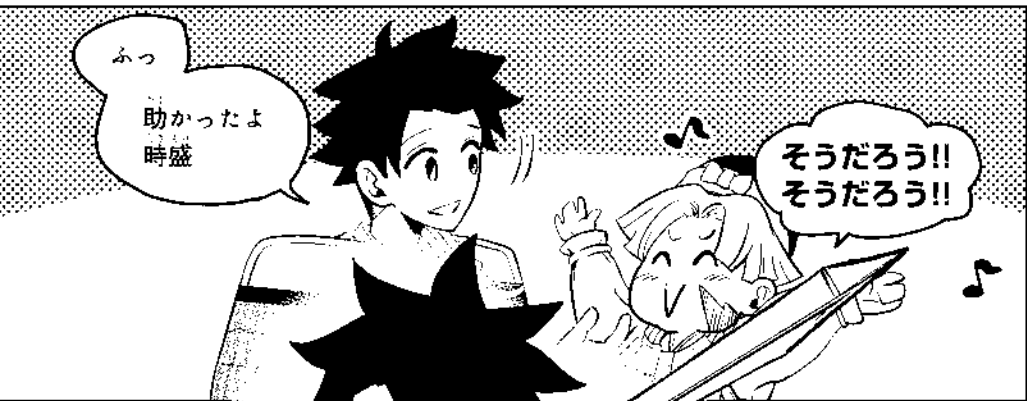
ときもり  
時盛!



危なかったな

ワタル!

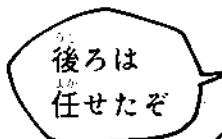
できた…!



ふっ

助かったよ  
時盛

そうだろう!!  
そうだろう!!



後ろは  
任せたぞ



任せて  
おけい!





日根野道悟は  
北畠軍の籠る

観音寺城  
箕形城を  
焼き払った

しょうり  
勝利だ!



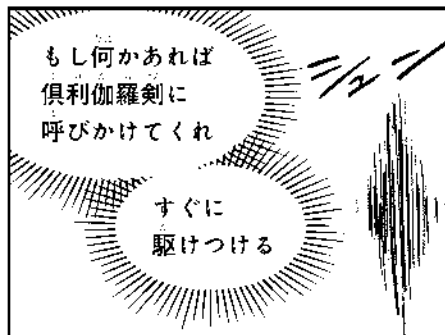
ワタル

私の分身が  
へびの本体を  
見つけたかもしれん

まじで?



分身の方へ行き  
へびの動向を  
探ってみる!



もし何かあれば  
俱利伽羅剣に  
呼びかけてくれ

すぐに  
駆けつける



ああ!  
気をつけろ!

ものかたり  
物語がもっと  
おもしろくなる  
れきし  
歴史ポイント



## 南北朝動乱期の 日根野道悟(中原盛治)の活躍

南北朝動乱期、和泉・河内・紀伊はもっとも激しい戦いが起こった地域でした。和泉国の武士である日根野氏は南北朝動乱に大きく関わり、日根野道悟(中原盛治)は鎌倉幕府末期から数々の戦いに参加しています。物語の中で登場する石津の戦いまでの日根野道悟の活躍を振り返りましょう。

1331年

鎌倉幕府  
滅亡まで

日根野道悟が最初に内乱に参加したのは、鎌倉幕府軍による楠木正成の早辛・赤坂城攻めが行われた時で、鎌倉幕府から動員されて足利尊氏の傘下に入ったようです。

鎌倉幕府滅亡前から、足利尊氏に従う

1333年

新田義貞による鎌倉攻め、足利尊氏の六波羅探題の幕府軍との京都合戦を経て、鎌倉幕府が滅亡しました。日根野氏も尊氏軍の一員として参戦していた可能性があります。その動きと並行して幕府によって隠岐島に流されていた後醍醐天皇は京都に戻り、新しい政権を立ち上げました。しかし、その政策は貴族を優遇したので次第に武士達の不満が高まりました。

後醍醐天皇  
による  
建武の新政

1335年-1336年

「建武の乱」

新田義貞  
楠木正成  
北高顕家

後醍醐天皇に従っていた足利尊氏は反旗を翻して挙兵しますが、新田義貞らと戦い敗北します。

足利尊氏  
鎌倉で挙兵  
反乱を起こす

尊氏  
九州へ  
逃げる

1336年

九州で体勢を整えた足利尊氏は京都へ向けて東上します。1336年5月25日、摂津国湊川（現在の兵庫県神戸市）で迎え討つ新田・楠木軍を破り、6月には京都を制圧します。この「湊川の戦い」で、日根野道悟は足利尊氏方の武将・畠山国清のもとに馳せ参じ、足利尊氏軍の一員として戦ったと思われます。

足利尊氏  
九州から  
東上して  
反撃

日根野道悟参戦!

「湊川の戦い」

比叡山の後醍醐天皇を孤立させるために、7月に畠山国清は樗井城で挙兵して、後醍醐天皇方に味方する勢力の押さえ込みをはかり、地元の日根野道悟もそれに参加します。そして尊氏は8月に光明天皇を擁立。10月になると後醍醐天皇は降伏し比叡山から降りて尊氏方の保護下におかれ、11月には尊氏は室町幕府を開きます。



後醍醐天皇  
京都を脱出して  
奈良(吉野)で  
南朝を開く

## 南朝と北朝の本格的な対立

1336年12月末、後醍醐天皇は自分こそが正統であると主張し、密かに脱出して吉野に移ります。南北朝の対立が本格化していくなかで、1337年5月ごろまで日根野氏は畠山国清らに従い和泉国南部から紀伊国北部を転戦し、南朝方と戦っていました。

1338年には將軍足利尊氏から感状（感謝状のこと）をもらっています。日根野氏は足利軍に従い、他の和泉国の武士のように南朝についたり北朝についたりするようなことはなく、一貫して北朝方として戦いました。

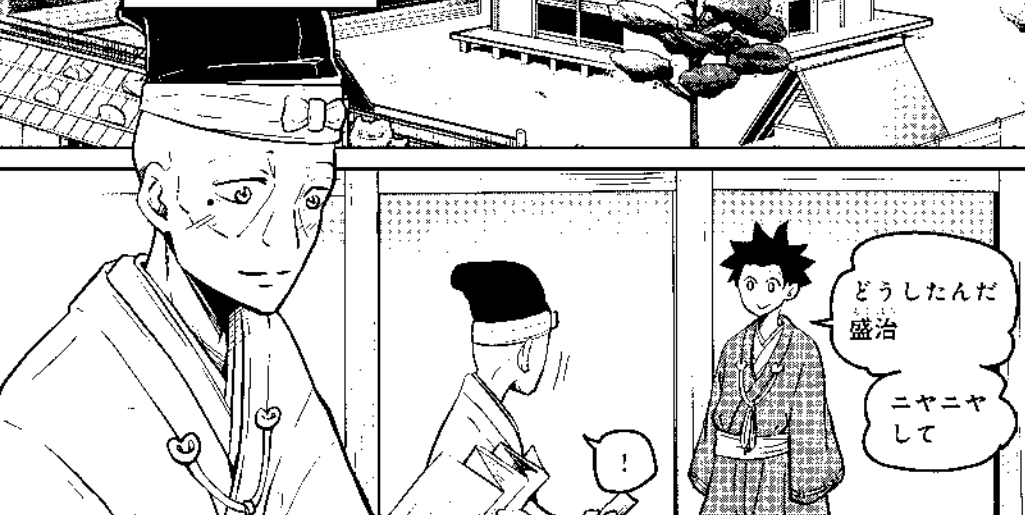
皆戦え…!

今日の勝利は  
後に日根野を  
守ることとなる!

お洒落  
暇治!



日根野の館



どうしたんだ  
盛治

ニヤニヤ  
して



コホン...

そんなに  
ニヤニヤ  
してたか?

気持ち悪い  
ぐらいな

足利様から  
感状を頂いてな

※武功のあった者に上位の者が  
その武功をほめて認める  
ために与えた文書のこと

日根野氏は  
和泉国の軍の中でも  
重要な位置に  
いたようで

度々武功に対する  
感状が寄せられている

中でも  
1338年には

将軍である  
足利尊氏より  
感状を  
もらっている



ワタル

へビはどうだ？  
見つかったか？

だめ  
全部空振りさ



分身はいるけど  
本体がなあ…

…

あ



ん？



まさか  
盛治

またへびに  
……………



ハハハ

それはないと  
言いたいが

一度それで  
迷惑を  
かけたんだ

疑われても  
しょうがない

うん



へびに  
とり憑かれるって  
どんな感じなの？

ん？

そうだなあ…



全てが敵に  
感じるんだ

誰も信じられなくな  
って

疑って

疑って

最後は  
自分と敵  
が残る



自分と敵  
だけ……



兼定様が  
闇から救い上げて  
くれなければ

私は今ここに  
いないだろう

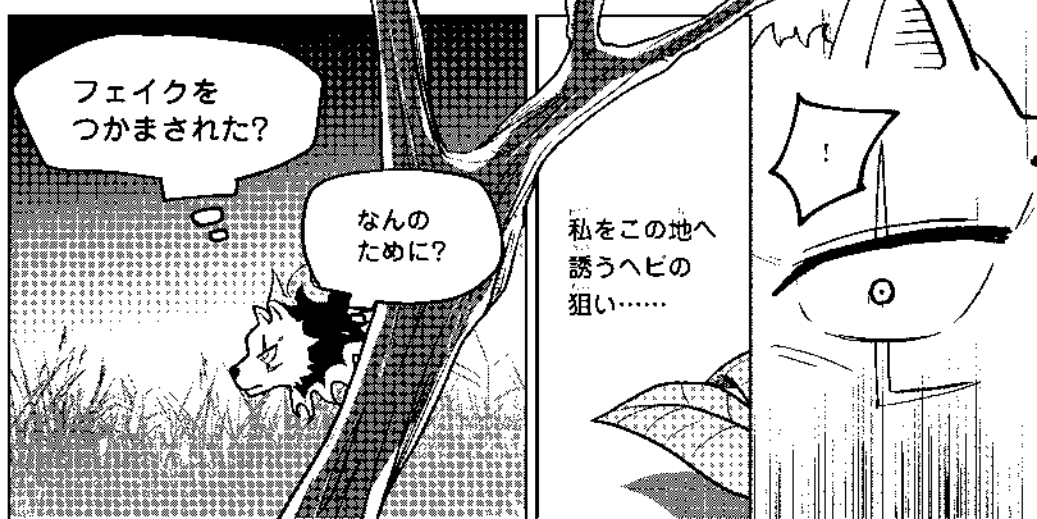
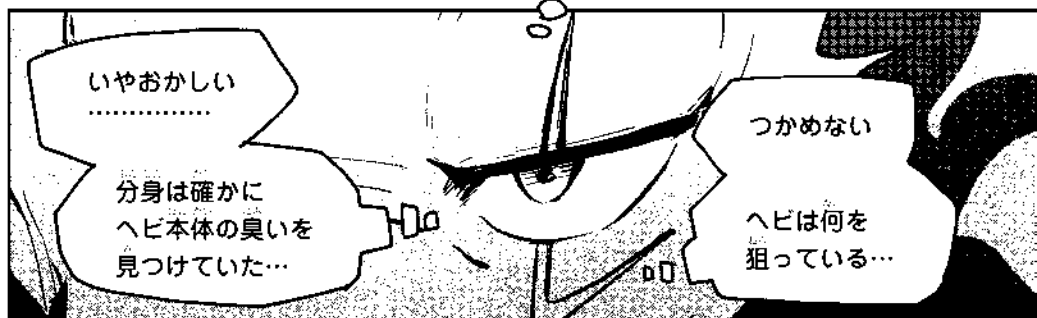


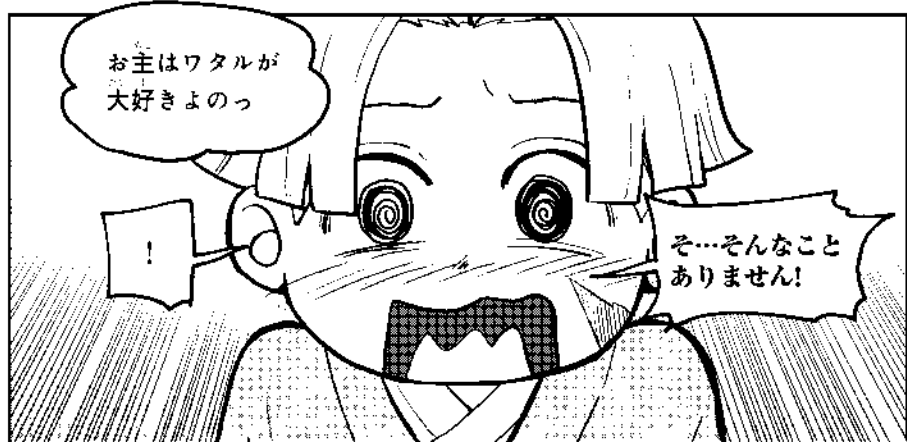
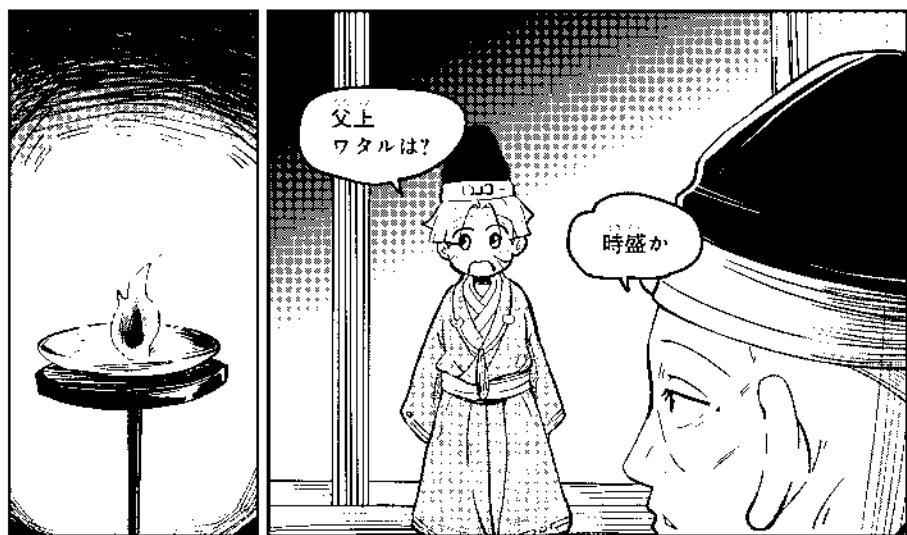
あ、  
もちろん  
ワタルもな

付け足し  
かよ〜



よっと  
ちょっと  
トイレ









よいよい

ワタルからは  
多くのことが  
学べるだろう

かくいう  
父も

ワタルに多くを  
教えてもらった



父上が  
……？

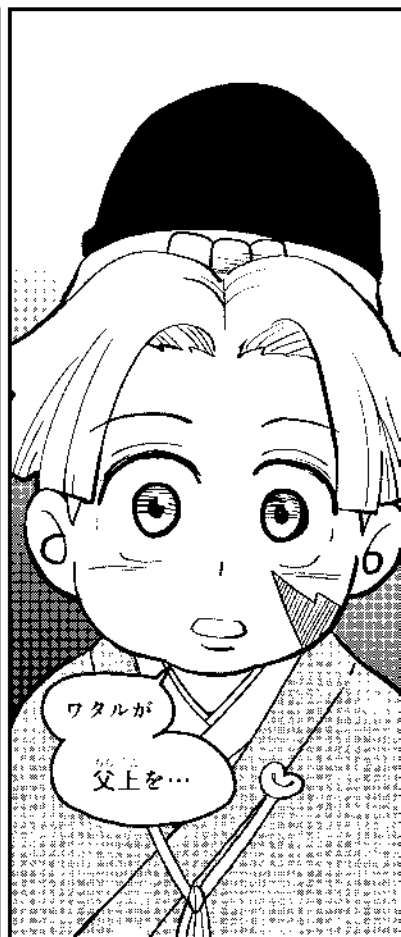
私はワタルを  
犬神様だと  
思っている

！

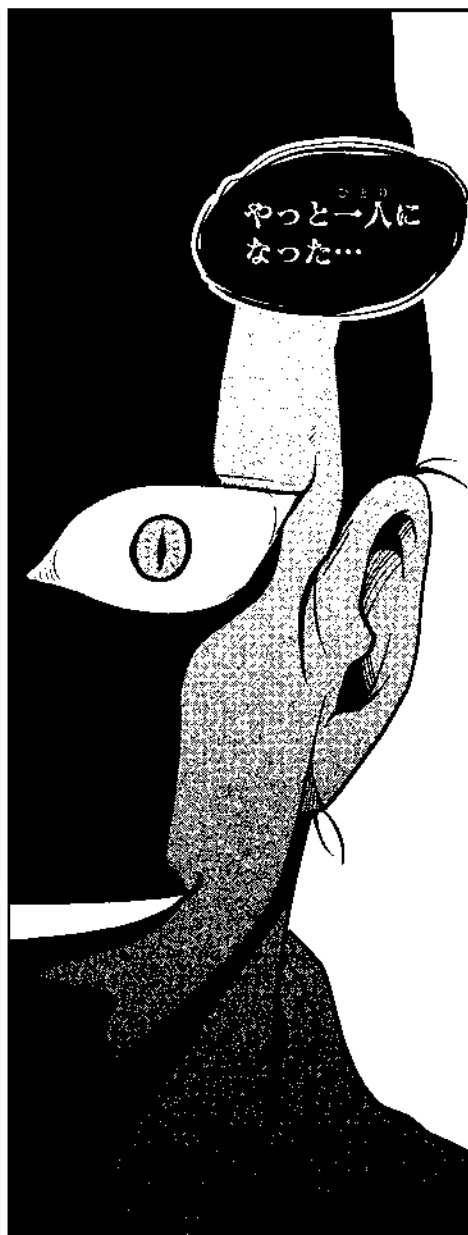
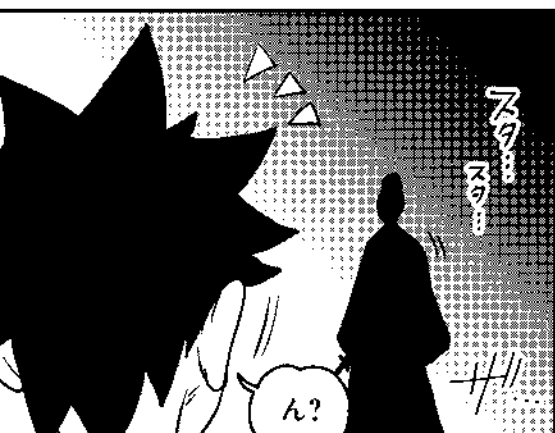
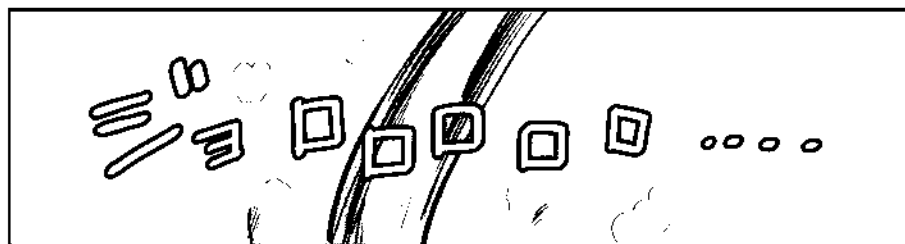


私が若き日  
今のお主ぐらいの  
少年に助けられた

その少年こそ  
ワタルだ



ワタルが  
父上を…





え

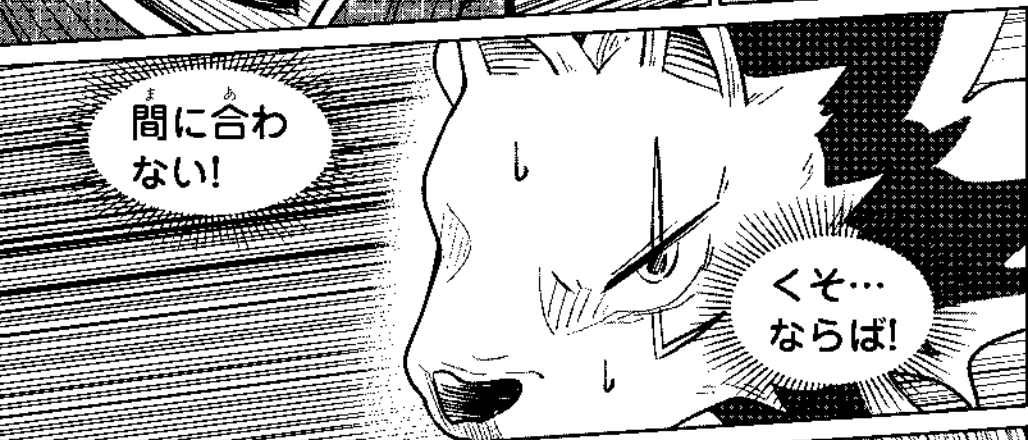
おまえは  
邪魔だ…

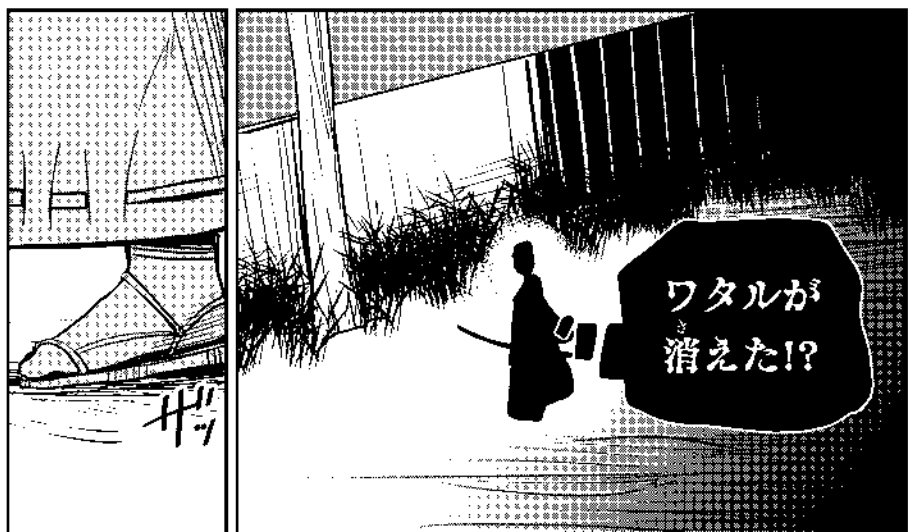
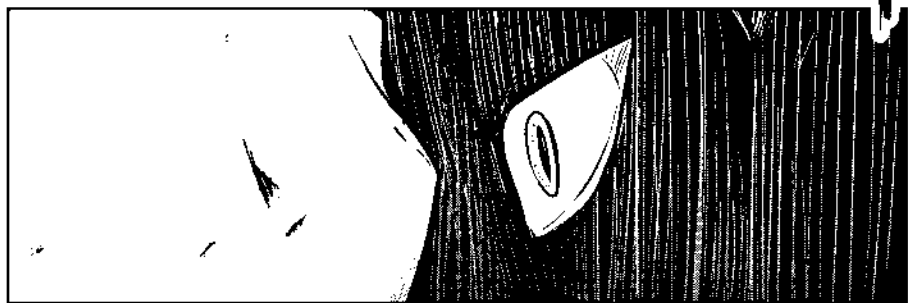
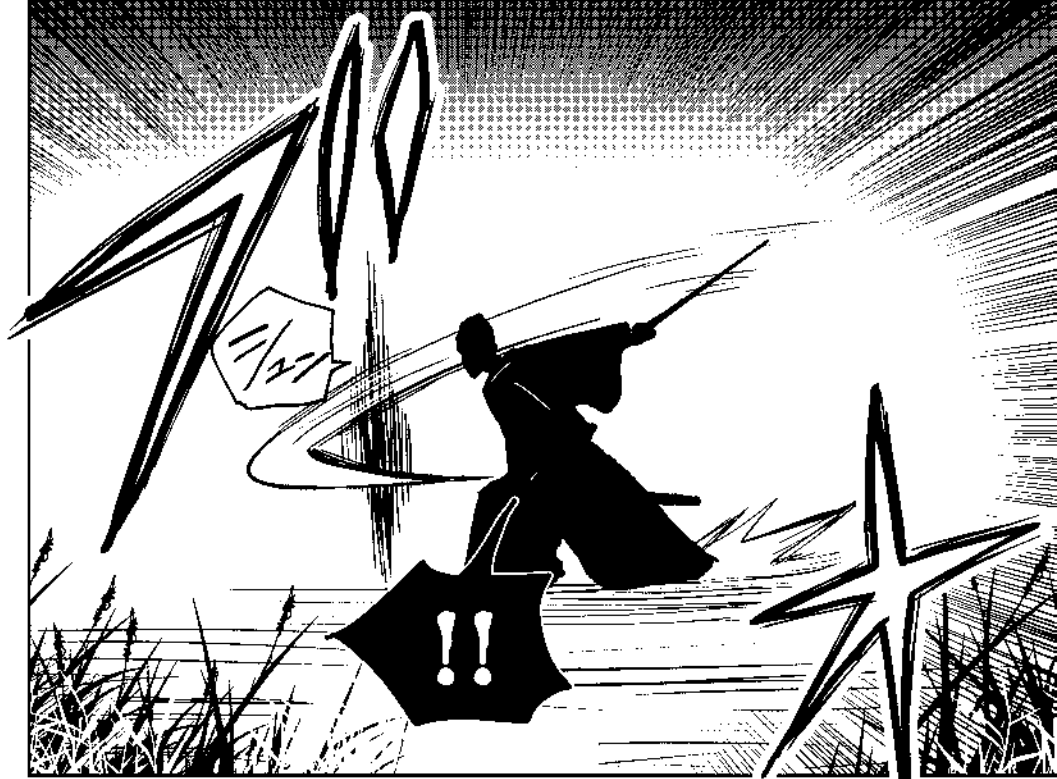
前は  
おまえのせいで  
悲惨な目にあった

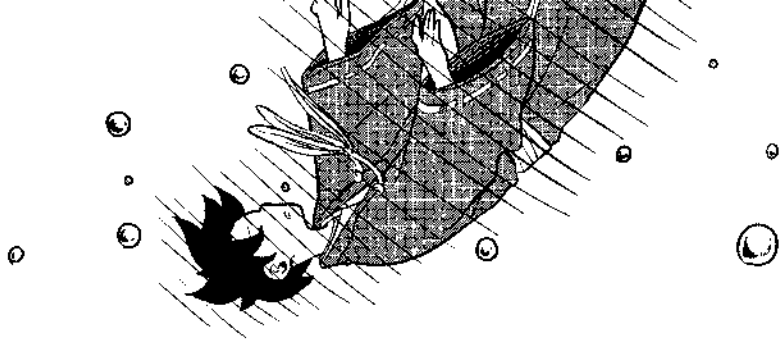
賢い私は  
先にワタル…  
おまえを始末する

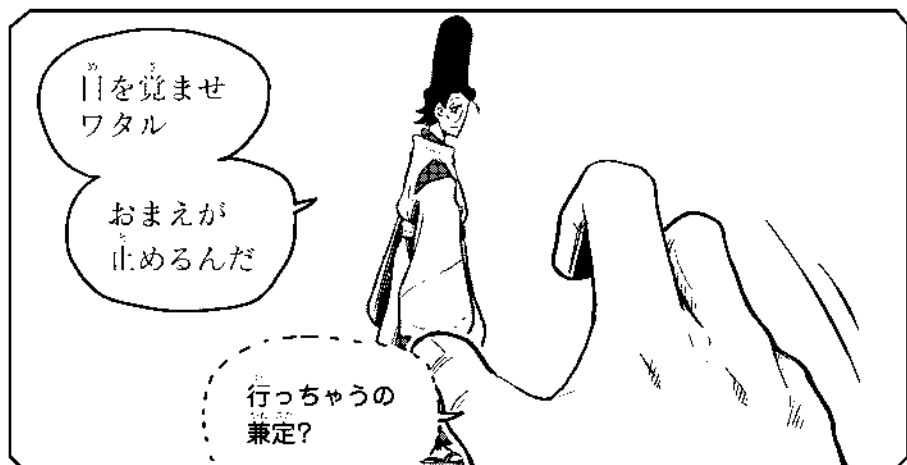


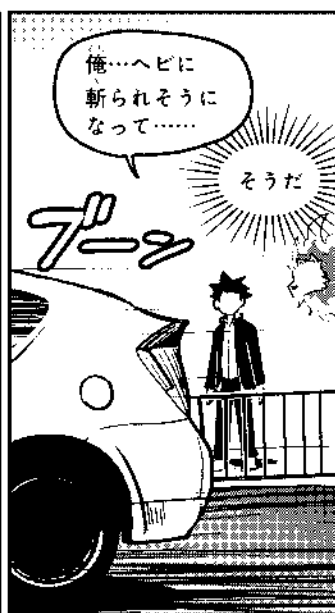
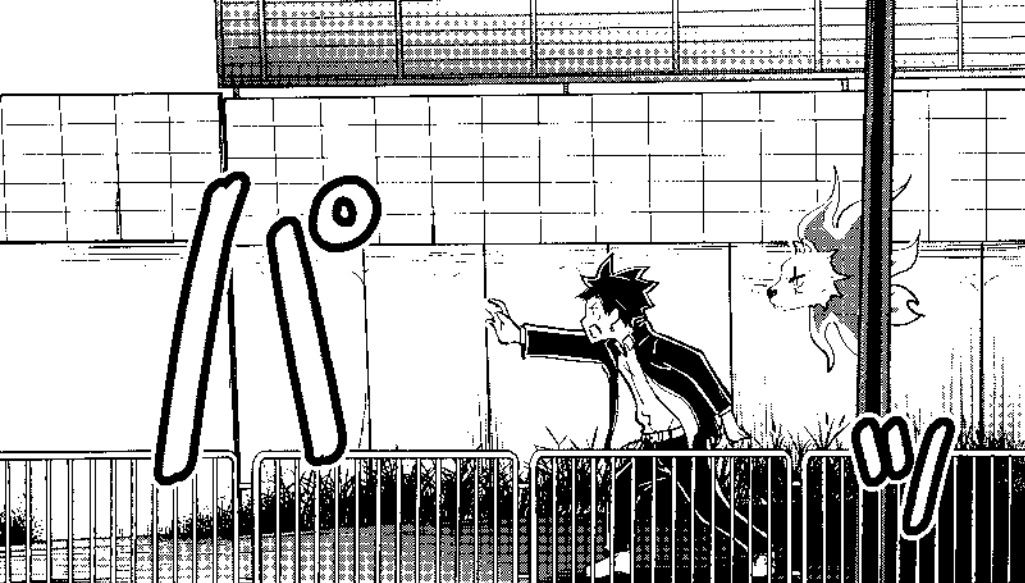
ワタル!















ゆめ かねさた  
夢に兼定が  
出てきたんだ



負の連鎖を  
止めなきゃ  
いけないって

おまえが  
止めるん  
だって



アイツ  
笑って言うんだ

俺のこと  
信じてるんだよ

だから絶対  
過去に戻る

へびを倒す!

…ちっ  
犬か

現代に  
戻ったな…

まあいい

犬も一度  
タイムスリップを  
すれば

しばらくは  
戻っては  
これまい…

邪魔者は  
消え失せた

ついに私の  
時代だっ…!

日根野には  
いつか仕返しを  
するが……

今の私の力では  
ヌルい……!

まずは  
力だ

京へ行く!

京では何度も  
合戦が行われた

時に南朝が  
時に北朝が  
攻めた

愚かな人間どもの  
憎しみが  
私に力を与える

裏切り 敵討ち  
憎しみ 憎悪

京には負の気が  
積み積みもっていた

人は醜き  
種族よ…

争え…争え…争え!!

つちまるじゆう  
土丸城

皆 耐えよ  
……!

上丸城は  
我らにとって  
重要な拠点

命を賭して  
守り抜け!

上丸城は  
熊取の雨山と  
上丸の城ノ山の  
全体にまたがる  
山城である

南北朝時代の  
山城というのは

山の地形を  
利用した  
簡素なものだった

なあ…  
この城はもう

守り切るなんて  
無理だぜ

何言ってるんだ  
お前!

どうせこの城は  
落ちて 殺される

それなら  
南朝方に降って  
助かる道が  
あるんじゃないか?

城主日根野様を  
裏切るといふのか!?

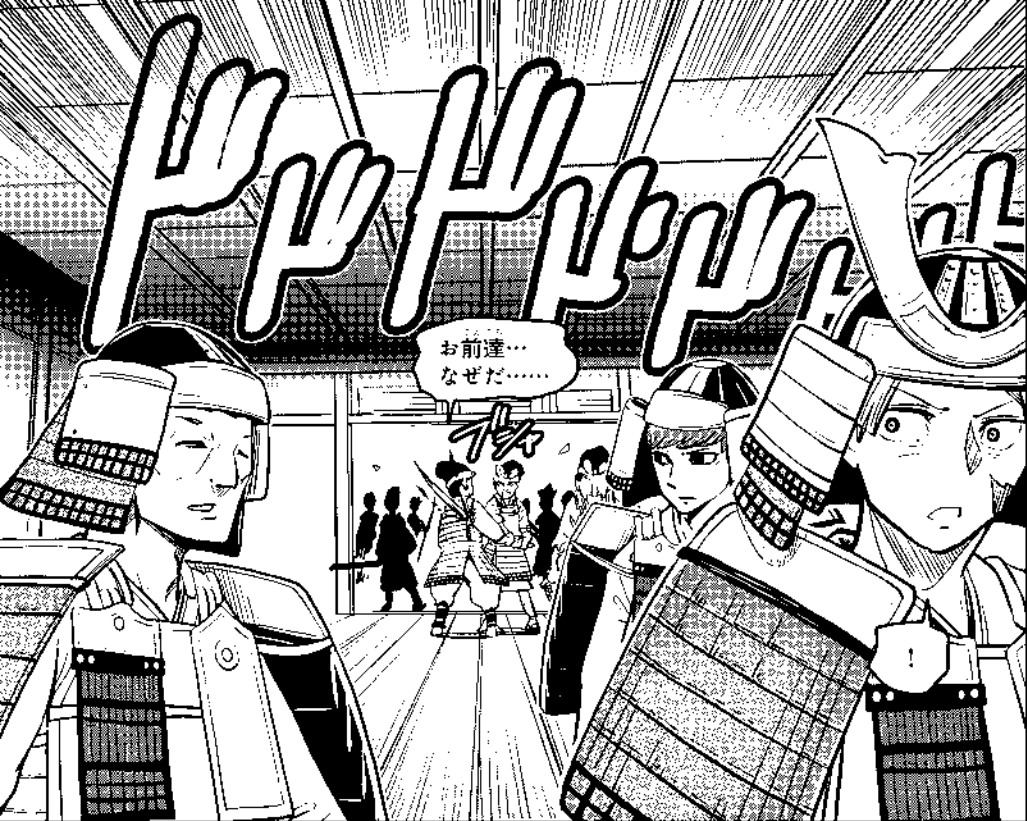
どうせ  
我らは捨て駒

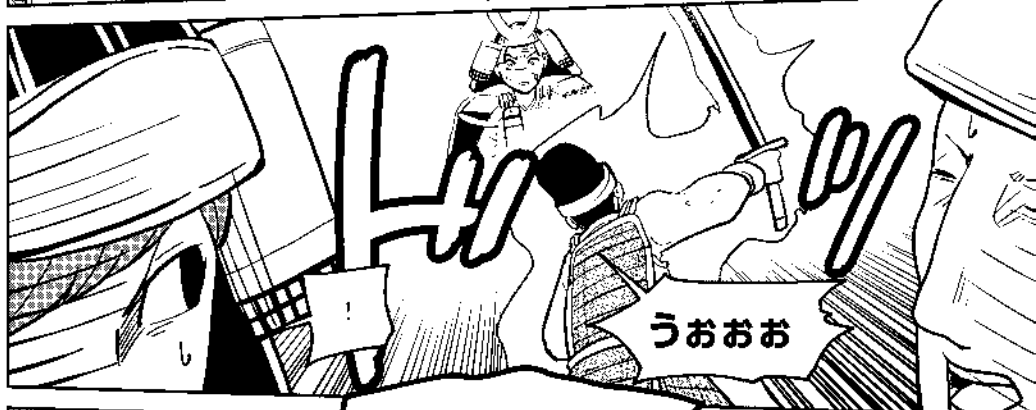
日根野時盛の首を  
南朝へ持てば  
恩賞を得られる

最後の  
チャンスだ

このまま駒として  
死ぬか…

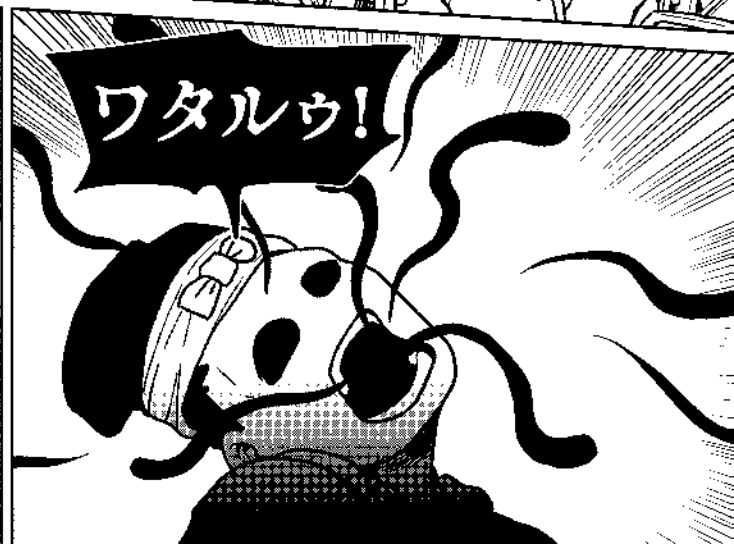
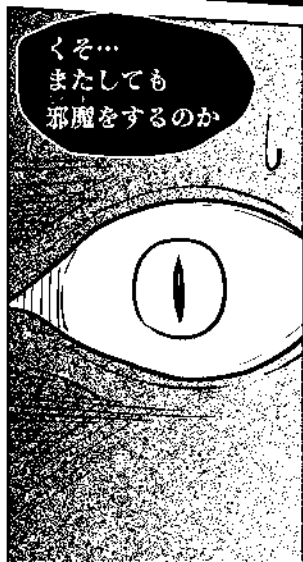
それとも…

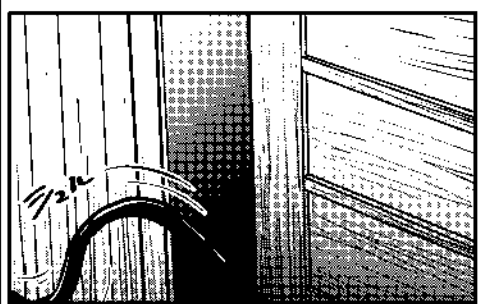


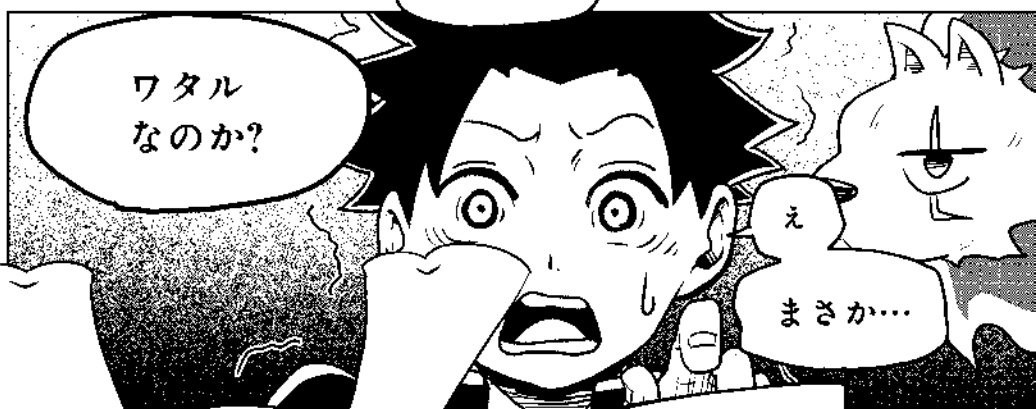
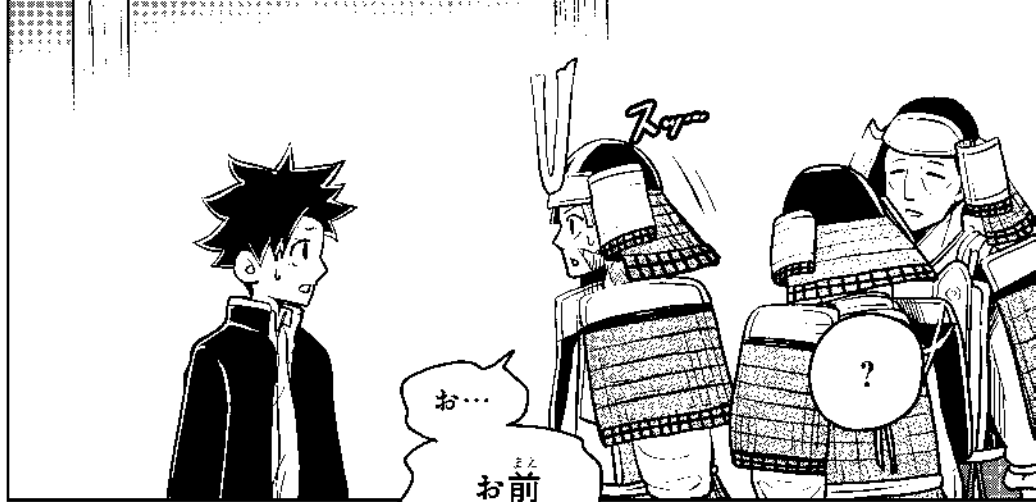




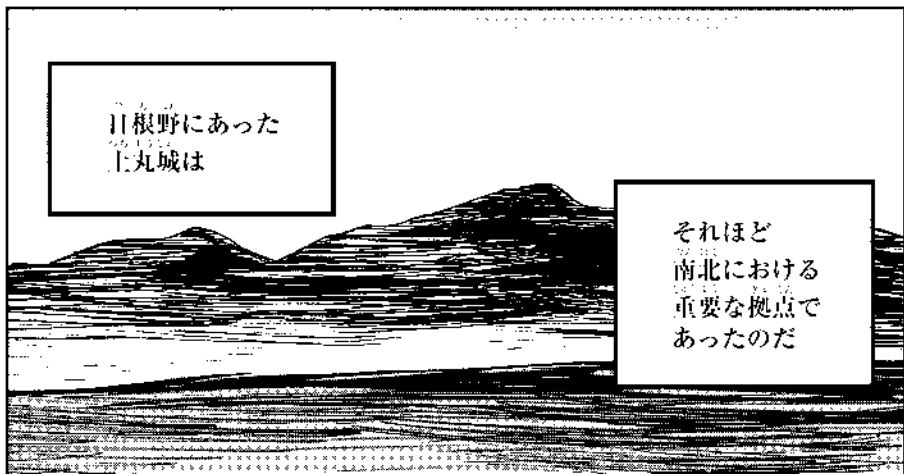








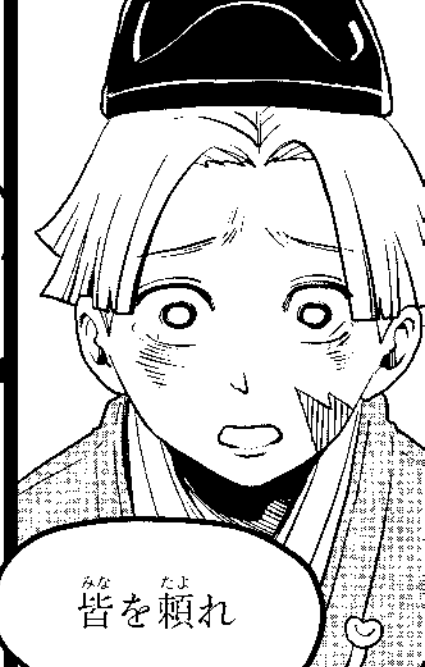








守るモノを  
間違えるな



みな  
皆を頼れ

お主は  
一人ではない



日根野の  
武士達を

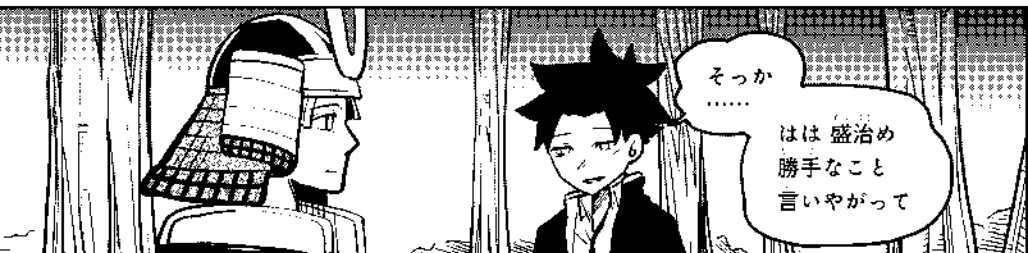
彼らがいれば  
お主は何度だって  
立ち上がる

そして  
本当の危機が  
訪れた時  
我が友



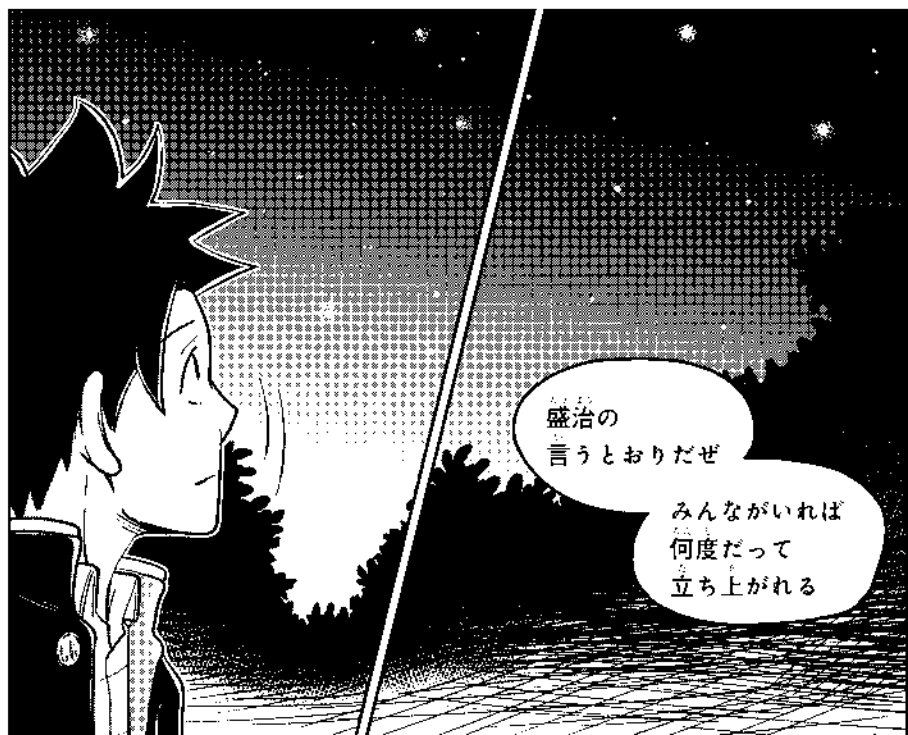
ワタルが助けに  
現れる……

父上はそう  
おっしゃられた



そっか  
……

はは 盛治め  
勝手なこと  
言いやがって



盛治の  
言うとおりにだぜ

みんながいれば  
何度だって  
立ち上がれる







京都へは  
何しに行くんだ?  
時盛



世話になっている  
畠山国清様に  
頼ったところ

上洛を  
求められたんだ

上洛川京都に行くこと



上丸城から  
落ち延びた  
白根野時盛は

北朝  
足利尊氏軍  
入洛の供をするため  
京都へ向っている



！ワタル  
へびの臭いだ

ワタル?  
どうした?



時盛…  
ここで別れ  
みたいだ



へビは  
隠れる気が  
ないらしい

この奥から  
へビの気配が  
漏れ出ている

震かもしれない



時盛の力を  
頼れない今

へビを倒すことは  
以前より一層  
困難となった



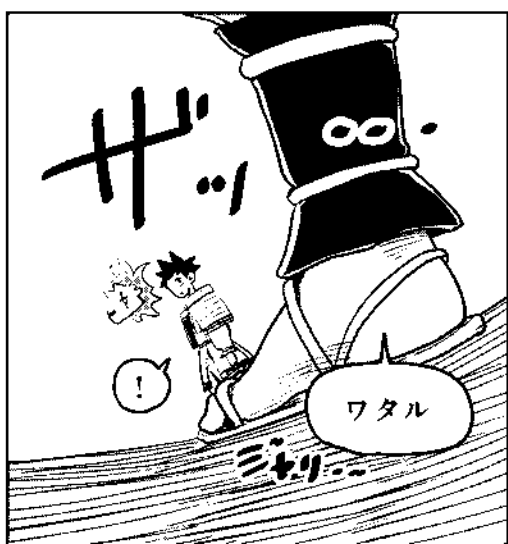
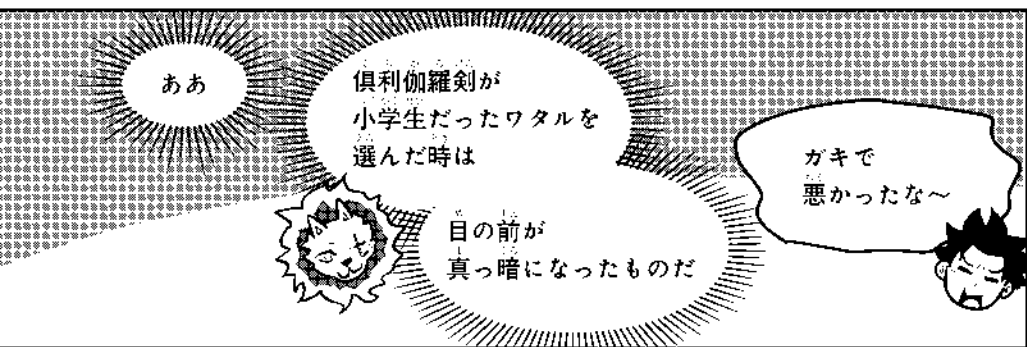
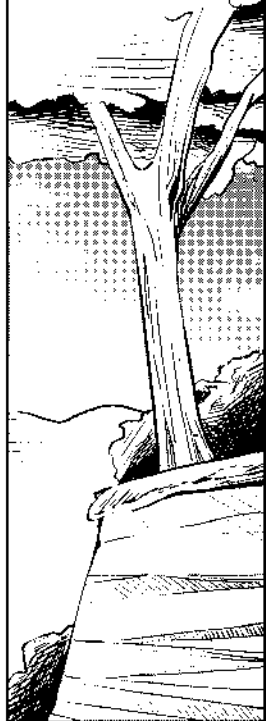
時盛は  
新たな道に  
進んだんだ

俺たちがその足を  
引っ張ることは  
できねえ



震だとしても  
行かないと

倒さなきゃ  
へビが望む  
世界になっちゃう





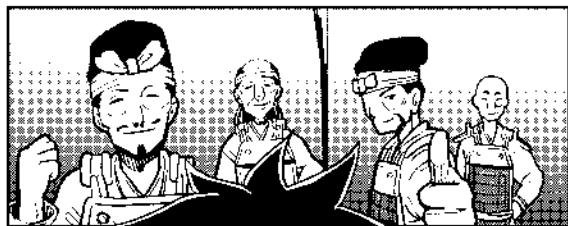
ときもり  
!時盛!?

水臭いじゃ  
ないですか〜  
ワタルさん



このへびを  
倒さねば  
大変なことに  
なるのだろうか?

一緒に戦おう



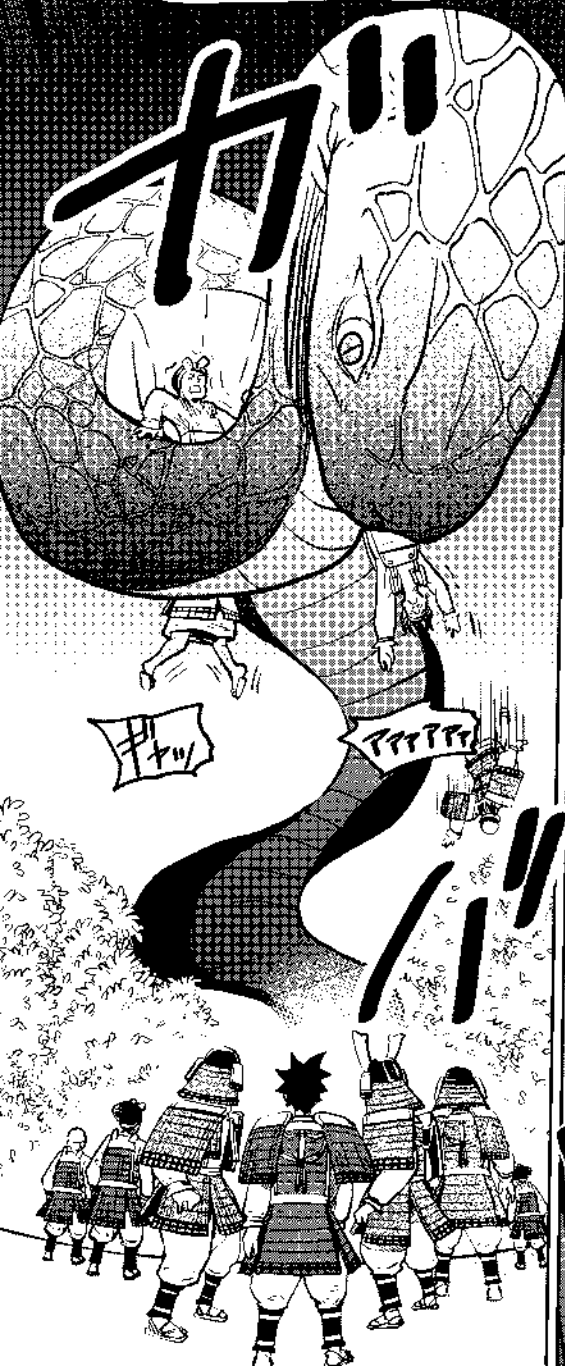
みんな…

くくく  
ゴゴゴ  
ゴゴゴ

人間は  
無意味なことを  
好むようだ

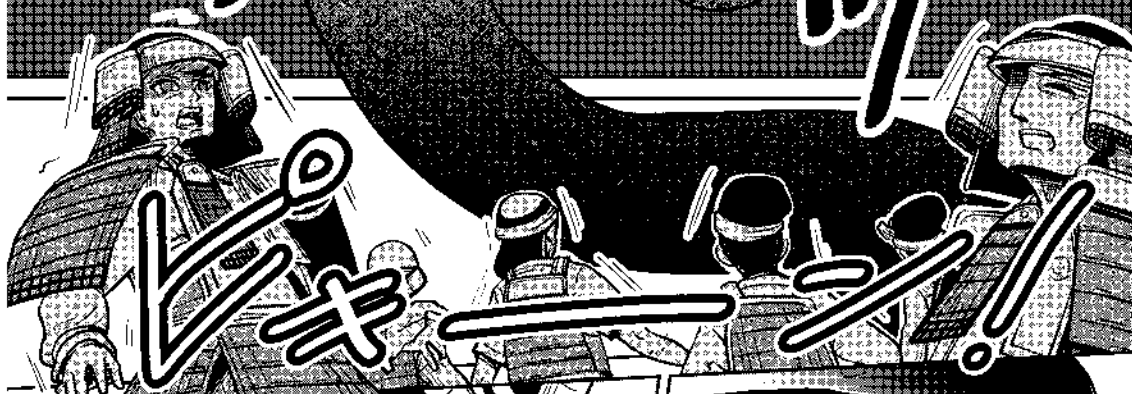
だ…<sup>だいじゃ</sup>大蛇!

その程度の  
人数で来たのか  
ワタル



<sup>じんじん</sup>人間ごときに  
この私が…

なめられた  
ものだなあ!



皆…!!  
どうしたんだ

ほお…時盛  
お前は動けるのか

やっかいたな…  
ならば…!

おまえから  
殺す…!!



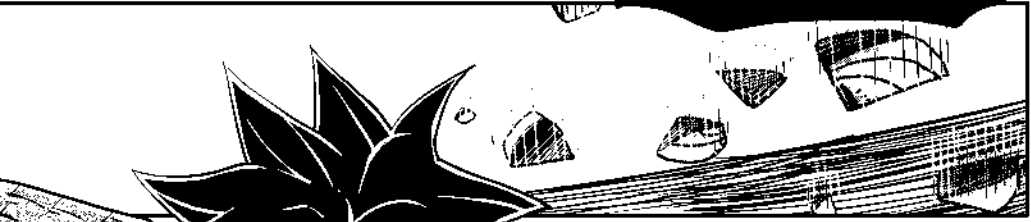
4/21



たい まりゅうけん  
退魔龍剣

しっぽう 七皇泉斬 いずみのきり

ガアアアアアア



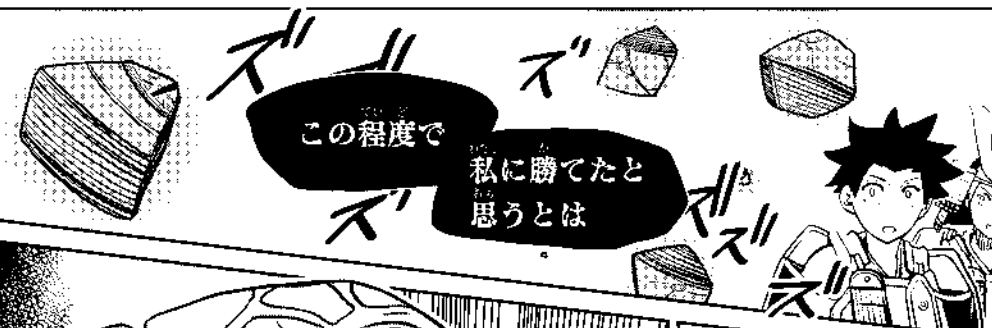
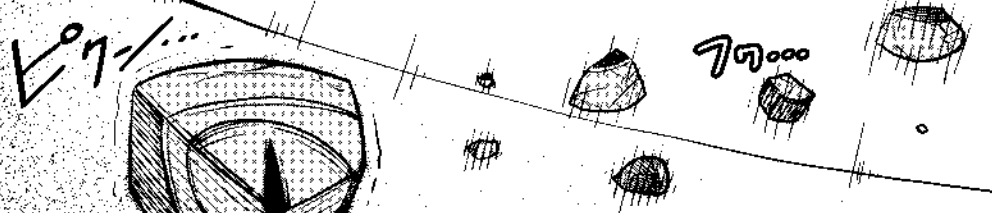
お前さ  
忘れてないか?

俺に1回  
やられてる  
んだぜ?



やったのか  
.....!?





この程度で  
私に勝てたと  
思うとは



人間は  
弱い!

私が一言  
囁けば

裏切り  
人間同士争う

下等種族



そんな人間に  
私を滅せるわけ  
ないであろう!

死ねえ  
ワタル

ぐう

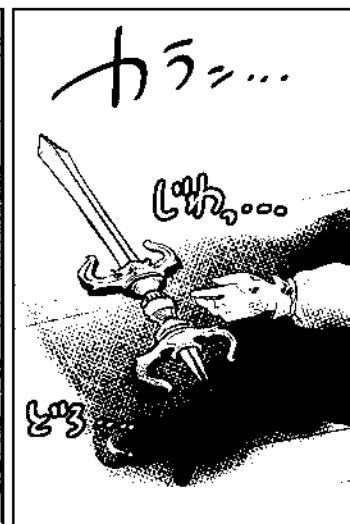
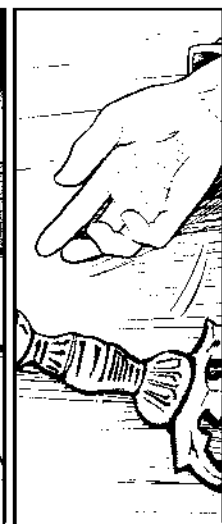
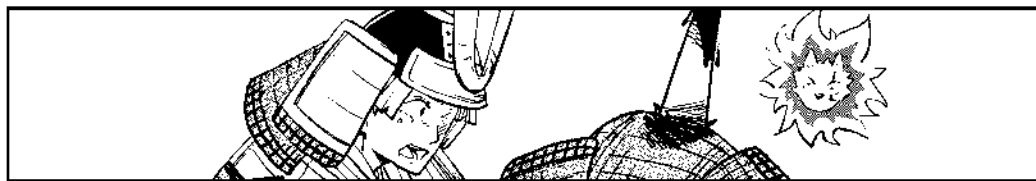
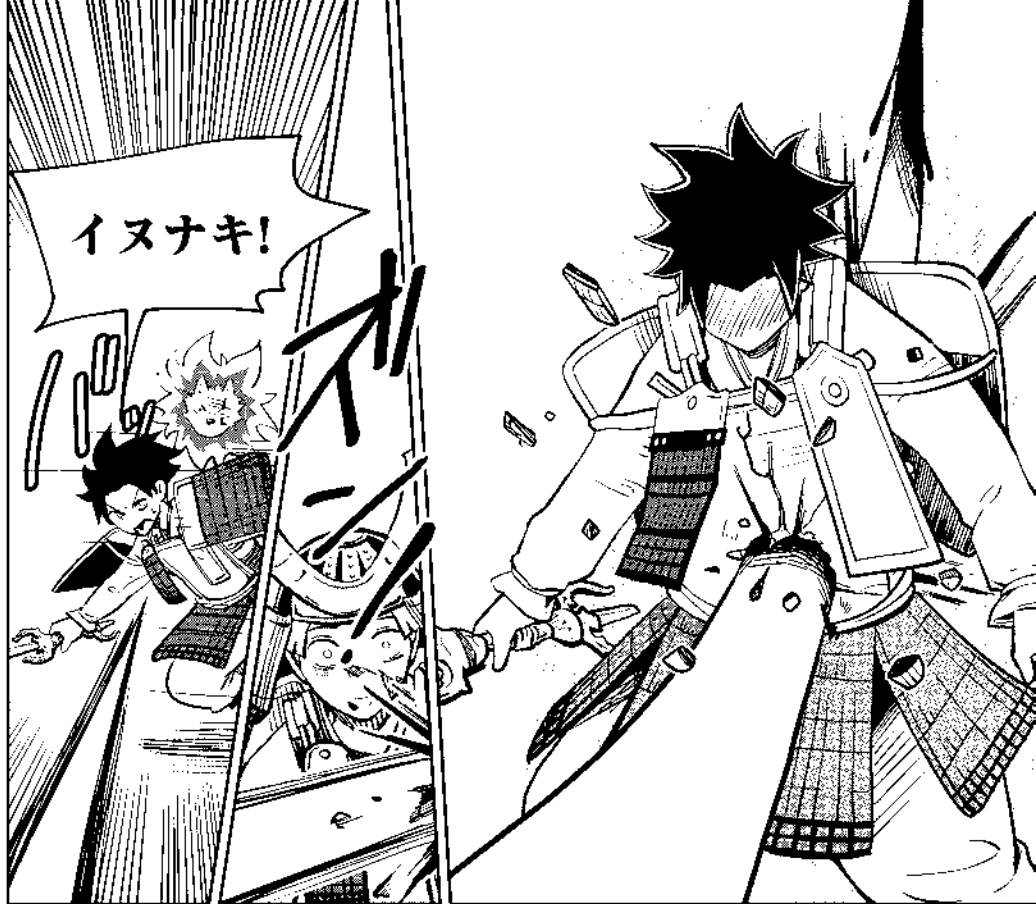
ワタル  
の  
後ろだ

うわあ

邪魔  
なんだよ

いぬ ちくしょう  
犬畜生があ

ち...





これは  
思わぬ収穫だ

犬め  
今度は主人を  
守れなかったな

俱利伽羅剣を  
扱えるワタルが  
いなくなった今

私は  
無敵だ!

もうへビは  
倒せない

俱利伽羅剣に  
選ばれたワタルが  
いなければ

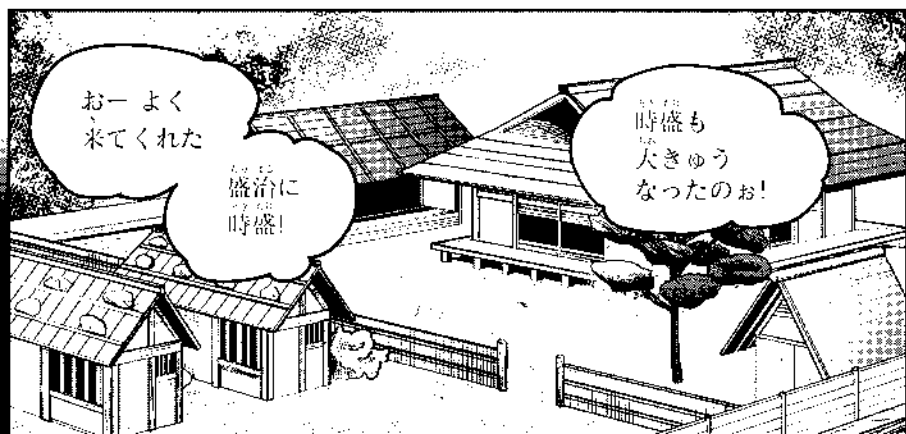


ワタール

コツン



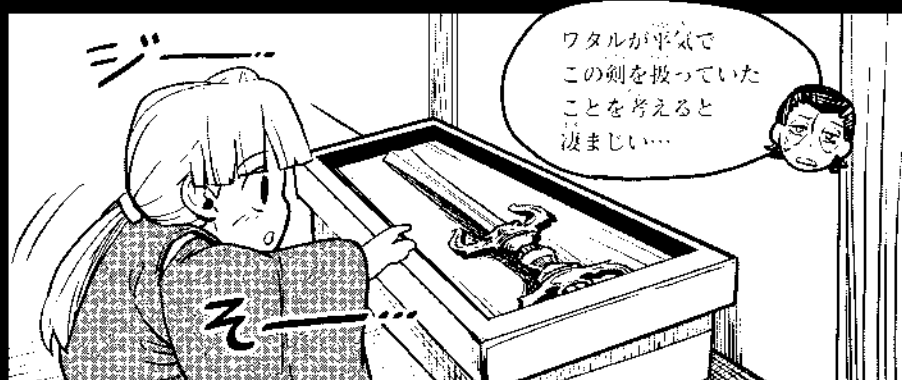
俱利伽羅剣…!



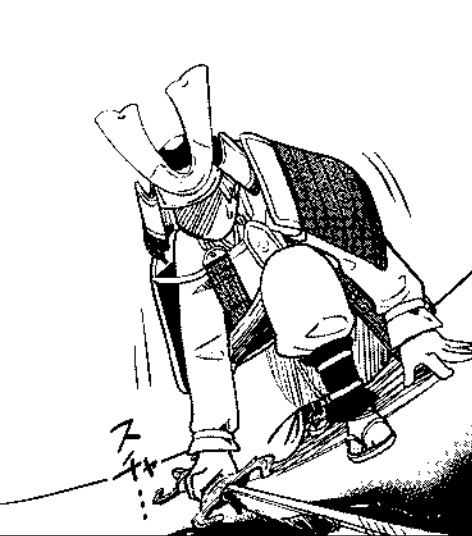
おーよく  
来てくれた

盛治に  
時盛!

時盛も  
大きゅう  
なったのお!







時盛…  
お主にその剣が  
扱えるかな？



無理だ…

俱利伽羅剣は  
選ばれて  
いない者には  
扱えない

俱利伽羅剣が  
断ち切り  
封印してきた  
人の負の気に  
やられてしまう



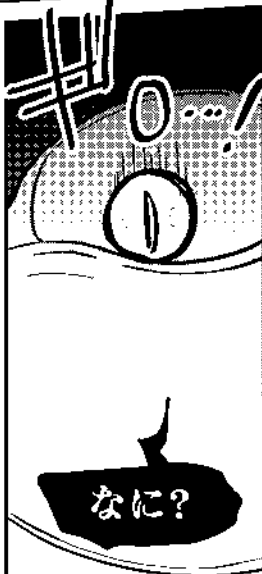
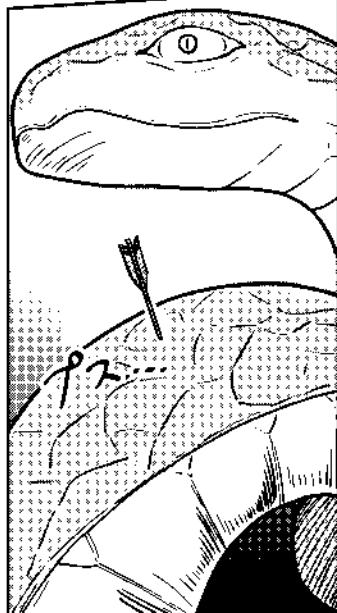
貴様らに  
私は倒せない

私という  
存在は

人の業の  
化身

私こそ人の  
正体なのだから

アッ！

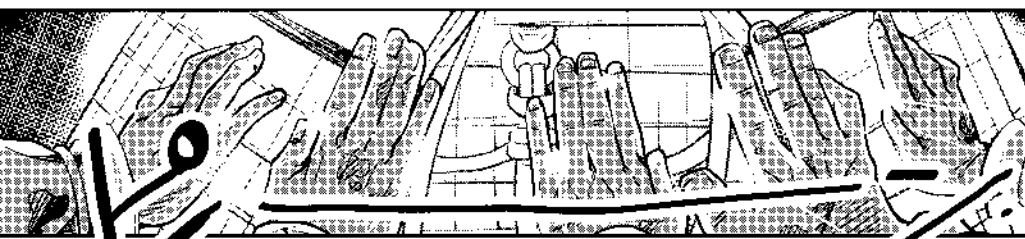




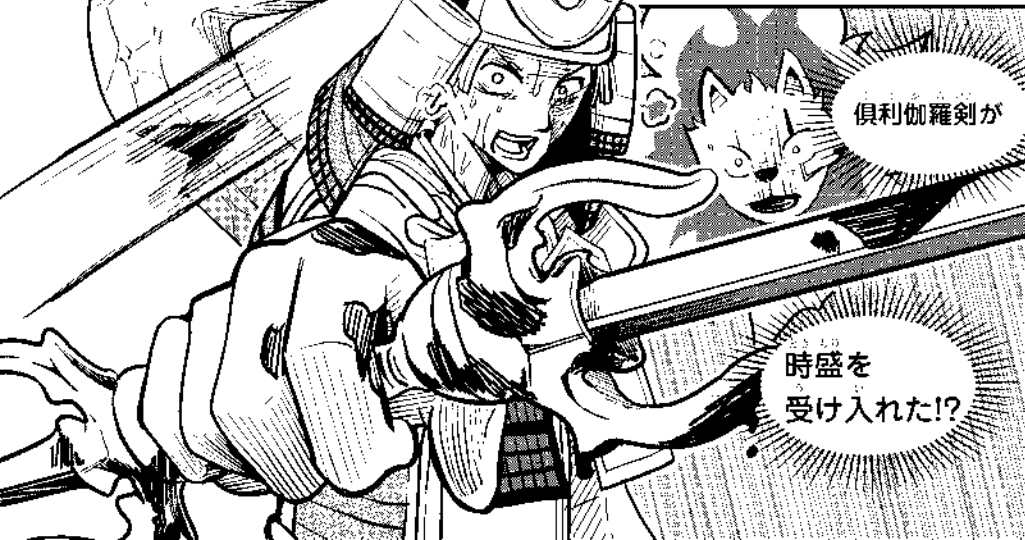
貴様ら  
なぜ動ける

時盛様  
負けるな

私達が  
ついてます

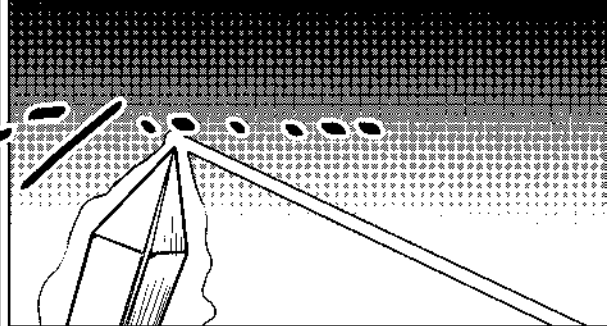


なに!?



俱利伽羅剣が

時盛を  
受け入れた!?



ワタルよ

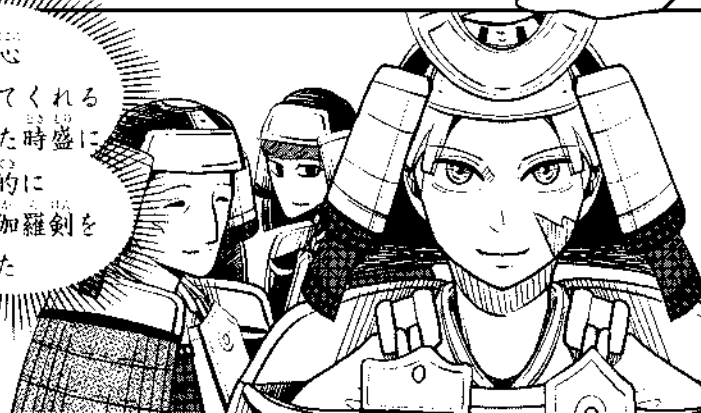
お主はもう  
おわりなのか？



この声って  
俱利伽羅剣を  
貸してくれた

不動明王…

強く優しき心  
そして支えてくれる  
仲間を持った時盛に  
一時的に  
俱利伽羅剣を  
託した



しかし  
一時的だ

!!  
時盛が  
.....

私が剣を託した  
少年ワタルよ

へビは言う...  
人間は弱いと

へビが言うように  
人が弱いのなら

私は人間を  
見限り...

俺はそう  
思わない

確かに  
みんな間違えるし  
弱いかもしれない

でも

兼定も盛治も  
日根野の人達も

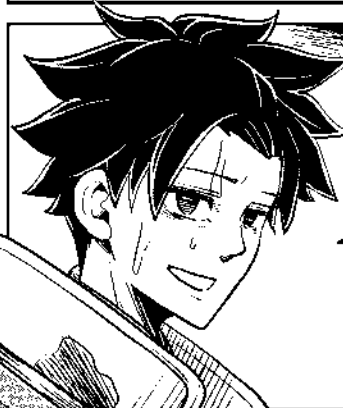
一生懸命  
生きてるんだ



傷は塞いだ

私は信じている  
主たち人の力を

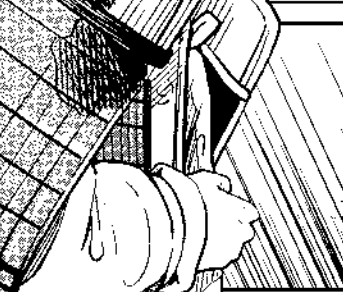
その答えが  
聞きたかった



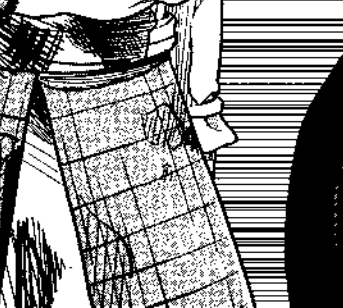
ありがとう  
時盛

ワ...

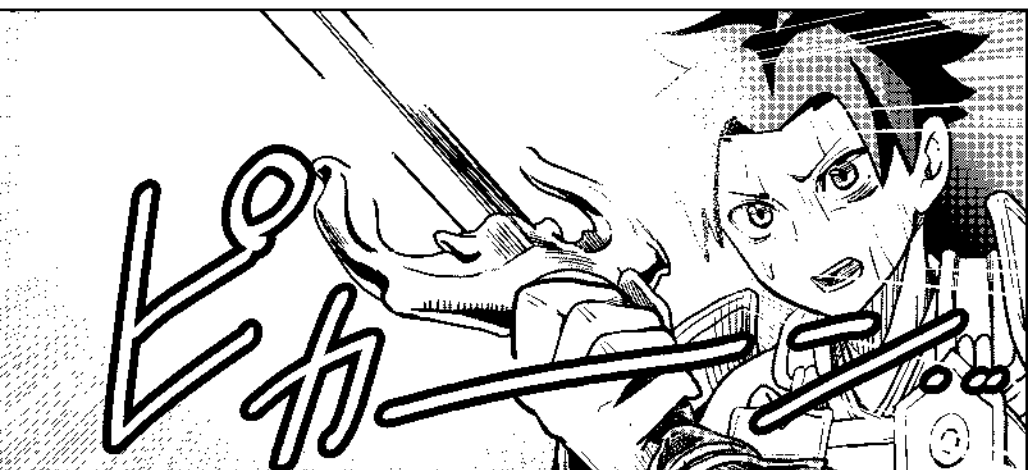
ワタル...



ワタル!



ワタルだと!?  
なぜ生きている!





行け…  
ワタル!!

たい まりゅうけん  
**退魔龍剣**

しっぽう

七宝



いずみの

泉ノ

だいげきりん

大逆鱗





グアアアアアアア

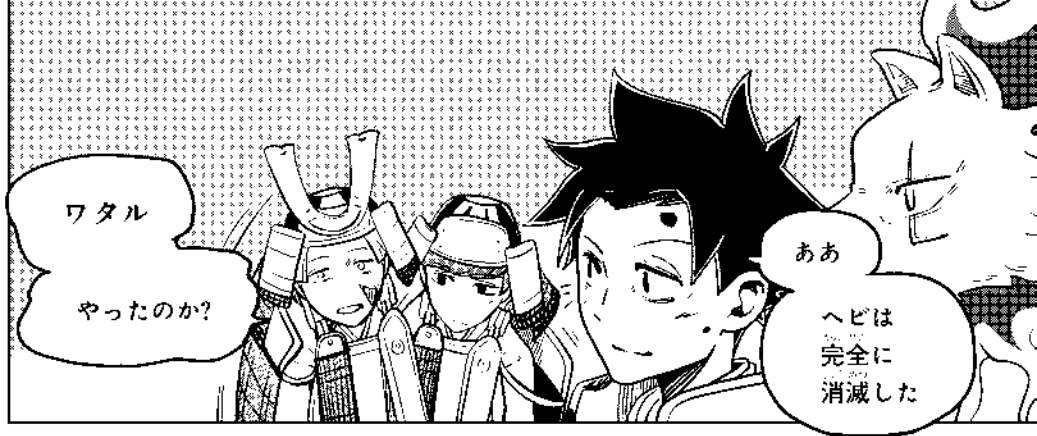
アアア



.....  
ワタル

お前…!

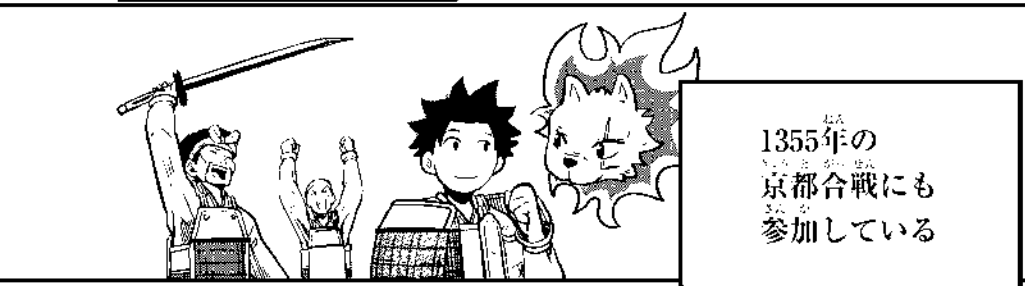




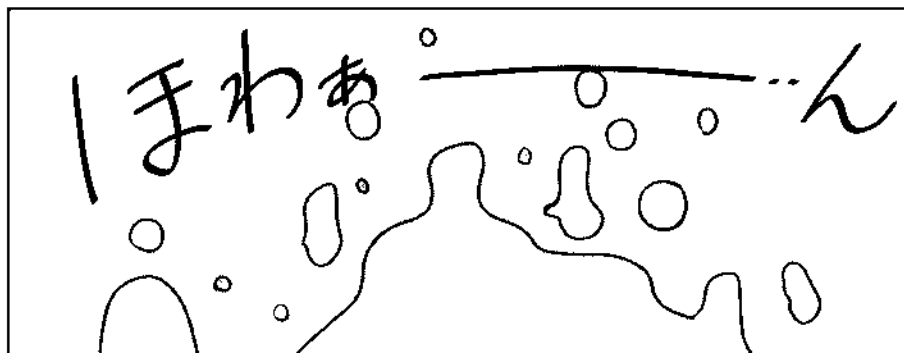


※勝鬨は戦いや勝負で勝ちを収めた時に上げる声。

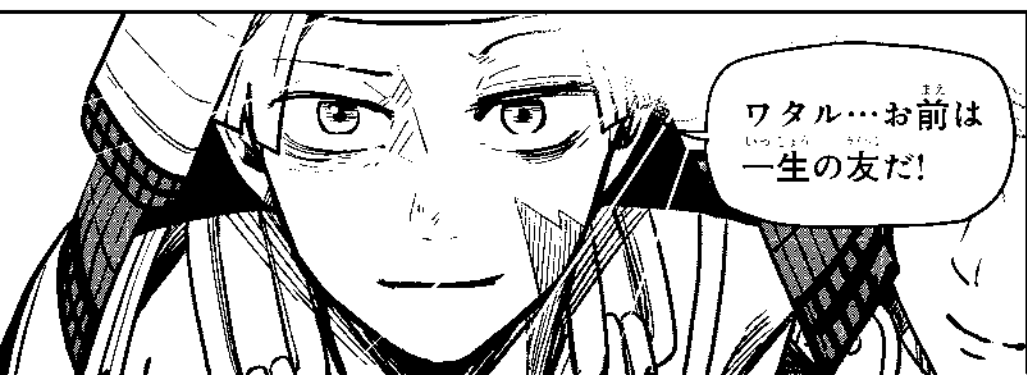
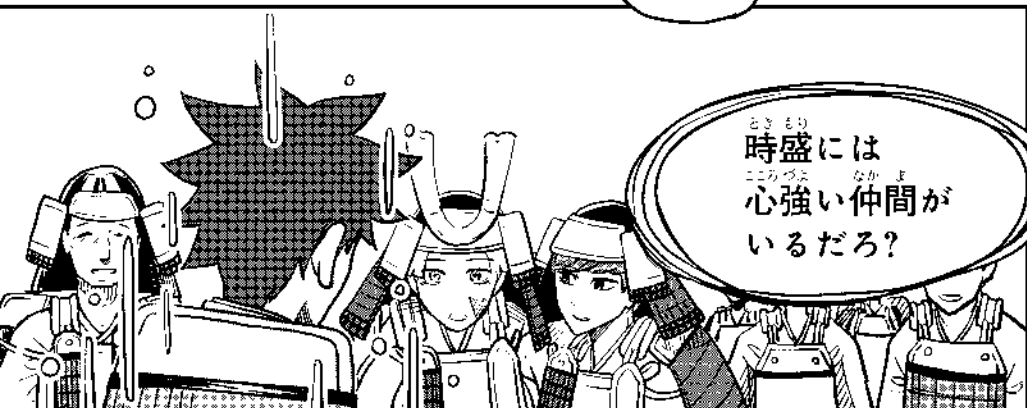
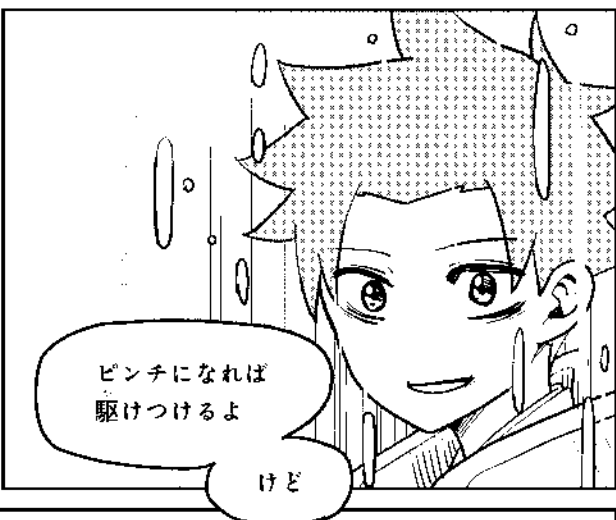
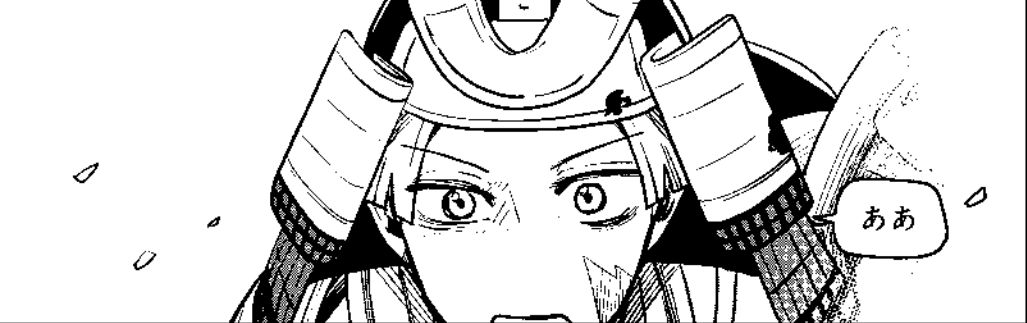
日根野時盛は  
この後も  
足利尊氏・義詮に  
従い各地を転戦し



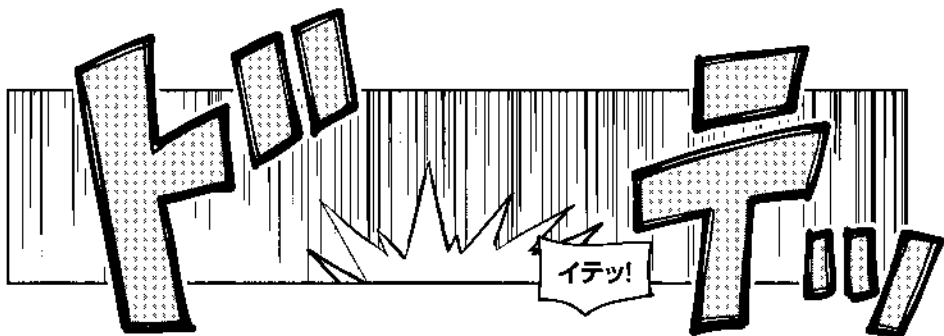
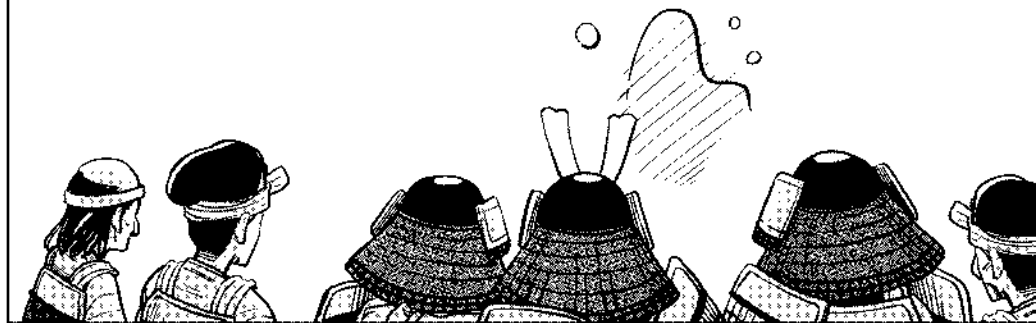
1355年の  
京都合戦にも  
参加している

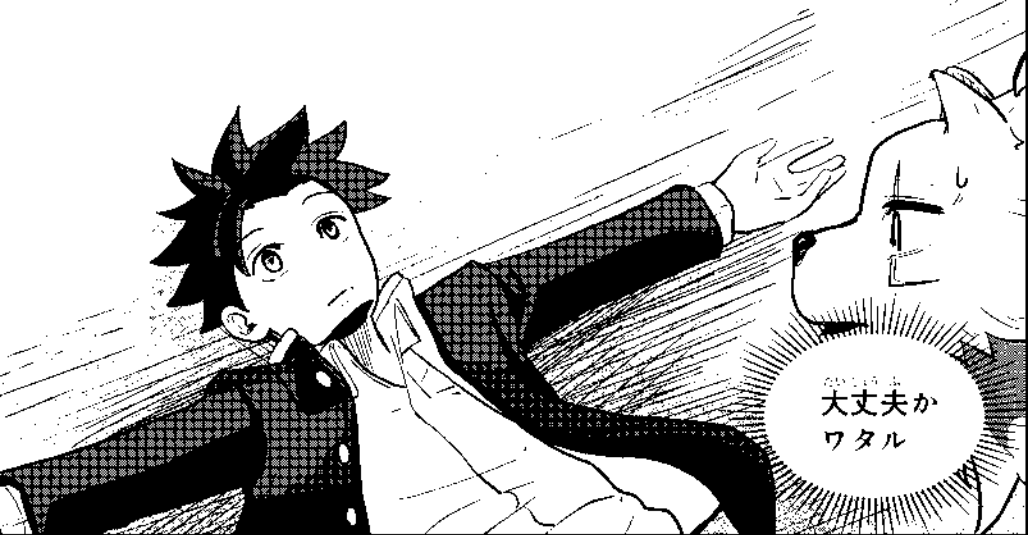







またな









いい  
けしき  
景色だ

〈おわり〉

## その後の日根荘

時盛はその後  
どうしたのかな？



実は、南北朝期の日根荘については、あまりよく分かっていないことが多いのですが、この物語にあるように、盛治、時盛の父子は北朝側について南朝との戦いで活躍しています。1353年に土丸城が南朝軍に取られ敗退した時盛は、鎌倉に  
いる畠山國清を頼り、足利尊氏に従って、京都での合戦に参加したという記録があり、日根荘を離れて転戦していたようですが、確かな事はわかっていません。中原氏は南北朝の内乱の直前から日根野氏を名乗るようになり、少なくとも内乱後には日根野村にもどっていますが、農民たちが村（惣村）としてまとまりはじめ、年貢も村から支払うようになるなど、以前の荘官としての役割を回復できないまま、幕府から任命された守護の細川氏の家臣となっています。

不知行（権利を所有、行使できない状態）となった九条家は日根荘を失ったわけですが、回復のために幕府へ働きかけます。1429年にようやく九条家の支配が回復されますが、荘園成立当初の半分の日根野村と入山田村（土丸・大木）に限られ、有力な寺僧などを代官に任命させて村から年貢などを集めるようになります。やがて根来寺勢の勢力が強くなり、根来寺僧が代官をする一方で、日根野氏がまとめる守護方と対立、さらに紀伊の畠山氏とも戦闘が多発し、1500年の戦闘により根来寺勢が後退すると年貢が九条家へ入ってこなくなります。そこで、九条政基が日根野へ向い直接支配に乗り出すことになります。このことについては、政基の日記「政基公旅引付」に詳しく書かれています。



### 「二枚の絵図」から泉佐野市の歴史を マンガライズするにあたって

この物語は、泉佐野市の歴史に、マンガらしい面白さでアレンジを加えたファンタジー作品です。源兼定、中原盛治、中原時盛や実専など実在した人物をモデルにしていますが、彼らの行動を忠実に再現した訳ではありません。彼らは史実に裏付けのない行動をし、現代を生きる人と同じような感情表現もします。マンガ作品として、そんな彼らとワタルの冒険バトルを楽しんでください。



## 【日根荘関係年表】

## 【日本史年表】

平安時代

- 1167 平清盛が太政大臣となり平氏が栄える  
1185 源氏が平氏を壇ノ浦の戦いで滅ぼす

- 1205 高野山の僧侶阿 日根野荒野などの開発を試みるが失敗  
1222 高野山の僧 再度日根野荒野などの開発を試みるが失敗  
1233 中原盛実 長瀧荘荘官となる  
1234 九条家領日根荘成立  
1266 九条家政所 中原盛経を日根荘井原村の預所職に任命  
1272 九条家政所 中原盛経を日根荘入山田村の預所職に任命  
1310 備実寺（実行上人）九条家から日根野村・井原村の開発を請け負う  
（この頃に日根野村・井原村絵図が描かれる）  
1316 久米田寺 九条家から日根野開発を請け負う  
1325 中原盛治 四条局から長瀧荘荘官職を相続する

鎌倉時代

- 1192 源頼朝が征夷大将軍となる（鎌倉幕府）  
1221 承久の乱 朝廷を監視する六波羅探察を設置する  
1274 文永の役 元が北九州に攻めてくる（元寇）  
1281 弘安の役 元が再び北九州に攻めてくる（元寇）  
1333 鎌倉幕府が滅ぶ

- 1336 日根野道悟（中原盛治）畠山国清の樫井城挙兵に参加  
足利尊氏 九条家領での武士の乱の停止を命じる  
1347 北朝方守護高師泰が日根野道悟（盛治）に土丸城警固を依頼  
1359 足利義詮 日根荘での乱の停止を命じる  
1375 土丸城主の南朝橋本正督が幕府に投降  
1379 橋本正督 守護方山名氏清に敗れ戦死

南北朝時代

- 1334 後醍醐天皇が建武の新政を始める  
1336 後醍醐天皇側の南朝と足利尊氏側の北朝とが対立する  
1338 足利尊氏が征夷大将軍となり京都に室町幕府を開く  
1368 足利義満が第3代将軍になる

- 1403 足利義満 日根荘を九条家へ返還する処置をとる  
1410 和泉国守護細川頼長 入山田村の半分を建仁寺永源庵へ寄進  
足利義持 日根荘返還を命じるが実現せず  
1417 日根荘で百姓請  
1420 九条家の支配回復 代官派遣を相国寺鹿苑院に委ねる  
1429 日根野村・入山田村が九条家支配になる  
1431 十二谷下池の分水・管理について  
日根野村・井原村・檀波羅蜜寺が契約を結ぶ  
1457 日根野秀盛ら泉南の國人9名が一揆の契約を結ぶ

室町時代

- 1392 足利義満が南北朝を統一する  
1397 足利義満が金閣を造営する  
1402 足利義満が倭寇を禁止する  
1404 勘合貿易が始まる  
1429 琉球王国が建国する  
1457 蝦夷地においてコシャマインの戦いがおこる

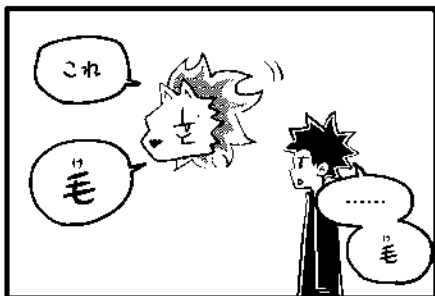
- 1490 根栗衆 井原村を占拠し九条家に日根荘代官職を要求  
1501 九条政基が日根荘で直接支配を行う（政基公旅引村が記される）  
村人の山入り、山ごもりが行われる  
1504 根来寺の僧が日根荘の代官となり、九条政基は帰京する  
1516 九条政基死去  
1533 日根荘から九条家へ段銭が送られた最終の史料

戦国時代

- 1467 応仁の乱がおこる  
1485 山城国一揆がおこる  
1488 加賀の一向一揆がおこる  
1489 足利義政が銀閣を造営する  
1489 北条早雲が小田原城を奪う  
1543 ポルトガル人が種子島に漂着し鉄砲を伝える  
1549 フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える

しち  
「七」

け  
「毛」



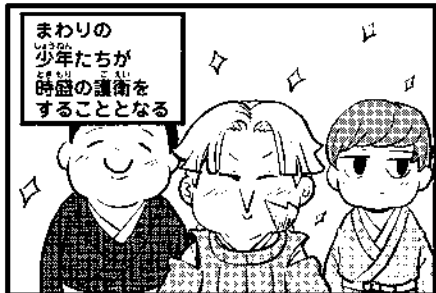


きず  
「傷」

おとな  
「大人」

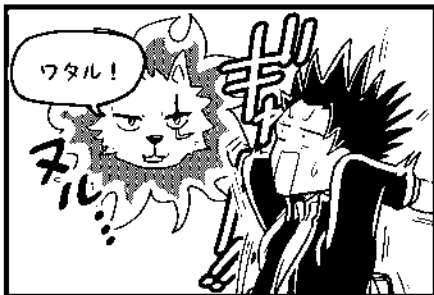


※乳母とは母親に変わり子育てをする女性のこと



みず  
「水なす」

す  
「めぐり好き」



## 主な参考図書・資料

- 新修泉佐野市史 第1巻 通史編 自然～中世 2008年 泉佐野市史編さん委員会編 清文堂出版
- 新修泉佐野市史 第4巻 史料編 古代・中世Ⅰ 2001年 泉佐野市史編さん委員会編 清文堂出版
- 新修泉佐野市史 第5巻 史料編 中世Ⅱ 2004年 泉佐野市史編さん委員会編 清文堂出版
- 泉佐野市史復刻版 柴田実編 1989年（1958年初版） 泉佐野市役所
- ふるさとの中世-日根荘の人々- ふるさとの中世編集委員会編 1995年 泉佐野市今日職員組合 泉佐野の歴史と今を知る会
- 日根荘・日根絵図の研究 日根研究会・歴史館いずみさの編 2012年 歴史館いずみさの
- 絵図にみる日根の世界 小山靖憲・佐藤和彦編 1987年 東京大学出版会
- 日根荘の歩み 井田寿邦著 1991年 大阪春秋（第23巻 第3号）掲載 大阪春秋社
- 丸糸家頼和泉日根荘と醍醐源氏 永松圭子著 2020年 ヒストリア（第281号）掲載 大阪歴史学会
- シンポジウム 日根荘総合調査が語るもの-中世日根世界の解明をめざして- 大阪府埋蔵文化財協会編 1991年 大阪府埋蔵文化財協会
- 歴史館いずみさの 常設展示案内 歴史館いずみさの
- 旅引付と「萩の絵図が伝えるまち 日本遺産いずみさのガイドマニュアル」 2020年 日本遺産日根荘推進協議会
- 旅引付と「萩の絵図が伝えるまち-中世日根荘の風景-」 2020年 日本遺産日根荘推進協議会
- 日根道産 日根荘ガイドブック 2015年 泉佐野市教育委員会教育総務課
- 図解武器と甲冑 樋口隆晴・渡邊信吾著 2020年 ワン・ハブリッキング
- 隠れた名城日本の山城を歩く 小和田哲男監修 2020年 山川出版社
- 太平記 上中下 マンガ日本の古典 18～20 さいとう・たかを著 2000年 中公文庫
- 東大教授が教える日本史をつかむ図鑑 山本博文監修 2020年 二見書房
- 教科書よりやさしい日本史 石川晶康著 2010年 旺文社
- 日本史の要点整理 野島博之監修 2013年 学研ワラス

泉佐野歴史ファンタジーシリーズ1  
日根荘物語～意思を継ぐ者達～

2021年3月31日発行

マンガ作画 松野義巳  
監修 井田寿邦 廣田浩治  
企画・編集・記事 三河かおり

装丁・レイアウトデザイン 稲葉さゆり

発行者 日本遺産日根荘推進協議会  
〒598-8550 大阪府泉佐野市市場東1丁目295-3

事業名 令和2年「観光拠点整備事業」

印刷所 豊国印刷株式会社

製本所 豊国印刷株式会社

